#### **COMPOSITE FUNCTION DEVICE**

Publication number: JP7038686

Publication date:

1995-02-07

Inventor:

TASHIRO HIROHIKO; ASAI HIDEHIKO; HIRAYU

MICHIKO; KANAZAWA TOSHIYA

Applicant:

CANON KK

Classification:

- international:

G03G21/00; G03G15/36; H04N1/00; G03G21/00;

G03G15/36; H04N1/00; (IPC1-7): H04N1/00;

G03G21/00; H04N1/00

- European:

Application number: JP19930226591 19930723 Priority number(s): JP19930226591 19930723

Report a data error here

#### Abstract of JP7038686

PURPOSE:To obtain a device making automatic clearing to each of plural functions by adding the selection clear mode to an automatic clear means in addition to the all clear mode and initializing automatically only the designated function. CONSTITUTION:When no operation is conducted to a device connecting to an external device having various functions for constant time, only the set function is automatically cleared, and after clear is conducted, the fact that automatic clearing is made is displayed on a display section 301 of a reader section 1 for prescribed time. The display section 301 becomes a surface touch panel and acts as a selection key by touching the surface and either the all clear mode or the selection clear mode is selected. Thus, the automatic clearing processing by the composite function is conducted distinguishingly.

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(19)日本国特許庁 (JP)

Þ 噩 菲 哻 D

<u>2</u>

概(A)

(11)特許出顧公開番号

特開平7-38686

(43)公開日 平成7年(1995)2月7日

技術表示箇所

(51) Int CI. H04N G0 9 G 21/00 5 106 加斯記号 Ħ 7232-5C 2107–2H 7232-5C **广内蓝理番号** FΙ

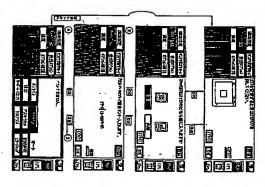
唐査請求 未請求 請求項の数4 FD (全85頁)

(22)出版日 (21)出資番号 平成5年(1993)7月23日 特別平5-22659 (71)出頭人 000001007 (72) 発明者 (72) 発明者 (72) 発明者 (74)代期人 **井理士 大塚 康徳** 找井 英彦 田代、指旗 平语 三知子 キャノン株式会社 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 **权东部大田区下丸子3丁目30番2号** 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 ノン株式会社内 ノン株式会社内 ノン株式会社内 (外1名) 母件耳に按く

# (54) [発明の名称] 複合機能装置

装置を提供するにある。 クリアを行なうことができる複数機能を付加可能な複合 【目的】 複合機能に対しての機能毎に分けてのオート

示する。そして、上記クリアは、複数の機能の全てを自 能のうち指定された機能のみを自動初期化する選択クリ 動初期化処理するオールクリアモードと、前記複数の概 す画面を表示する。その後予め指定された設定画面を表 行後所定時間表示手段に自動クリアが行われたことを示 していた機能を自動的にクリアするとともに、クリア実 作手段とを備え、一定時間操作が行なわれないと、設定 能な複数の機能実行手段による実行機能を設定可能な操 表示手段を有するリーダ節1に装置に付加可



【特許請求の範囲】

の機能実行手段と、核複数の機能実行手段による実行機 能を設定可能な操作手段とを備える複合機能装置であっ 【請求項1】 表示手段と、複数の機能を実行する複数

動的にクリアする自動クリア手段と、 定時間操作が行なわれないと、設定していた機能を自

段に自動クリアが行われたことを示す画面を表示するク リア実行表示手段と、 前記自動クリア手段による自動クリア実行後前記表示手

0

段とを組え、 段に予め指定された股定画面を表示する股定画面表示手 前記自動クリア手段による自動クリア実行後前記表示手

期化処理するオールクリアモードと、前記複数の機能の ードとを含むことを特徴とする複合機能装置。 うち指定された機能のみを自動初期化する選択クリアモ 前記自動クリア手段は、前記複数の機能の全てを自動初

る画像出力手段とを含む画像形成手段と、 する画像入力手段と、画像データを可視像として出力す 【荫求項2】 更に、画像を画像データに変換して入力

他の情報処理装置と接続するためのコンピュータインタ シミリ道信手段と、 通信媒体を介して他装置とファクシミリ通信するファク

#

#

#

るプリンタフォーマッタ手段と、 コード化された画像情報をピットマップデータに展開す

記載の複合機能装置。 は複数任意に付加可能とすることを特徴とする請求項1 する画像検索手段とを含む画像ファイル手段を1つまた 画像記憶手段と、該画像記憶手段に記憶した画像を検索

備えることを特徴とする複合機能装置。 モードとのいずれかを選択できる実行モード選択手段を 自動クリア手段によるオールクリアモードと選択クリア 【請求項3】 請求項1記載の複合機能装置において、

する複合機能装置。 を選択できる表示モード選択手段を備えることを特徴と クリア実行表示手段と設定画面表示手段ととのいずれか 【蔚求項4】 請求項1記録の複合機能装置において、

# [1000]

【発明の詳細な説明】

複数の機能を任意に付加できる複合機能装置に関するも **能、プリンタフォーマッタ機能、電子ファイル機能等の** えば、デジタル複写機をベースとしてファクシミリ機 【産業上の利用分野】本発明は複合機能装置に関し、例

らのコードデータをピットマップデータに展開してプリ デジタル複写機のプリンタ部を使用してコンピュータか ンタを使用してファクシミリ通信を行ったり、あるいは 【従来の技術】近年、デジタル複写機のスキャナ、プリ

特開平7-38686

છ

の操作部においては、ある一定時間、キーを入力しない 昭子ファイル機能、イメージメモリ機能等、3つ以上の 5-130311号等に記載されているように複写機能 機能が働いた。 と、複写モードが自動的にリセットされるオートクリア の機能の股定ができるように構成されている。複写機能 示させ、機能に対応するアイコンが押されたときに、そ 能の設定は、操作部上に各機能に対応するアイコンを表 機能を一しのユニットとして構成している。 これのの想 とファクシミリ機能、プリンタフォーマッタ機能、画像 ントアウトが可能な複合機が実用化されている。 【0003】また、このような複合化は例えば、特別平

[0004]

働き、ファクシミリ機能までもリセットされてしまうと いう欠点があった。 能を使用しているときに、コピー機能でオートクリアが 能をオートクリアしており、この結果、ファクシミリ機 ような多数の機能を付加できる複合機では、すべての協 [0005] 【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記の

示す画面を表示するクリア実行表示手段と、前記自動ク る自動クリア手段と、前記自動クリア手段による自動ク アモードとを含む。 能のうち指定された機能のみを自動初期化する選択クリ 動初期化処理するオールクリアモードと、前記複数の樹 え、前記自動クリア手段は、前記複数の機能の全てを自 定された設定画面を表示する設定画面表示手段とを備 リア手段による自動クリア実行後前記表示手段に予め指 リア実行後前記表示手段に自動クリアが行われたことを 行なわれないと、設定していた機能を自動的にクリアす 手段とを備える複合機能装置であって、一定時間操作が 該複数の機能実行手段による実行機能を設定可能な操作 手段と、複数の機能を実行する複数の機能実行手段と、 解決する一手段として以下の構成を備える。即ち、表示 決することを目的としてなされたもので、上述の即題を 【課題を解決するための手段】本発明は上述の課題を解

通信媒体を介して他装置とファクシミリ通信するファク 手段を1つまたは複数任意に付加可能とする。 マッタ手段と、画像記憶手段と、眩画像記憶手段に記憶 像情報をピットマップデータに展開するプリンタフォー コンピュータインタフェース手段と、コード化された面 シミリ通信手段と、他の情報処理装置と接続するための として出力する画像出力手段とを含む画像形成手段と、 変換して入力する画像入力手段と、画像データを可視像 した画像を検索する画像検索手段とを含む画像ファイル 【0006】そして例えば、更に、画像を画像データに

S 実行表示手段と前記股定画面表示手段ととのいずれかる 選択できる実行モード選択手段、及び又は、前記クリア オールクリアモードと選択クリアモードとのいずれかを 【0007】また、例えば、前記自動クリア手段による

1

-2-

特開平7-38686

オートクリアを行なうことができる。 合装置において、複合機能に対しての機能毎に分けての 【作用】以上の構成において、複数機能を付加可能な複

**積したり、コンピュータから送られてきた情報を一時的** るためのフォーマッタ部8、リーダ部1からの情報を蓄 部5と接続されている外部記憶装置6、コンピュータお は、ファクシミリ郎4、ファイル部5、またはファイル 録紙上に可視像として出力する画像出力装置(以下プリ 紙カセットを有し、プリント命令により画像データを記 デムの構成を表わすプロック図である。図1において、 を制御するコア部10等を備えている。 に袪殺するためのイメージメモリ部9、及び上記各機能 ス部7、コンピュータからの情報を画像データに変換す 外部装置であり、各種の機能を有する。外部装置3に 力装置(以下リーダ部と称する)、 2は複数種類の記録 **詳説する。図1は本発明に係る一実施例の画像形成シス** よびLANと接続するためのコンピュータインタフェー ンタと称する)、 3はリーダ部1と電気的に接続された 【実施例】以下図面を参照して本発明に係る一実施例を は原稿画像を読み取り、画像データに変換する画像入

は、ミラー105, 106, 107、レンズ108を介 ット104が移動して原稿を照射する。原稿の反射光 スキャナ部のランプ 103が点灯、かつスキャナ・ユニ る。原稿がガラス面102の所定位置へ搬送されると、 は、1枚づつ順次原稿台ガラス面102上に搬送され する)に入力される。 て説明する。原稿給送装置101上に物収された原稿 てリーダ部1及びプリンタ部2の構成および動作につい 夕部2の构成を示す断面図であり、以下、図2を参照し ってCCDイメージ・センヤ窓109(又下CCDと祭 [0010] 図2は、図1に示すリーダ部1及びプリン

替えるセレクタである。また、リーダ部1からの信号 部1からの信号をプリンタ部2または外部装置3へ切り は、ここで光虹変換される。変換された電気信号は、値 外部切り替え回路に至る。外部切り替え回路は、リーダ 像処理部110において、各種の画像処理が施されて、 夕部2に接続する働きも行う。 と、外部装置3からの信号のいずれかを選択し、プリン 【0011】CCD109に照射された原稿の反射光 6

06において、上記現像された像が転写される。転写さ は転写紙積載部205より転写紙が搬送され、転写部2 先端とタイミングを併せて転写紙積載部204、もしく 褶像は現像器203によって現像される。上記現像像の を照射する。照射光によって感光体202上に作られた 201にて変調された光信号に変換されて感光体202 て、プリンタ部2へ接続された電気信号は、露光制御部 【0012】画像処理部110の外部切り替え回路に જ

()

Ļ

209を介して再給紙用被転写紙積載部210に搬送す 7で定着された出力用紙を、一度、排紙部208まで搬 出力された転写紙は、ソータ220でソート機能が働い 出力紙の表面、裏面に2枚の原稿画像を出力することが 被転写紙稍載部210より給紙されるので、結局、同一 て原稿画像が睨みとられるが転写紙については再給紙用 る。次の原稿が準備されると、上記プロセスと同様にし 送後、用紙の搬送向きを反転して搬送方向切り替え部材 紙の両面に出力する方法について説明する。 定僚部20 ている場合には、各ピンに、またはソート機能が働いて 部208より装置外部に排出される。排紙部208から れた像は定铅部207にて転写紙に定燈された後、排制 いない場合には、ソータの頃上位のピンに排出される。 【0013】続いて、順次競み込む画像を1枚の出力用

選択キーとして働く。302はテンキーであり、数字を のキーを押すことにより助作を開始する。 入力するキーである。303はスタートキーであり、こ 面はタッチパネルになっていて、表面を触ることにより 状態・メッセージを表示する。また、表示部301は表 成図である。図3において、301は表示部であり動作 【0014】図3は、リーダ部1にある操作パネルの標

り、モードが選択される。 示され、選択キーの上のパネルが触れられることによ の操作パネルの表示部301に動作モード選択キーが表 01で初期設定が行われる。そして例えば、リーダ部1 間の電源投入後、図4の処理の進み、先ずステップS4 て、以上の構成を備える本実施例の動作を説明する。装 【0015】次に、図4~図9のフローチャートを用い

ら判断する。次にステップSIO2で、その機能が使用 テップS103に進み、選択した画面を表示してリター できるかどうか判断する。使用できる機能であれば、ス るかを予めバックアップメモリ上に設定された所定値か 入後、ステップS101でどの機能の設定画面を表示す ローチャートを図10に示す。図10において、環源投 【0016】ステップS401の初期設定処理の詳細フ

画面を表示してリターンする。なお、電源投入後、どの 場合には、ステップS104に進み、コピー機能の設定 されたりされなかったりする。 例装置に装箔可能な各機能のボードの有無により、表示 モードで選択する。以上の各機能の選択キーは、本実施 機能の設定画面を表示するかは、後述する共通機能設定 【0017】一方、使用できない機能が設定されている

の右下に示す『下矢印キー』が選択入力されると、選択 示す表示となる。図12の表示が行われている時に、図 ル部の各機能ボードが装着されている場合には図12に た、ファクシミリ部、プリンタフォーマッタ部、ファイ 装着されている場合には、図11に示す表示となる。ま 【0018】例えば、ファクシミリ部機能ボードだけが

> 項目が変わり、図13に示すファイル部と、各機能の共 択入力すると、再び図12の表示に戻る。 の図13の表示状態時に、右下に示す『戻りキー』を道 **通の項目を設定する共通設定部が表示される。そしてこ**

される。ファクシミリ送信モードのときは図6のステッ 定される。コピーモードのときは、図5に示すステップ 理に進み、選択されたモードがコピーモードかどうか判 S403に進み、ファクシミリ送信モードかどうか判定 ーモードでない場合にはステップ S 4 0 2 よりステップ S 5 0 1 の処理に進む。一方、選択されたモードがコピ 初期設定処理が終了すると図 4 のステップ S 4 0 2 の処

カモードか(外部入力か)どうか判定される。 コンピュ 示すステップS801に進む。 ータインタフェースからの入力モードのときには図8に ードでない時にはコンピュータインタフェースからの入 方、ステップS404で選択されたモードがファイルモ ードのときは図7に示すステップS701に進む。 — 進み、ファイルモードかどうか判定される。ファイルモ アクシミリ送信モードでない時にはステップS 4 0 4 に 【0020】ステップS403で選択されたモードがフ

S406でファクシミリ受信モードが選択されていた場 り、以上の選択モード判定を繰り返す。一方、ステップ モードかどうか判定される。選択されたモードがファク 合には図9に示すステップS901に進む。 シミリ受信モードでない場合にはステップS402に戻 い場合にはステップS406に進み、ファクシミリ受信 ドがコンピュータインタフェースからの入力モードでな

モードに入る。応用ズームモードでは図15に示す表示 場合の処理を詳細に説明する。まず、ステップS50 ムキー』を押すと、図16に示す、画面右側に×y独立 画面になる。この状態で図 1 5 における 『x y独立ズー 画面左側の『応用ズームキー』を押すことで応用ズーム x、 yのそれぞれにズームをかけて出力したいときは、 作における操作部の初期画面を図14に示す。例えば S 5 0 3 でスタートキー 3 0 3 の入力を待つ。コピー即 2を読み込み、コピー条件を設定する。そしてステップ S 502で操作パネルより入力されるキー301・30 でコピー動作における初期設定を行う。続いてステッフ 【0022】図5を参照してコピーモードが選択された

た、テンキーで倍率を入力することもできる。さらに、 認し、「一,+キー」を押すごとに倍率が変化する。 は、『xキー』を押して、xの倍率を指定することを陥 独立ズーム設定画面において、×の倍率を指定するとを 『一, +キー』を押し続けると、倍率は変化し続け、キ

> Œ 特朋平7-38686

プS601に進む。 【0019】このようにして図4のステップS401の

【0021】一方、ステップS405で選択されたモー

ズームを設定する画面が現われる。

【0023】本本実施例においては、図16に示すx) - を放したときに、陥足する。これのの、キーは複数の

タッチセンサから構成されてタッチパネルキーとして数

る("1")か否かで判断する。押し続け処理でない堪 むキーが画面上にあるか否かを判断する。 センスされた 合は、ステップS203に進み、センスされた位置を含 を判断する。これは、押し続けフラグがセットされてい 02でこの入力センスが押し続け処理中のものかどうか センスされた位置を特定する。そして続くステップS2 理に移行する。先ずステップS201において、入力が タッチパネルキーの入力がセンスされると、図17の処 を図17のフローチャートを参照して以下に説明する。 【0024】次に、タッチパネルキーを認識させる処理

処理をするかどうかを判断する。押し続け処理を行なわ 表すフラグをリセットしてステップS201に戻る。 ない場合にはステップS207に進み、押し続け処理を 続くステップ 5 2 0 6 でそのキーがそれ以後、押し続け のキーが押された時の対応するキー入力処理を行ない、 れたキー入力を確定する。次にステップS205で、そ 上にあった場合にはステップS204に追み、この押さ 【0025】一方、センスされた位置を含むキーが画面

効としてステップS201に戻る。

位置を含むキーが回面上に無かった場合にはセンスを無

理が続けらる。ここで、センスされた位置が以前に特定 り、押し続け処理が中断される。 されているキー内になければ、ステップS201に戻 ぱステップS204以下の処理に移行して、押し続け処 れているキー内にあるかどうか判断する。キー内にあれ ップS209に進み、センスされた位置が以前に特定さ 入力センスが押し続け処理中のものである場合にはステ てステップS 2 0 1 に戻る。また、ステップ S 2 0 2で S 208に進み、押し続け処理を表すフラグをセットし 【0026】一方、押し続け処理を行うときはステップ

刷終了後、図4のステップS401(初期設定処理)に 動作については図2の説明と共に上述した。そして、印 続くステップS505でプリンタ部2で印刷を行う。本 テップS504に進み、リーダ部1で原稿を読み取り、 5のステップ 5503で、スタートキーが押されるとス 像処理などの機能も同様な方法で操作される。次に、図 の設定が確定され、図14の画面になる。拡張機能、画 同様な方法で指定される。また、取消キーを押すと、x y独立ズームの設定が取り消され、図16の画面より図 【0027】上述した図16におけるyの倍率も、xと 4の画面になる。OKキーを押すと、× y独立ズーム

18~図21を参照して記録用紙の選択操作を説明す る操作部の操作画面の表示プローを以下に記す。 先ず図 【0028】以上のコピーモードを設定する操作におけ

る。初期画面では図18に示す表示であるが、ここで、 「用紙選択キー」を入力すると図19に示す画面に移行 用紙カセットの選択が可能となる。この選択は「用

30

再び『Aキー』を押下することにより図22に表示に復 る。そして再び『Aキー』を押下することにより図22 帰する。また、例えば、写真原稿などのトーンを生かし の表示を変えて選択されていることを報知する。そして ことにより、図23の表示に移行し、『文字強調キー』 ードキー』の表示を変えて選択されていることを報知す することにより、図24の表示に移行し、『HiFiモ たいときは図22右下の『HiFiモードキー』を押下 したい場合は、図22の右下の『文字強調キー』を押す 【0030】薄い鉛筆掛きなどの原稿をくっきりコピー 8

に設定したり、倍率を自動的に設定することができる。 図25~図29に示す操作により、定型サイズの原稿を 移行することができる。図25~図29は変倍を設定す 移行する表示画面である。各画面よりそれぞれのキー等 図29が図28における選択画面でオート変倍選択時に 図28が『ズームキー』入力時のズーム時の表示画面、 目、図27が『拡大キー』入力時の拡大時の表示画面、 図25が初期時、又は『等倍キー』入力時の等倍時の表 定型サイズの用紙に拡大/協小したり、倍率を 1 %刻み る操作における操作部の操作画面の表示フローである。 で『文字強調キー』を押すことにより、図23の表示に 一』を押下すれば図24の状態に移行し、図24の状態 お、拡大、縮小比率はそれぞれのキー入力毎にローテー による選択を行うことにより対応画面に移行する。な 示画面、図26が『箱小キー』入力時の箱小時の表示画 【0031】更に、図23の状態で『HiFiモードキ

テイプルソート」-「グループ」-「なし」-を順次ロ 次ローテートする。即ち、「なし」 -- 「ソート」 -- 「ス 後、「ソーターキー」押下毎に図31の各表示画面を順 30に示す設定画面より左下の『ソーターキー』を選択 操作における操作部の操作画面の表示フローである。図 入力すると図31に示す表示画面に移行する。そして以 ートートする。そして所望の選択状態で一定時間が経過 【0032】 図30~34は、ソートモードを選択する ö

> すると当該選択が有効となり、図30、図32~図34 れる。そして各表示状態で『ソートキー』を入力すると に示す表示に移行する。即ち、「なし」選択で図30、 対応する移行前の図31の画面に戻る。 「ソート」選択で図32、「ステイプルソート」選択で 「グループ」選択で図34がそれぞれ精選択さ

の表示に移行し、2枚の原稿を用紙の裏表にコピーする 面か下段の設定画面かを選択する。)、 裏表の原稿を用 キー』を入力することにより図35の画面に戻れる。 画而を選択することができる。そして各股定画面で『C 紙の裏表にコピーする(両面→両面)図38に示す散定 す設定画面(左開き、右開きの選択により上段の設定画 用紙の吸表にコピーする(ページ連写両面)図37に示 5の上段に設定画面より『両面キー』を押下すると下段 作における操作部の操作画面の表示フローである。図3 【0033】図35~40は、両面モードを股定する損 (片面→両面) 図36に示す設定画面、左右のページを

の表示フローである。 図22の初期画面では適度設定は

「オート」モードであるが、「Aキー」両側の矢印キー

を押すことで、コピー遺成を闘節できる。

ント方法の選択画面に移行できる。図3.9が原稿オール 枚原稿カウントである。なお、これらの画面からは、 カウント、図40が奇数枚原稿カウント、図41が偶数 トキー』を押下すると図39~図41に示す原稿のカウ 『Cキー』を押下することにより図36の設定画面に戻 【0034】また、図36に示す設定画面から「カウン

す数定画面より『迎写キー』を押下することにより下段 右開きと左開きを選択できる。 る(ページ連写コピー)モードを選択できる。ここでは より図44に示す左右のページを2枚の用紙にコピーす 画面においては、『ページ連写キー』を入力することに の連写モード設定画面に移行する。この連写モード設定 作部の操作画面の表示フローである。図43の上段に示 43~図46は、運写モードを設定する操作における操 行し、先に設定した指示に従ったコピーが行われる。図 することにより、例えば図42に示す設定終了画面に移 【0035】以上の各数定画面で『OKキー』を構入力

で『〇 K キー』を入力することにより図46の画面に移 に移行し、『表紙キー』又は『表/真表紙キー』のいず の最上段の画面で『丧紙キー』を入力すると次段の画面 における操作部の操作画面の表示フローである。図47 行する。図47~図49は、表紙モードを設定する操作 ー)モードを選択することができる。そして各段定画面 す裏表の原稿を2枚の用紙にコピーする(両面選写コピ は、『両面連写キー』を入力することにより図45に示 最上段の画面に戻る。 れかを選択可能である。ここで『Cキー』を入力すれば 【0036】あるいは、進写モード設定画面において

Kであれば『OKキー』を入力して設定を終了し、図4 一』を入力し、図48の最上段の表示とする。そして 【0037】これらの画面で設定のKであれば『OKキ 「コピーする」又は「コピーしない」を選択し、選択0

> 行し、下段の画面より『Cキー』を押下すると上段の画 P中蒄しキー』を押下する。これにより下段の画面に移 **붶しを行う場合には、図50上段の数定画面より『OF** の操作画面の表示フローである。OHPフイルムへの中 は、OHP中差しモードを設定する操作における操作部 や裏安紙を付ける機能を設定できる。図50~図52

枚ごとに自動的に中톂し用紙をはさむ機能を設定でき 面となる。このモードにより、OHPフイルムコピー! キー』を入力することにより設定が終了して図52の画 用紙にコピーするか否かを選択する。この選択後『OK を押下する。これにより図51の画面に移行し、中差し ルムのサイズを選択し、選択が終了すると『OKキー』

で、原稿のオートカウントをするか、原稿の枚数を指定 を設定することができる。また、カウントを押すこと 枚/4枚の原稿を描小して1枚の用紙にコピーする機能 部の操作画面の表示フローである。このモードにより2 は、額小レイアウトモードを設定する操作における操作 ると図50の上段の画面に移行する。図53~図59 【0039】なお、図51の画面で『Cキー』を入力す

両面コピー機能、RF機能、ADF機能のいずれもを有 図56のいずれかの設定画面に移行する。即ち、装置画 財画面で『結小レイアウトキー』を押下すると図54~ 面に移行する。なお、図54の2段目における画面で原 『〇Kキー』を押下して設定を終了して図59に示す面 ズ、柏小レイアウトの祖類を選択し、選択が終了すると している場合には図54の設定画面となり、原稿のサイ

稿のサイズがA4、A5、B5、STMT、LTR以外

であった場合には図56の画面に移行する。

択が終了すると『OKキー』を押下して設定を終了して いる場合には図56の設定画面となる。この場合には、 示す画面に移行する。また、両面ユニットのみを有して すサイズ、レイアウト以外は設定できない。 選択が終了 イズ、椋小レイアウトの種類を選択するが、図55に示 有している場合には図55の設定画面となり、原稿のサ 図59に示す画面に移行する。 類小レイアウトの「2 i n l ]のみ可能である。この選 すると『〇Kキー』を押下して設定を終了して図59に

のオールカウント、又は原稿枚数を設定する。そしてこ 能である。図60は、メモリ内に最大9枚までの原稿を こでは、図58の下段に示す様に枚数の「+、一」が可 一』を押下すると図58の上段に示す画面となり、原稿 協小して保存して、1枚の用紙にコピーする協小フイア 【0042】また、以上の各設定画面で『カウントキ

9の表示とする。このようにして他と異なる用紙で表料

【0038】下段のOHP中差し設定画面でOHPフィ

【0040】図53~図59において、図53に示す初

【0041】一方、装置にRF機能、ADF機能のみを

ම

特開平7-38686

て1枚の用紙に、21n1両面を指定すると、原稿の表裏 る。2 in 1 を指定すると、原稿の表面を2枚分、絈小し ウトの操作における操作部の操作画面の表示フローであ を描小して1枚の用紙にコアーする機能を数定できる。 4, 8, 9 in 1 または、4, 8, 9 in 1 両面も同様であ

 **ペーツの原始を1枚の紙で無むトリアーから(ペーツ)** 表示フローである。このモードにより、平行移動、セン 操作における操作部の操作画面の表示フローである。 移動モードを設定する操作における操作部の操作画面の 枚の原稿を1枚の用紙に重ねてコピーする(多重)、2 タ移動、コーナー移動、原稿を指定位置に移動するモー 写多面)を選択することができる。図63~図65は、 ドを選択することができる。 【0043】図61、図62は、多重モードを設定する

択する。『センターキー』を押下すれば第3段の画面 行する。ここで『Cキー』を入力すれば再び最上段の画 而となる。第2段目の画面において、移動する場所を選 設定画面で『移動キー』を押下すると第2段の画面に移 に、『左矢印キー』を押下すれば最下段の画面となる。 【0044】図63~図65において、図63最上段の

第3段目、第4段目でよければ『OKキー』を押下し、

図65の画面となり移動モードの設定を終了する。

面に移行する。ここで、基準点をペン入力した場合には して図65の画面に移行する。 第2段の画面に移行する。この画面を見て先のペン入力 力し、OKであれば『OKキー』を入力して設定を終了 でよいか否かを調べ、訂正する時には新たな基準点を入 『指定移動キー』を押下すると図64に示す最上段の面 【0045】一方、図63の第2段~第4段の各画面で

る。図66~図69は、とじ代モードを設定する操作に のみとじ代をつけることを設定することができる。 移行する。ここで移動先をベン入力したい場合には『ベ 場合には図64の第3段の画面に移行し、移動先の位置 ドにより、左とじ、右とじを選択でき、とじ代幅、政府 おける操作部の操作画面の表示フローである。このモー を入力した場合にはいづれも図63の最上段の表示に戻 て対応する位置が表示される。この入力でOKであれば を具体的に『テンキー』より入力する。この入力に従っ ン入力キー』を入力すいれば찞上段の表示に移行する。 『OKキー』を入力して設定を終了して図65の画面に 【0046】図64の最上段で『テンキー』を入力した 【0047】図64のいずれかの表示画面で『Cキー』

の裏面のみの設定を可能とする。図68下段の表示で 行する。更に『茲面のみキー』を押下すると図68下段 るいは『右とじ』を選択すると図68の上段の表示に移 下すると図67の画面に移行する。ここで『左とじ』あ 【0048】即ち、図66の画面で『とじ代キー』を内

なお、本実施例においては、以上の『裏面のみ』のキー 「裏面のみキー」をオフすれば上段の表示に移行する。

S

샭

1

は、装置に「RF」、「両面ユニット」共に装備されて いない時には表示されない。そして、図68の画面での 面となりとじ代モードの設定がされたことがわかる表示 設定で〇Kの時には『〇Kキー』を押下し、図69の画

枠消し、原稿枠消し、ブック枠消しを選択することがで れば図66に示す画面に復帰可能である。図70~図7 作画面の表示フローである。このモードにより、シート 3は、枠消しモードを設定する操作における操作部の操 【0049】一方、図68の画面で『Cキー』を入力す

入力すると第2段目の表示に移行し、『シート枠消 [0050] 図70の母上段の表示で「枠消しキー」を

択すると第3段目の表示となり、『原稿枠消し』を選択 入力すれば最上段の表示に戻る。「シート枠消し」を選 すると第4段目、『ブック枠消し』を選択すると第5段 選択することができる。選択しない時には『Cキー』を し」、『原稿枠消し』、『ブック枠消し』のいずれかを

傷のサイズの選択画面となる。ここでセツトされている 定されている場合には図71の上段の画面に移行し、原 されていることを報知する。また、『原稿枠消し』が散 定処理を終了して図73の画面に移行し、枠消しが設定 7 | の各画面で『Cキー』を入力することにより図70 3の画面に移行する。設定をやり直すような場合には図 そして設定がOKであれば「OKキー」を入力して図7 原稿サイズを入力し、例えば下段の表示等を確認する。 『〇ドキー』を入力する。『シート枠消し』であれば設 【0051】各表示を確認して各設定がOKであれば 8

**朋きサイズを入力し、例えば下段の表示等を確認する。** の第5段の表示に戻る。 72の各画面で『Cキー』を入力することにより図70 3の両面に移行する。 設定をやり直すような場合には図 そして設定がOKであれば『OKキー』を入力して図7 イズの選択両面となる。ここでセツトされている本の見 た場合には図72の上段の画面に移行し、本の見期きサ 【·0 0 5 2】更に、図7 0で『ブック枠消し』を選択し

できる。図74の上段の表示画面で『パターン化処理キ る表示として処理を終了する。 現』を選択した場合には図75の左上の表示画面に移行 てパターン化の種類を選択可能とする。『パターン表 一』を押下入力すると下段の設定画面に移行する。そし できる。また、色の認識範囲の微調整を設定することが や温度差に置き換えてコピーする機能を設定することが である。このモードにより色付き原稿の各色をパターン を設定する操作における操作部の操作画面の表示フロー し、標準表現でよい場合には『OKキー』を入力して終 了画面に移行してパターン化処理が行われたことがわか 【0053】 図74、図75は、パターン化処理モード

> が、本実施例では4色毎に切り替えて微調整可能として おここで、色調整は1~8の8色について可能である の画面とし、各色毎の色製譜範囲を微調整する。OKで 合には『微調整キー』を押下して図75の左下叉は右下 あれば『OKキー』を入力して母終画面に移行する。な 【0054】しかし、ここで微調整をする必要がある場 12

場合には図75の右上の表示画面に移行し、標準表現で 場合には『微詞数キー』を押下して図75の下の画面と **理を終了する。しかし、ここで微調整をする必要がある** てパターン化処理が行われたことがわかる表示として処 よい場合には『OKキー』を入力して終了画面に移行し 【0055】一方、図74で『濃度差表現』を選択した 『OKキー』を入力して概然回面に移行する。 各色毎の色認識範囲を微調整する。OKであれば

7.6に示す設定画面で『色消去キー』を押下入力すると 任意の色の消去を指定可能である。 れ、例えば下段に示す様に赤色と故色とが消去される等 色のキーは(ON/OFF)のいずれかの状態が維持さ ここで所望の消去する色を選択することになる。この答 図77の上段に示す消去する色の選択画面に移行する。 ピーする場合の消去する色を設定することができる。図 このモードにより、色付き原稿の指定した色を除いてコ る操作における操作部の操作画面の表示フローである。 【0056】図76~図78は、色消去モードを設定す

30 れた部分に対して、トリミング、マスキング、イメージ の表示フローである。このモードにより、マーカで囲わ 設定画面に戻り、『OKキー』を入力すれば図78に示 なお、図77の画面で『Cキー』を入力すると図76の の微調整画面に移行し、各色毎の微調整が可能となる。 クリエイトを選択することができる。 力指定モードを設定する操作における操作部の操作画面 す終了画面の表示に移行する。 図79~図81は、マー 【0057】ここで、色の微調整を行うことが可能であ 『微調整キー』を入力すると上述した図75の下段

表示がなされる。なお、図80の第3段の設定画面で、 示す散定画面に移行する。そして各マーカー指定の処理 ある。「トリミングキー」を入力した場合には図80の ング』、「イメージクリエイト」の各処理を選択可能で 定の処理に移行する。ここで『トリミング』、『マスキ 一』を押下すると下段の設定画面に移行し、マーカー指 **つかし、ここら図えば『房井一』母の人メージケンエム** には「OKキー」入力はクリアキー入力と同じとなる。 イメージクリエイトの額類が何ら設定されていない場合 81の最終画面に移行し、マーカー指定が行われた旨の を選択し、選択OKであれば『OKキー』を入力して図 クリエイトキー』を入力した場合には図80の第3段に した場合には図80の第2段の数は圓面に、「イメージ 第1段の設定画面に移行し、『マスキングキー』を入力 【0058】図79上段の設定画面で『マーカー指定キ

トのいずれかが選択された場合には図81の最終画面に

ある。この処理によりマーカ色として認識する色を設定 指定する操作における操作部の操作画面の表示フローで 定されるものでは無い。図82~図84は、マーカ色を **更等はできなかった。しかし、本実施例は以上の例に限** に示すイメージクリエイト設定画面ではマーカー色の数

キー』を入力する。これにより、図86の最下段の指定

したエリア 1 の画像処理の選択画面に移行する。

る。ここで、入力結果を確認して入力でよければ『OK 面に移行し、ここで2点目を入力し、第2段の画面とす を例えば図85の第3段の設定画面に示す様にペンで人

力する。ここで1点目を入力すると図86の最上段の回

れたエリア内ごとに、モードを変えてコピーすることを の下段の画面で『取消キー』を入力すると図82の画面 各マーカ色を設定することが可能である。なお、図83 段に示す様に、現在の黄色のみに追加して赤、青、緑の 示す股定画面に移行する。ここで、例えば、図83のT 図82の例で『マーカー色』キーを入力すると図83に は、マーカー色としては「黄」のみが設定されている。 示させ、マーカー色の指定を可能とする。図82の例で ことが表示される。図85~図93は、部分処理モード する。図84の圓面では、図82の場合と比し、マーカ である。このモードにより、エリアを指定して、指定さ を設定する操作における操作部の操作画面の表示フロー **-色として新たに赤、背、緑の各マーカ色が設定された** 『〇 Kキー』を入力すると図84の画面に移行

表示され、『OKキー』を入力することにより図86の の具体的数値での入力が可能となる。この画面では1点 これにより第4段目の画面に移行し、『テンキー』より エリア入力をペン入力では無く、テンキー具体的数値な 行う場合には『エリア1キー』をペン入力する。これに 選択が可能となる。ここで、『部分処理キー』を入力す で、エリア2の指定を行わない場合には、指定エリア1 に、指定エリアの各種画像処理選択、及び引き続いて次 **段下段の設定画面となり、指定領域が表示されると共** 目及び2点目を同時に設定できる。そして設定エリアが より続いてエリア1の領域指定が可能となる。ここで、 ると第3段のエリア設定画面となり、エリア1の設定を 一』を入力すると第2段の画面に移行し、『部分処理』 画像処理に対応する設定画面に移行する。 に対する所望の画像処理キーを選択入力し、それぞれの のエリアであるエリア2の選択キー画表示される。ここ 入力したい場合には『テンキー入力キー』を入力する。

エリア入力を無効としてやり直す時には『エリアクリア 最上段のアリア2散定画面に移行する。そして、図87 戻る。また、図86のいずれかの設定画面で『Cキー』 キー』を入力することにより、図85の第3段の画面に に示す様にエリア2の股定を行う。なお、先に指定した には『エリア2キー』を入力することにより、図87の 【0062】一方、次のエリア2の領域般定を行う場合

を入力した場合には図85の第2段の画面に戻る。 力によりエリア指定を行う場合には、エリア1の1点目 [0063] 一方、図85の第3段の設定両面でペン入

【0059】上述した図80の例えば第3段又は第4段

【0060】図82に示す様に『マーカー色』キーを表 70

> キー』を入力した場合には上述した図87に示す様に次 前の画面となる。これは以後の画面でも同様である。図

のペン入力が可信となり、上述同様にしてエリア2をペ 86億下段で次のエリア2の入力を選択し、『エリア2 り、直前に入力したペン入力が無効となり、この入力直 場合には「ポイントクリアキー」を入力することによ 【0064】一方、ペン入力結果の表示を見てやり直す

20

可能としてもよい。

【0065】このようにしてエリア2領域設定が終了す

一』を表示して上述同様のテンキーによるエリア 2 指定

して無いが、図87最上段の画面で『テンキー入力キ ン入力する。なお、ここではテンキー入力については記

【0061】図85の最上段の設定画面で『画像処理キ 30

処理を選択できる。同様にエリア2であれば『エリア2

して各画像処理に対応した各般定画面になり、所望の画 ア2の画像処理等以下順次指定エリアの画像処理を選択 キー』を入力して図88の第2段の設定画面としてエリ により図88の最上段の設定画面となり、エリアの画像 を設定する場合には『エリア1キー』を入力する。これ いて、先に設定した領域の画像処理を選択する場合に 【0066】図87又は図89の母下段の設定画面にお

は、設定するエリアキーを入力する。例えば、エリア1

め、以下の説明を省略する。

エリア指定を行う。なお、各操作は上述同様であるた エリア 4の設定も可能である。以下同様の処理で必要な 様にしてエリア3の領域指定を行う。以下同様の処理で いて図89に示す様に図87の場合と同様にして上述向 入力することにより、図88の最下段の画面となり、続 次のエリア3の入力画可能となり、『エリア3キー』を ると図87の最下段の設定画面となる。ここでは、更に

対する「イメージクリエイト」、「パターン処理」、 戻る。即ち、図86より画像処理の設定を行った場合に 像処理設定が終了すると、各場合に対応した設定画面に 像処理を設定する。 再び元の設定画面に復帰する。 定が可能となる。そしてこれらの詳細股定が終了すると りの場合には図93の、各画面で今段定した画像処理に は図90の、図87よりの場合には図92の、図89よ 【0067】以上の画像処理の各設定画面より所望の画 「色消去」の各段定画面となる。そしてこれらの群細段

ઇ 了した場合、他のエリアに対する画像処理を行う場合に 【0068】ここで、当該エリアへの画像処理設定が終 8

特開平7-38686

棉

-7-

Ħ

キー』を入力することにより次に入力画面に移行する。 そして領域指定が終了すると図97の段下段の終了画面 にして行う。この場合には、入力がOKであれば「OK 場合の領域指定と同様にして、図94~図97に示す協 ングを行う領域指定を行う。これは上述した部分処理の キー」を入力すると第2段の設定画面に移行し、トリミ 【0069】 図94の最上段の設定画面で「トリミング

ことができる。図98は初期画面であり、ここで『イメ ローである。このモードにより、輪郭、紹、彫、ネガポ すイメージクリエイト福頻設定画面に移行する。この図 ジ反転、斜体、鏡像、イメージリピート処理を選択する ードを設定する操作における操作部の操作画面の表示フ イト種類をさせることにより各対応処理画面に移行す 9 9に示す設定画面により、後述する各イメージクリエ ージクリエイトキー』を入力することにより図99に示 【0070】図98、図99は、イメージクリエイトホ 20

ば『OKキー』を入力し下段の表示とする。 99の画面に戻す。一方、倫郭を入力する場合には図1 で輪郭処理を中止する場合には『Cキー』を入力し、図 処理により、輪郭の太さを設定することができる。ここ 作における操作部の操作画面の表示フローである。この キー』を入力した場合における、輪郭処理を設定する操 00の上段で輪郭の太さを設定する。設定がOKであれ 【0071】図100は、図99の設定画面より「倫昇

定を行なう。一方、ここで処理を終了する場合には『〇 指定を行う場合には次のイメージクリエイトの種類の指 き、頯のせを選択し、網パターンを指定することができ **場合における、網処理を設定する操作における操作部の** を行う。なお、ここで『Cキー』を入力すれば図99の 101の股定画面に移行する。そして、網の種類の股定 る。図99の設定順而より「鎌キー」を入力すると、図 操作画面の表示フローである。この処理により、綴じ 102は、図99の設定画面より『網キー』を入力した Kキー』を入力し、終了画面に移行する。図101、図 【0072】ここで、次のイメージクリエイトの短額の

段右の数定画面、『網じきキー』を入力した場合には図 102の上段左の設定画面に移行する。それぞれの類の 【0073】『類のせキー』を入力すると図102の上 50

뉡

9

種類を確認し、設定がOKであれば『OKキー』を入力 行し、類のパターン選択を行う。この選択は所望のパタ 終了する場合には『OKキー』を入力し、終了画面に移 クリエイトの種類の指定を行なう。一方、ここで処理を ジクリエイトの細類の指定を行う場合には次のイメージ り、図99に示す設定画面となり、ここで、次のイメー が終了した場合には『OKキー』を入力する。これによ ーン下の『No. nキー』を入力して行う。ここで、設定 それぞれの回面より図102下段右の設定画面に移

派す画面に戻る。一方、影処理を中止する場合には『C により、影付け、影のみに対して立体影、平影を指定す ることができる。上段の画面で形の種類を設定する。例 おける操作部の操作画面の表示フローである。この処理 キー」を入力することにより図99の画面に戻る。 であれば『OKキー』を入力する。これにより図99に えば「平肜」であれば下段の表示に移行する。設定OK 一』を入力した場合における、影処理を設定する操作に 【0074】図103は、図99の設定画面より【影井

ーする機能を指定することができる。図104の画面で ローである。この処理により原稿の白黒を反転してコピ 処理を設定する操作における操作部の操作画面の表示フ ポジ反転キー』を入力した場合における、ネガポジ反転 9 9の画面に戻す。 殿定〇Kであれば『〇Kキー』を入力することにより図 【0075】図104は、図99の設定画面より『ネガ

の処理により斜体角度を設定することができる。図10 転キー」を入力して図107の第1段目の表示とし、 図99の設定画面より『鏡像キー』を入力した場合にお 画面の表示フローである。この処理により、原稿の裏返 ける、鏡像モードを設定する操作における操作部の操作 とにより図99の画面に戻す。図106、図107は、 操作における操作部の操作画面の表示フローである。こ キー』を入力した場合における、斜体モードを設定する 各額像の種類を選択する。「親反転」の場合には「親反 一』を入力した場合には図106の設定画面に移行し、 択することができる。図99の設定画面より『鏡像キ し処理を、縦反転、上折り返し、下折り返しの中から選 5の画面で設定OKであれば「OKキー」を入力するこ [0076] 図105は、図99の設定画面より「斜体

抜き衷示等になり、銃像モードが実行されたことが判別 に移行する。この場合には『鏡像キー』部分が例えば黒 定でよければ『OKキー』を入力して図99に示す画面 しキー』を入力して図107の下段の表示とする。各般 107の中段の表示、「下折返し」の場合には『下折返 「上折返し」の場合には『上折返しキー』を入力して図

リピート処理を設定する操作における操作部の操作画面 ージリピートキー』を入力した場合における、イメージ 【0077】図108は、図99の設定画面より「イメ

> ト」も可能であり、『+キー』でインクリメント、『ー イメージリビートの回数を設定する。ここでは、「オー の回数を指定することができる。図108上段の画面で の表示フローである。この処理により、繰り返しコピー キー』でデクリメントされる。

> > 즬

特開平7-38686

設定を行い、設定OKであれば『OKキー』を入力して コピー画像のソフト/ハードの度合いを指定することが 換作部の操作画面の表示フローである。この操作により る。図109は、シャープネスを設定する操作における リピートキー』部分が例えば黒抜き表示等になり、イメ 図99に示す画面に移行する。この場合には『イメージ と中段の画面に移行する。ここで所望のシャープネスの できる。上段の画面で「シャープネスキー」を入力する 下段の終了表示とする。 ージリピートモードが実行されたことが判別可能にされ 【0078】各股定でよければ『OKキー』を入力して

ができる。上段左の画面で『XY独立ズームキー』を入 と右下段の表示に移行し、「十キー」又は「一キー」を **率で拡大/紹小を自動的に行なうモードを設定すること** 率を設定することができ、挺方向と、横方向を異なる倍 る。これにより、縦方向と、横方向をそれぞれ異なる倍 する操作における操作部の操作画面の表示フローであ 終了し、下段左の終了画面となる。 OKの時には『OKキー』を入力することにより設定が する。なお、ここで『XY独立オートキー』を入力する 力すると上段右の画面に移行し、XY独立に倍率を設定 入力することにより右上段の表示となる。右側の設定で 【0079】図110は、XY独立ズームモードを設定

の表示となる。なお、この場合には、『OKキー』では 場合には『OKキー』を入力する。これにより再び上移 率キー』を入力すると中段表示となる。 殷定が終了した を入力すると下段の表示となる。下段の表示で『XY同 れにより、原稿の挺/徴サイズと、希望するコピーの説 操作における操作期の操作画面の表示フローである。こ ラムキー」の表示は反転しない。 **卛画面に戻るが、以上の例と相違して、『ズームプログ** ー』を入力すると中段の表示となり、『XY独立キー』 算して設定できる。上段の表示で『ズームプログラムキ 【0080】図111は、ズームプログラムを設定する / 樹サイズを入力することができ、変倍率を自動的に針

ができる。そして、枚数で指定すれば倍率を、%で指定 この処理により、拡大連写とは最大用紙サイズ(A3) すれば枚数を自動的に計算する。そして、『枚数で指定 画面に移行する。ここでは、枚数又は%を指定すること ることができる。例えば図111の上段の標準画面で 機能で、倍率で指定するか、枚数で指定するかを選択す より大きいコピーを自動的に複数枚の用紙にコピーする る操作における操作部の操作画面の表示フローである。 【0081】図112、図113は、拡大連写を設定す 『拡大迎写キー』を入力すると、図112の上段の設定

> は『OKキー』を入力し、図113の下段に示す終了画 キー』を入力した場合には中段の表示に移行し、用紙サ 行し、所望の用紙サイズを選択可能である。中段、又は イズと枚数の指定が可能となる。概算では中段に示す 下段の設定画面で所定の設定を行い、設定がOKの時に 『用紙選択キー』を入力することにより下段の表示に移 「A4サイズ」であるが、他の用紙を選択したい時には

10 移行する。ここで登録する場所を選択して対応するキー 入力した場合には図113の上段に示す画面に移行す り、コピーモードの組み合わせを3つまで登録すること 力する。これにより図113の最下段の表示となる。 表示となる。 股定が終了した場合には『〇 K キー』を入 なる。中段の表示で『XY同率キー』を入力すると上段 る。ここで『XY独立キー』を入力すると中段の表示と ドメモリの登録キー』を入力すると、上段の設定画面に ができる。例えば、図111の上段の標準画面で『モー 操作部の操作画面の表示フローである。この処理によ よい場合には『OKキー』を入力して終了画面に移行す を入力し、例えば下段の表示とする。そしてこの設定で 114は、モードメモリの登録を設定する操作における 【0082】一方、図112上段で『%で指定キー』

る。そしてこの股定でよい場合には「OKキー」を入力 録するキー」を入力すれば第3段の確認表示に、『登録 キー」を入力すると第3段の表示となる。ここで、『登 キー」を入力すると第2段の確認画面に移行し、『OK するか、初期化するかを選択する。『標準モードの登録 と、図115最上段の設定画面に移行する。ここで登録 段の翃準画面で『翃準モード変更登録キー』を入力する る機能を選択することができる。例えば、図111の上 される標準モードを任意に変更したり、初期化したりす である。この処理により、リセットを押したときに設定 を設定する操作における操作部の操作画面の表示フロー して終了画面に移行する。 しないキー』を入力した場合には母下段の確認表示とな 【0083】図115、図116は、標準モードの変更

この設定でよい場合には『OKキー』を入力して終了値 ー』を入力した場合には下段の強認表示となる。そして 一』を入力すれば中段の確認表示に、『初期化しないキ 力すると中段の表示となる。ここで、 図116の上段の強製回面に移行し、『OKキー』を入 【0084】『標準モードの初期化キー』を入力すると 「初期化するキ

ö る。この場合には、図117の上段の設定画面で『オブ フィルムからコピーがとれる機能を設定することができ き、35ミリネガ/ポジフィルムや、4×5ネガ/ポジ タを設定する操作における操作部の操作画面の表示フロ ーである。この操作によりプロジェクタを装掛したと 【0085】図117~図119は、プロジェクタモー

늗

ネガ」の時には図118の第1段目の確認画面に、『35 画ポジ』の時には図118の第2段目の確認画面に、 コピーするフイルムの種類を選択する。そして、「35mm リに記憶されている場合のみである。下段の設定画面で を入力すると、下段の画面となる。なお、この画面で、 設定画酒に移行する。ここで、『プロジェクターキー』 ションキー』を入力することにより、中段のオプション **『**スキップキー』が表示されるのは、前回の設定がメモ

設定画面となり、調整位置を入力し、OKであれば『O Kキー』を入力する。これにより図118の第5段目の 画面にそれぞれ移行する。そして各股定がよければ『O に、「4×5 ポジ」の時には図118の第4段目の強認 Kキー』を入力する。 『4×5 ネガ』の時には図118の第3段目の確認画面

れの設定を終了して各処理に従った設定画面に移行す 時には図119の第4段目の確認画面となる。以上の説 は図119の第3段目の確認画面に、「4×5 ポジ』の 面となる。この確認画面は、「35mmネガ」の時には図1 定でよければ『OKキー』を入力することによりそれぞ り調整動作を実行する。そして、図119に示す確認画 **一の脚光ダイヤルで光瓜を脚盤位置に合わせることによ** 【0086】すると最下段の画面となり、プロジェクタ 1 1 9 の第 2 段目の確認画面に、『4×5 ネガ』の時に 19の第1段目の陥認画面に、『35mmポジ』の時には図

の表示フローである。これにより、プロジェクタ、イメ た場合には図121の第1段の表示となる。 イズの設定を行う。そしてここで『〇Kキー』を入力し かし、『1枚』~『16枚』を選択して『0 Kキー』を 選択が可能となる。ここで、「1枚」を選択して「0 K ることができる。図120の第1段の確認画面(例えば アウトモードを設定する操作における操作部の操作画面 入力した場合には下段の画面に移行する。そして用紙サ キー』を入力した場合には通常標準画面に移行する。し ー』を入力すると第2段の画面に移行し、レイアウトの 上述した図119の第1段目の確認画面)で『〇Kキ ージメモリを装着したとき、レイアウトの枚数を指定す [0087] 図120、図121は、プロジェクタレイ 30

読み込みが終了すると『スタートキー』を入力してフィ アキー』を入力すれば第1段目の表示に戻れる。必要な 容啞が一杯となると風下段の表示となり、『メモリクリ れる。以下、必要枚数の読み込みを行う。そしてメモリ 度『読込キー』を入力すれば2枚目の読み込みが開始さ 読み込みが終了すると第3段目の表示となる。ここで再 り1枚目の競み込みが下臈され、第2台目の表糸なり、 【0088】ここで、「続込キー」を入力することによ ŧ

一、及びすかし合成の強度と、メモリ合成が限定された。50 を設定する操作における操作部の操作画面の表示フロ [0089] 図122~図125は、メモリ合成モード

後、合成のための画像を読み込むまでの操作における操 択することができ、また続込キーを入力することによ により全面合成、エリア合成、すかし合成を選択するこ 作部の操作画面の表示フローである。このモードの実行 り、合成される画像を読み込ますことができる。 とができ、エリア合成に対しては、はめこみか多重を選

一」が入力可能となる。ここで、『メモリ合成キー』を 合成キー」で全面合成を選択して『OKキー』を入力し 中段の設定画面に移行し、背景となる原稿をセツトして 入力して『〇Kキー』を入力すると第3段目の画面に移 る。そして、『メモリ合成キー』又は『メモリ類のせキ から『院込キー』を入力し、読み込みを行わせる。そし ここで用紙を選択して『O Kキー』を入力した場合には た場合には図123の上段の用紙段定画面に移行する。 行し、合成のモードの設定画面となる。ここで、『全面 ョンメモリキー』を入力すると第2段目の画面に移行す てメモリ合成が行われると下段の表示に移行する。 【0090】図122の第1段目の股定画面で『オプシ

力されると第3段の表示に移行し、テンキーよりのエリ に移行する。なお、第1段で「テンキー入力キー」が入 る。1点目及び2点目の入力が終了すると最下段の表示 一』を入力した場合には図124の第1段の表示に移行 【0091】一方、図122の第3段で『エリア合成キ 以下第2段に示す様に合成先エリアをペン入力す

すると図124の最下段の表示に移行する。そして、こ り図123の第1段の表示に移行する。以下、上述の手 設定を行う。設定が終了すれば『〇ドキー』の入力によ こで、「はめ込み」をするのか、「多重」をするのかの を入力するかで再び図124の最下段に移行する。 ドの選択となる。この設定が終了するか、あるいは取消 場合には、図122の版下段の表示に移行し、出力モー 順で原稿読み込みを行い、メモリ合成が行われる。な 【0092】以上のいずれかの方法でエリア入力が終了 図124の最下段で『出力モードキー』を入力した

フローである。この操作により全面を撰のせするかエリ モードを設定する操作における操作部の操作画面の表示 1段に移行する。図126、図127は、メモリ網のせ 設定が終了して『OKキー』を入力すると図123の第 には図125に進み、すかしの協度散定を行う。そして 合成キー』が選択され、『OKキー』が入力された場合 アで指定された範囲を網のせするかを選択することがで [0093] また、図122の第3段の表示で『すかし

ると図127の段下段の用紙段定画面に、『エリアキ 一』を入力する。これにより下段のメモリ網のせのモー のセキー』を入力すると図126の上段の画面に移行す ド設定画面に移行する。ここで、「全面キー」を入力す る。ここで、メモリ網のセ処理を行う場合には『OKキ 【0094】図122の第2段の設定画面で『メモリ網

> の用紙設定画面に移行する。 リア設定を行う。そしてエリア設定が終了すると最下段 ア設定画面に移行する。第1段~第3段で上述同様のエ 一』を入力した場合には図127の第1段の類のセエリ

602で、操作パネルより入力されるキー301・30 シミリ送信の初期化設定が行われる。続いてステップS 信モードが選択された場合のフローチャートである。 された場合の処理を説明する。図6は、ファクシミリ送 23の第1段以下の用紙出力制御に移行する。次に、図 そしてこれがOKであれば『OKキー』を入力し、図 4のステップS403でファクシミリ送信モードが選択 【0096】まず、ステップS601において、ファク 【0095】用紙設定画面では、出力用紙を選択する。

けをして入力ができないようにし、頽操作を防いでい 待つ。このとき、宛先が押されると、画像処理以外のキ 2を読み込み、ファクシミリ送信条件を設定する。そし **値例においては、このように、選択できないキーは網カ** る。ただし、画像処理だけは、原稿ごとに処理を施すこ は、宛先を入力したモードの変更をさせないためであ て続くステップS603でスタートキー303の入力を とができるので、キーが押せるようになっている。本実 一は全て、網かけされ、押しても反応しなくなる。これ

を読み取り、画像データをファクシミリ部4に送る。フ 3よりステップS604に進み、、リーダ部1より原稿 に、発信人名称を指定する操作フローを示す。 と決められたプロトコルに従ってファクシミリ送信を行 アクシミリ部 4 はステップ 5 6 0 5 で、股定された様式 う。送信終了後、初期設定に戻る。図128~図130 【0097】スタートキーが押されるとステップS60

が登録されていると、登録されているデータが表示さ の初期画面である。まず、「登録管理キー」を押すこと 番号を確定する。このあと、登録キーを押すと下段の影 れる。例えば、3番に登録したい場合、上下キーを押し れ、現在選択されている番号のデータが反転して表示さ 画面とする。そこで、『発信人名称キー』を押すと、中 画面で次に、『ユーザデータキー』を押すことで、ユー で登録管理モードを指定し、左の画面に移行する。この すことで3番に発信人名称が登録される。 のため、この回面でデータを入力し、『OKキー』を拝 定画面に移行し、データを入力する画面が開かれる。こ て3番を指定するか、テンキーで番号を入力するかで、 段の発信人名称を登録する画面が開かれる。発信人名称 ザデータを設定する画面を開き、図129の上段の設定 【0098】図128の右に示すのがファックスモード

る。なお、上段の画面で『欧消キー』が押された場合に る。ここで、『OKキー』を入力することにより、反転 去キーを押すと、図130の上段の確認画面に移行す している番号のデータは消去され、下段の表示画面とな 【0099】また、中段の表示画面で同様な方法で、消

は図129の中段に、下段の画面で「取消キー」が押さ

乭

特別平7~38686

行し、宛先入力を促す表示となる。 キー』を入力した場合には図132の第1段の表示に移 段目の設定画面となり、第2段目の如くに先ず1件目の セットしたときに、約2秒間図132の母下段の表示を れた場合には図129の上段の画面に移行する。 宛先切話番号を入力する。なお、宛先無しで『スタート 行い、メモリの残量を表示する。その後図131の第1 るメモリ送信操作フローである。DH、ADFに原稿を 下に記す。図131及び図132は、DH装箔時におけ 【0100】ファックスモードの設定の操作フローを以

競み込みを開始した時に受け付け番号を3秒間表示され 段より第3段の表示に移行し、原稿の読み込みを開始す る。そして原稿をメモリに順次若積する。また、原稿の のようにして宛先入力後、『スタートキー』を入力する キー』を入力する。これにより図132の第2段目の股 る。そしてメモリへの蓄積終了後第4段の表示に移行 と(または、オートスタートにより)、図132の第2 定画面に移行し、2件目の宛先電話番号を設定する。 設定に続いて 2 件目の宛先を入力する場合には『次宛先 し、相手先に送信される。 【0101】図131の第2段の画面での1件目の宛先

に選択させる。ただし、ダイレクト送信はこの限りでは ことを判断して図134の画面に移行する。この際に原 の場合は、競み取りサイズの設定画面に移行し、ユーザ 稿サイズを判断し、原稿サイズの検知ができないサイズ 面となり、相手先の包括番号を入力する。その後、『ス フローである。この場合には、図133の上段の設定回 たはDH装着時でもDHをしない場合のメモリ送信操作 の残価を表示する。 み込み終了キー』を表示するとともに、約2秒間メモリ なく、自動的にA4サイズに設定される。そして、『B タートキー』入力を行うと、圧板からの読み込みである 【0102】図133、図134は、DH非装着時、ま

6 る。その後は相手先への送信処理に移行することにな み込み終了キー』を入力することで読み込みを完了す 始する。全ての原稿の読み込みが終了したときに、 後、原稿を変え、『スタートキー』入力で読み込みを開 る。その後1ページ分の読み込みを行う。読み込み終了 【0103】2秒経過後図133の下段の股定画面とな

S 宛先キーを入力する(『次宛先キー』は、テンキー1桁 テンキーで電話番号を入力する。この状態を下段に示 作フローである。図135の上段の設定面面において、 する。図135、図136は、テンキー入力時の送信袋 スタートキー入力後はその都度、メモリ残窟を2秒表示 することにより各ページ毎に変更が可能である。また、 イズ、読み込み濃度の変更が可能であり、各キーを操作 す。電話番号の入力後、同報送信を開始する時には、次 【0104】また、各原稱毎に、解像度、画質、競取サ

1

【0105】和話番号の入力後、更に次の宛先もテンキーで入力する時には、『次宛先キー』を入力する必要がある。『次宛先キー』を入力すると、今度は3件目であるため、以下販定を続ける毎に、図1360下段の販定画面に移行し、約2秒間販定されている件数を表示する。2秒経過後に上段の表示となる。この後、『スタートキー』入力で、原稿の読み込みを開始する。

【0106】図137は、ワンタッチダイヤルにおける 送信操作フローである。この処理により、登録済のワン タッチダイヤルを入力すると、下段の設定画面に移行 し、電話番号、相手先略称を表示し、DHに原稿がセットされている場合には一定時間経過後自動的に、DHに原 原稿がセットされている場合には、DHから、DHに原 額がセットされていない時には、圧板から原稿を読み込

【0107】図138は、短縮ダイヤルにおける送信線 20作フローである。第1段の設定画面で短額ダイヤルを入力すると、第2段の表示画面に移行する。そして、『テンキー』により短縮番号を原次入力する。第11桁目が入力された状態が第3段目であり、2桁全てが入力された状態が第3段目であり、2桁全てが入力された状態が第3段目であり、2桁全でが入力された状態が優下段である。最下段では、電話番号、相手先臨称を表示し、DHに原稿がセットされている場合には一定時間経過後自動的に、HDに原稿がセットされていない時には日板からそれぞれ原稿がセットされていない時には丘板からそれぞれ原稿を読み込む。

【0108】図139、図140は、電話根による送信の操作フローである。図139の第1段目の画面で『電話根キー』を入力すると第2段目~第4段目の電話根選択画所を表示する。そこで、"あ"~"ん"の50音を選択する。50音のいずれかを選択、例えば「た」を選択すると図140の中段及び下段に示す様にそこで選択された文字に登録されている短報ダイヤルとそれに対応する電話根データが表示される。

【0109】このため、送信する短額ダイヤルを選択し「0 Kキー』を入力することにより、上段の表示に移行し、オートスタートが開始される。またこの画面では、40キーが複数あり両報送信をおこなう場合には一度に送信相手先を選択することで、相手先をしてできる。図141、図142は、解像度の変更の操作フローである。図141の及上段の設定画面で「解像成キー」を入力すると2段目の設定画面となり、表上段の場合の設定である。経験成として「情報」が表示されると供にカーソルが表解像成として「情報」が表示されると供にカーソルが表定値で0 K とみなされる。これはこの操作では以下同様である。2段目の設定画面で「解像成さー」を入力すると2段目の設定画面となり、解像成さしての「ファイ 50

27 ン」位置にカーソルが装示され、仮選択される。ここで 指を離すと図142の第3段に示す画面に移行し、先の 解像度である「ファイン」が設定される。

【0110】3段目の設定画面で「解像度キー」を入力すると4段目の設定画面となり、解像度として「スーパーファイン」が表示されると供にカーソルが表示される。ここで指を離すと図142の第4段に示す画面に移行し、先の解像度である「スーパーファイン」が設定される。4段目の設定画面で「解像度キー」を入力すると図142の銀上段の設定画面で「解像度キー」を入力すると図142の銀上段の設定画面となり、解像度として「ウルトラファイン」位置にカーソルが表示される。ここで指を離すと図142の第2段に示す画面に移行し、先の解像度である「ウルトラファイン」が設定された表示となる

【の111】なお、図141の第4段目の設定画面で『解像度キー』を入力すると2段目の設定画面となり、解像度として「標準」が選択され、以下原次ローテートする。以上のる。ここで指を離すと図142の第3段に示す画面に移行し、先の解像度である「ファイン」が設定された表示となる。このように、解像度を選択し一位時間経過すると、カーソルで指定した解像度が确定され、全解像度の表示が消え確定した解像度が研究され、全解像度の表示が消え確定した解像度が表示される。選択できる解像度は、標準、ファイン、スーパーファイン、ウルトラファインの4種類である。

上段の画面で『画質キー』を入力することにより第2段の表示に移行し、以後順次第3段、第4段、第2段の表示を『画質キー』入力毎にローテートする。そして指を離して一定時間、例えば約2秒間提過すると図144の画面に移行する。即ち、図143の第3段からは図144の下段に、図143の第4段からは図144の下段に移行する。

フローである。操作手頃、表示方法は、図141、図142以 4 2に示した解像度と同様である。選択できる画質は、文字、AA、ハーフトーンである。即ち、図143の最

【0112】図143、図144は、回饋の変更の操作

【0113】図145、図146は、略称切り替えの換作プローである。略称とは、発信人名称の略称であり、作プローである。略称とは、発信人名称の略称であり、図145の上段の限定画面で「略称切替キー」を入力すると図146に示す略称切り替えの操作に移行する。こで「取消キー」を入力すれば図145の上段の画面に戻り、ユーザ略称となる。略称の退択画面で「上下キー」または、「デンキー」入力で発信人名称を設定する。そして「OKキー」を入力すると図145の下段の表示に移行し、略称切替反転表示され、略称切替が行われていることを表示する。なれ、「00」はユーザー略称であり、「01」以下が発信人名称である。このため、図146の上段の画面に戻り、発信人名称は反転しると図145の上段の画面に戻り、発信人名称は反転し

【0114】図147は、読取サイズの操作フローであ

る。上段の設定画面で『読み取りサイズキー』を入力して第2段、第3段の表示にして、『上下キー』で読取サイズを設定する。図148、図149は、タイマ送信の時でフローである。タイマ送信とは、あらかにみ指定し

イズを設定する。図148、図149は、タイマ送信の 図定フローである。タイマ送信とは、あらかじめ信定した時間に通信を行うことで、ここで「上下キー」を入力 することで、時間の設定を行う。即ち、図1480上段 の設定画面で「タイマーキー」を入力すると図1490 画面に移行し、「上下キー」を用いて時刻設定を行う。 「取消キー」を入力すると 図1490小ずれの画面の 場合も図1480上段の画面に戻る。タイマー設定が終 了した場合には「OKキー」を入力すると図1480下 段の表示に移行し、「タイマー」が反転表示され、タイマー送信が設定されていることを示している。

【0115】図150、図151は、ボーリングの操作フローである。ボーリングには、ボーリング受信と、ボーリング機がある。ボーリングをはとは、相手機のメモリにセットされている原籍を受け取ることである。またボーリング特徴とは、相手機の操作で原籍を込るために原約をセットするものである。ボーリングを行むうためには、相手機が、ボーリング機能を持つ機械であり、ボーリングを行う過のパスワード(ボーリング 1/D)をク製することが必要になる。ボーリング(1/D)をク製させた後、ボーリング受信の設定を行うためには、以下の操作を行う。

原稿をセットし、『スタートキー』を入力する。すると 段上段の画面とする。なお、ここで再びポーリング受信 して相手先電話番号を入力する。その後『スタートキ リングキー』を入力して第2段の画面にしてポーリンク がする。 を反転表示してポーリング待根がなされていることを表 込みを行い頃次メモリに蓄積する。そして読み込みが終 示する。そしてその後最下段の表示に移行し、原稿読み 所定時間、例えば第3段の表示を行い、メモリ残監を表 段で【OKキー」を入力すると第2段の画面に移行し、 を設定すれば図150の第2段に戻る。図151の最上 第2段の喧屈からボーリング待機を選択して図121の 一』を入力する。一方、ポーリング待機を行う為には、 受信を設定して『〇Kキー』を入力し、第3段の画面と 了すると図150の版下段の表示に移行し、ポーリング 【0116】先ず図150の最上段の設定画面で『ポー

【0117】図152は、中雄指示の操作フローである。中雄指示とは、選くの相手数力所に原稿を送る場合、直接それぞれの宛先に送信せずに、中継機を使って原稿を送ることをいう。中雄指示を行うためには、図152の上段の設定画面で「中雄指示」を選択して中段の表示に変え、中雄機が登録されている中雄グループ番号を選択する。その後「OKキー」を入力して下段の設定画面で中継機の宛先を指定し、「スタートキー」を入力する。

【0118】図153~図156は、親展送信、親展出

) カの操作フローである。親展送信とは、受信側があらか

€

特闘中7-38686

プリスティー・のつ。 かなからにな、大田のかりかけたりの気によりでする。そこに送信師が、親展ボックスと指って原稿を告官を含る。我展出的が、親展が、親展受信した文章をパスワードを入力して、プリントすることである。親展送信を行うためには、図153の上段の設定画面で「親展」を選択し、続く下段で「親展送信」を選択し「OKキー」を入力する。すると図154の下段の表示に移行する。なれ、ここで「取消キー」を入力すると図153の下段の表示に移行する。なれ、ここで「取消キー」を入力すると図153の下段の表示に戻る。そうし「OKキー」を入力するとのよりを154の上段の設定画面に移行し、続いて電話番号を入力し、送信するの設定画面に移行し、続いて電話番号を入力し、送信する

【0119】親展文協出力の場合には、図153の下段の表示で受信文部出力を選択し、図155の最上段の表示とする。なお、ここで再近「親展送信」を選択し、又は「取消キー」を入力すれば図153の下段の表示に戻る。親展出力する場合には、「OKキー」を入力して第2段の表示として出力するボックス番号を「デンキー」と入力する(図155第3段の表示)。ここで、入力されたボックス番号が未登録であった場合には図155の最近段の表示に移行し、所定時間、例えば約2秒間この表示を行う。そしてその後図155の第3段の表示に戻り、正しいボックス番号の入力を促す。なお、ここで「取消キー」を入力した場合には図155の最上段の表示に厚さ

【0120】一方、正しいボックス番号が入力された時には第4段の設定画面に移行し、パスワードを入力し、図156の最上級の設定画面に移行し、パスワードを入力し、図156の最上級の表示とする。そしてパスワード入力の後「OKキー」を入力する。ここで、正しいパスワードを入力した場合には受信文部を出力し、第2段の表示に移行する。そして、受信文都の出力終了後図155の第2段の表示に戻る。ここで、これ以上の親展出力を行かない場合には「政治キー」を入力し、図155の足上級の表示に戻し、更に「政治キー」を入力して図153の上段の表示に戻し、更に「政治キー」を入力して図153の上段の表示に戻し、更に「政治キー」を入力して図153の上段の表示に戻し、更に「政治キー」を入力して図153の上段の表示に戻し、更に「政治キー」を入力して図153の上段の表示に戻し、

【0121】図157は、送信における画像処理であり、これらは、後述したコピー操作における画像処理と同様である。図158~図160は、送信における脱政モードの限定フローである。起取モードには、ページ連 (右開き、左開き)、両面連写、2 にいがある。ページ連写とは、圧板誘み込みにおいて、原稿の右半分と、ジ連写とは、圧板誘み込みにおいて、原稿の右半分と、ジ連写とは、圧板誘み込みにおいて、原稿の右半分と、方半分を2枚の原稿として誘み込む方法である。右半分から誘み込むか、左半分から誘み込むか、左半分から誘み込みで、両面連写とは、原稿拾送装置(DH)による読み込むで、両面原稿の表面、辺面を1ページずつ誘み込む方法である。2 にに続み込みとは、原稿台上にの2枚の原稿を並べて拾送し、2枚の原稿を1枚の原稿と

して読み込む方法である。

か、左半分から読み込みかにより右開き、左開きがある ードの選択が終了すると『〇パキー』を入力して、図1 選択する。図159のいずれかの画面の如くに各処理モ ため、最上段と第2段の表示画面に示す如くいずれかを を選択すると最下段に示すそれぞれの設定画面に移行す ここで、「ページ連写」を選択すると図159の最上段 すれかの画面で『取消キー』を入力すると図158の上 58の中段に示す設定画面にする。なお、図159のい る。「ページ連写」の場合には、右半分から読み込む ード』を選択すると、図159の設定画面に移行する。 [0122] 図158の上段の設定画面で「読み取りモ 『両面通写』を選択すると第3段に、『2inl』

行する。これは、2 in 1 を行うためには、原稿サイズが ので、図159の最下段の設定画面で『カウントキー』 理で『取消キー』を入力すると図159の最下段の画面 中段の設定画而に移行する。なお、この「21nl」処 そして『OKキー』を入力することにより、図158の することにより、兢取モードを設定することができる。 必要なためであり、ここでそれも指定する。これを設定 終了すると『OKキー』を入力して下段の設定画面に移 段の表示とする。四数枚、奇数枚を指定する場合には、 定する時にはこの図の状態で『〇 Kキー』を入力して中 **仰数枚、奇数枚を指定する。ここでオートカウントを指** カウントを指定することによりカウント動作をするか、 を入力し、図158の下段の画面とする。ここでオート 稿枚数が奇数枚か仰数枚かにより、読み込み方が異なる 上段の表示の如く所望の枚数を設定する。枚数の設定が 『+キー』や『-キー』を入力して、例えば図160の 【0123】また、「2in1」読み込みにおいては、原

定画面で『モニタキー』の入力を行うと、下段に示す様 稿を読み取り、それをプリントする動作である。図16 る。試し掃りは、設定されているモードで送信される原 [0124] 図161は、試し扱りの操作フローであ 『ストップキー』を入力すると、送信を止めることがで ルタイムで表示される。また、モニタで送信状態の時に に送受信状況が表示される。この送受信の状況は、リア 2は、モニタの操作フローである。図162の上段の脚

**苺、受信文徴を確認できる。また送信文徴に関しては** 信の通信結果を確認するためのレポートである。図16 の操作フローである。通信管理レポートとは、送信、受 再送信、消去、プリント、宛先開始時刻、発信人名称の ローである。メモリ照会では、メモリの中にある送信文 ができる。図165~図168は、メモリ照会の操作フ 6 4の画面に移行し、通信結果レポートを表示すること 3の画面で『通信結果レポート』を入力することで図1 【0125】図163、図164は、通信管理レポート s

> の選択を行う。ここで、『送信文俳リスト』を選択する 変更ができる。宛先の変更は通過、削除、修正ができ て『ブリントキー』を入力すると最下段の表示に移行 と第3段の画面に移行する。ここで所望の文母を選択し 入力すると第2段の設定画面に移行し、表示するリスト る。受信文掛は、リストプリントを行うことができる。 了後再び第3段の表示に戻る。 【0126】図165の最上段で『メモリ照会キー』を 選択された送信文仰をプリントする。そして出力終

消去をしない場合には『取消キー』を入力することによ に移行する。ここで、この文麿を消去してよい場合には えば約2秒後に再び図165の第3段の表示に戻る。こ すると図166の第2段の設定画面に移行する。そし ストより所留の文徴をセンタして『再送信キー』を入力 【0127】一方、第3段の設定画面で、表示されたり 示は再び、図165の第3段の表示に戻る。確認画面で こで、表示されたリストより所望の文母をセンタして て、再送信の手続を行い、所定時間この画面表示後、例 り選択文書を消去しないで図165の第3段の表示に戻 『OKキー』を押下してこの文質を消去する。そして表 『消去キー』を入力すると図166の第3段の確認画面

に移行し、送倡文哲リストをプリントしている旨を報知 すると図167の碌上段の表示に移行する。ここで、 5の第3段の表示に戻る。ここで、『変更キー』を入力 する。そして所定時間、例えば約2秒経過後再び図16 トプリントキー』を入力すると図166の段下段の表示 【0128】図165の第3段の画面において、『リス 「宛先」を選択すると第2段の表示に移行する。ここ

で、第2段で『追加』を選択すると宛先の追加が可能と ことを表示する。これを所定時間、例えば約2秒間行 なり、ここで『OKキー』を入力すると当該選択文獻が で例えば「削除」を選択すると第3段の陥認画面切示と い、その後に図168の最上段の表示に移行する。 い、16件入力される、更に『テンキー』が入力される 段の表示に戻る。このようにして順次宛先の追加を行 削除され、『取消キー』が入力されると削除せずに第2 なり、『テンキー』より順次宛先を追加していく。ここ と最下段の表示となり、これ以上の同報が指定できない

キー』を入力することにより修正せずに図167の第2 段の表示に戻る。一方、修正を中止する場合には『取消 ンキー』で修正可能となる。ここで所望の修正を行い 段の確認画面に移行し、現在表示されている宛先を『テ た場合 (テンキーダイヤルのみ) には、図168の第4 【0129】更に図167の第2段で『修正』を選択し 『OKキー』を入力すると修正が行われ図167の第2

移行し、開始時刻の設定が可能となる。ここで所望の開 始時刻』を選択した場合には図168の第4段の表示に 【0130】更に、図167の最上段の設定画面で『開

> 始時刻を設定し『OKキー』を入力すると開始時刻設定 が行われ図167の第2段の表示に戻る。一方、時刻設 定を中止する場合には『取消キー』を入力することによ り時刻設定せずに図167の第2段の表示に戻る。

戻る。一方、時刻設定を中止する場合には『取消キー』 と発信人名称の選択が行われ図167の第2段の表示に 発信人名称を選択する。そして『O K キー』を入力する に移行し、発信人名称を選択可能となる。ここで所望の を入力することにより発信人名称の選択をせずに図16 **信人名称』を選択した場合には図168の第2段の表示** 

することにより図165の第2段の表示に戻る。 文掛リスト処理を終了する場合には『OKキー』を入力 経過後再び図166の礎上段の表示に戻る。ここで受信 している旨を報知する。そして所定時間、例えば約2秒 8の段下段の表示に移行し、受信文書リストをプリント る。ここで『リストプリントキー』を入力すると図16 ト』を選択すると図166の最上段の設定画面に移行す

消キー』を入力することにより図169の第2段の表示 示する。なおここで、登録処理を終了したい時には『取 Kキー』を入力して所定時間最下段の登録確認画面を表 が順次表示される。そして入力結果がOKであれば『O 図170の第3段の表示に移行し、入力される電話番号 イヤルの登録を行う。ここで『テンキー』を入力すると 未登録の場合には第3段の表示に移行し、ワンタッチダ ダイヤルの(01)が選択される。ここで、(01)が タッチダイヤル』を選択すると、先ず最初にワンタッチ に移行する。ここで、登録する項目を選択する。『ワン 画面で『ダイヤル登録』を選択すると第2段の段定画面 ルの登録の操作フローである。図169の吸上段の設定

は『略称キー』を入力し、図169最下段において相手 て『〇Kキー』を入力すると図170の最下段の登録的 行し、F網への登録が可能となる。ここでF網を設定し 段の表示の如くに略称が含まれたものとなる。ここで と図170の第3段に戻る。なお、この時の表示は最上 先略称を入力する。入力終了後『〇Kキー』を入力する 69の第2段の表示に戻る。 認画面に移行し、『取消キー』を入力した場合には図) 『F網』を選択すると図171の第2段の設定画面に移 【0134】図170の第3段で略称も登録する場合に

の表示に戻る。更に、図169の第2段で『ワンタッチ 電話番号の題に「ポーズ」が挿入される。ここで『OF キー』を入力すると図170の級下段の確認画面に移行 キー』を入力すると図171の級下段の画面に移行し、 【0135】また、図170の第3段の画面で『ポーズ 『取消キー』を入力した場合には図169の第2段

【0131】更に、図167の瓜上段の設定画面で『発

6

【0132】一方、図165の第2段で『受信文徴リス

【0133】図169~図171は、ワンタッチダイヤ

3

特照平7-38686

3段の画面に移行し、上述した手順で登録を行う。 を表示する。この登録内容を変更する場合には『消去キ の設定画面に移行する。そして現在登録されている内容 1)がすでに登録されている場合には図170の段上段 ダイヤルキー』入力時に、ワンタッチダイヤルの(0 り、『OKキー』により消去を確認すると図169の第 ー』を入力する。これにより第2段の消去確認画而とな

に移行し、所定時間、例えば約2秒間この表示をした後 の印括帜に登録することができる。短縮ダイヤルは、 ッチダイヤルの登録に移行する。以下、(01)の場合 図171の上段の設定画面に移行し、(02)のワンタ 合には『OKキー』を入力することにより級下段の表示 174が図171に対応する。なお、図175は短箱ダ 述したワンタッチダイヤルと同様にして登録でき、図 録の操作フローである。短箱ダイヤルは、相手先路称の他に、電話頓登録ができる。電話頓は、"あ"~"ん" と同様にして個次ワンタッチダイヤラへの聲聲を行う。 72が上述した図169に、図173が図170に、 【0137】図172~図175は、短箱ダイヤルの登 【0136】また、図170の吸上段の表示でOKの場

を選択すれば中段の表示に移行し、また、中継指示があ こで「送信スピード」を選択して所望の送信速度を、 ば「OKキー」又は「取消キー」を押下する。また、 **画面に移行する。そして、ここで元の画面に戻りたけれ** 述した図170、図171、図173、図174で『オ **ル、短結ダイヤルのオプションの設定フローである。上** プションキー』が押下されると図176の碌上段の設定 【0138】図76、図177は、ワンタッチダイヤ 『国際回線』を選択して回線を選択する。『親展送信』

イヤルの仕方を示している。

に移行する。これらの設定がOKであれば『OKキー』

れば『中雄指示キー』を入力することにより下段の表示

を入力して所望の処理を実行する。

行し、この設定でよければ『OKキー』を入力する。こ 定できる。既に設定されていれば図179の第1段に移 画面を経て『O K キー』の入力により図 1 7 8 の第 2 段 変更する場合には『消去キー』を入力し、第2段の確認 れにより第3段の画面に移行する。一方、ここで設定を ループダイヤルを短縮又はワンタッチダイヤルの中に悶 ープダイヤル』を選択すると第2段の画面に移行し、 録フローである。図178の第1段の設定画面で『グル ている。図178~図181は、グループダイヤルの翌 **線及び送信スピードのキー入力毎の選択表示順序を示し** 【0 1 3 9】なお、図 1 7 7 は当該処理における国際回

50 きる。設定がOKであれば『OKキー』を入力して図 ッチ』に設定の場合には第4段の画面でそれぞれ設定で で、『短額』に設定の場合には第3段の画面、『ワンタ イヤルを短縮又はワンタッチダイヤルに設定する場合 【0140】図178の第2段の設定画面でゲループダ

79の第3段の表示に移行する。そしてグループ略称を入力する場合には第4段の画面で略称を入力する。入力 入力する場合には第4段の画面で略称を入力する。入力 終了後『O Kキー』を入力すれば図180の第1段の画 面に移行し、登録站認画面が所定時間例えば約2秒間表 示され、その後第2段の表示に移行し次の場所への登録が可能となる。

表示される。消去してよければ『〇 K キー』の入力で図 行う。また、第3段の画面で電話機でグループダイヤル める時には『取り消しキー』を入力して図178の第3 び図179の第3段の画面に移行する。また、この図1 を設定する場合には「電話帳」を選択して図180の第 4段の暗認画面でダイヤルを登録する。そして『〇ドキ 段又は第4段の画面に戻る。 179の第4段の表示に移行する。一方、消去を取り止 181の第1段の表示に移行し、宛先消去の確認画面が 79の第3段の画面で、『宛先の消去』を選択すると図 3 段の回値としては話録かの選択し、『OKキー』で用 ー』で図179の第4段に移行し、グループ略称入力を 181の第3段の画面として『テンキー』を入力して第 ープダイヤルを設定する場合には『短娘』を選択して図 **【0141】一方、第3段の画面で短箱ダイヤルでゲル** 20 6

【0142】図182〜図184は、メールポストの登録プローである。この場合にも上述した設定と同様であるが、図182の第2段の画面で既に登録されている時には図183の第1の画面に、「ជ結疫」が選択された時には図184の第3段の画面に移行し、第3段又は第4段の表示で「O Kキー」を入力すれば図183の第3段の画面に移行する。

【0143】図185~図188は、中様グループの登録プローである。この場合も上述した登録プローの場合と両様であり、図185の第3段の画面で「014十」が入力されると図185の第3段の画面で「014十」が入力する。図189は、ユーザ電話番号の登録プローである。下段に示す様にユーザ電話番号を「デンキー」は入力する。図191と、プロマー・ファーであるが、図1910類プローである。図191、図192は、発信人名称の登録プローである。各操作は上述同様であるが、図1910類3段で「消去」を介践り、であれば選択名称が消去され、下段の登録画面となる。登録は図191の第2段の画面に掲行し、することにより図191の第2段の画面に移行する。

【0145】図193は、道信管理レポート時刻の設定フローである。図の設定画面により通信管理レポート時刻を登録できる。図194~図197は、銀展ポックスの登録フローである。図194の第1段の設定画面により順次ガイダンスに従ってボックス番号を設定し、続いて第4段の画面で『テンキー』を入力すると図195の上段の回面に移行し、パスワードを入力する。続いて下

段で親展ボックスの略称を入力し、ここで入力OKであれば「OKキー」を入力する。これにより下段の回面より図194の第2段の回面に戻る。そして次の親展ボッ

【0146】以上の例は貎原ポックスが未登録の場合であり、指定貎展ポックスが既に登録済であれば図194の第3段の画面より図196の第1段の殷定画面に移行し、パスワード応力適正となる。パスワード入力が正しくなければ第2段より図197の第1段の画面に移行し、正しいパスワード入力を促す。パスワード入力が正し、正しいパスワード入力を促す。パスワード入力が正

しければ第2段より第3段の画面となる。
【0147】ここで変更内容の選択が可能となり、「パスワード変更」を選択した場合には図197の中段第2段の設定画面に移行し、ここで変更を行い再び図196の第3段の画面に移行し、ここで変更を行い再び図196の第3段の画面に移行し、略称を変更後再び図196の第3段の画面に存る。「ボックス消去」を選択した場合には第4段の経歴画面に移行し、消去のKであれば「O Kキー」を入力する。これにより図194の第2段に戻る。図196の第3段の画面からも「O Kキー」を入力することにより図194の第2段に戻る。

【0148】図198は、ボーリング1/Dの設定フローである。ボーリング1/Dは、「1」と「0」の組み合せであり8桁の数字である。これを図の様にして設定する。図199は、スピーカ音型の設定フローである。これを図の様にして設定する。

【0149】図200は、ボーズ時間の数定フローである。これを図の様にして設定する。図201、図202は、規準モードの変更の数定フローである。規準モードとは、規模は、画質、画質であり、これらを原物のモードとして登録することができる。また初期値に戻すことできる。これを図の様にして設定する。図201の第3段の画面において、「0Kキー」を入力すると図202の第1段の画面に移行し、この画面で「0Kキー」を入力すると所定時間別えば約2秒間「登録しました」の表示を行った後図201の第1段の画面に、「取消キー」を入力すると図201の第3段の画面に移行する。また、図202の第2段の画面で「0Kキー」又は「取消キー」を入力した場合には図201の第3段の画面に移行する。また、図202の第2段の画面で「0Kキー」又は「取消キー」を入力した場合には図201の第43段の画面に移行する。また、図202の第2段の画面で10Kキー」又は「取消キー」を入力した場合には図201の第403段の画面に移行する。

[0150]また、図201の第4段の画面で「OKキー」を入力すると図202の第3段の画面に移行する。この画面で「取消キー」を入力すると図201の第3段の画面に、「のボキー」を入力すると図201の第3段の画面に、「OKキー」を入力した場合には、所定時間例えば約2秒間「初期化しました」の表示をした後図201の第1段の画面に戻る。図203、図204は、ユーザソフトスイッチの設定の操作フローである。従来のファックス機能のユーザソフトスイッチの設定と、ソータの装着されている機械についてはソートピンの設定も、のできる。これを図203の様にして設定する。なお、図

204はユーザンフトスイッチの項目を示している。
[0151] 図205~図208は、強却メモリ受信の設定、出力の操作フローである。これにより、強却メモリ受目の設定、出力を行うことができる。逸却メモリ受目は、受信した文型をブリントするのではなく、強却は「メモリで代行受債を行うことである。強制メモリ受信は、明治時期、投了時刻、指定時間なしの数定ができば、開始時期、挨了時刻、指定時間なしの数定ができば、開始時期、共了時刻、指定時間なしの数定ができる。また強制メモリ受信では、バスワードを設定することができる。さらに出力は、強制受信した文章を出力す

[0152] 図205の第1段の画面で「独制メモリ受信」を選択すると、パスワードの数定があれば図206の第1段の画面に移行し、ここでパスワードを入力すると第2段の画面に移行し、ここで、「O Kキー」を入力した時に、入力じたパスワードが正しければ図207の第1段に移行する。一方、正しく無ければ図205の中段に移行する。一方でで、「D Kキー」を入力すると再び図206の中段の画面に移行する。

【0153】また、図205の第1段の画面で「強御メモリ受信」の選択時、パスワードの設定が無ければ図2070万第1段の画面に移行する。ここで強制メモリ受信のモードを選択し、ここで「パスワード設定キー」を押下するとパスワードの設定が可能であり、図205の下段の表示に移行する。ここでパスワードを入力すると図205の下段の画面に移行し、これでよければ「OKキー」を押下する。すると図207の第1段の画面に戻る。

【0154】一方、図207の第3段で時間帯を設定して『0Kキー』を入力すると図208の第3段の表示にて『0Kキー』を入力すると図208の第3段の表示に移行し、送信可能となる。また、図207の原下段の確認画面『0Kキー』を入力すると図208の段下段の確認画面に移行し、送信可能となる。なおこの画面で『指定なしに移行し、送信可能となる。なおこの画面で『指定なした手一』を入力すれば、図207の第3段の副面に移行す

[0155] 更に、図207の第1段の画面で『出力キー』を入力した場合には、図208の第1段に画面(受信文部ありの場合)、又は第2段の画面(受信文部なしの場合)に移行する。第1段の画面の場合には受信文部出力後図207の第1段の画面に戻り、第2段の画面の場合には所定時間例えば約2秒間接過後自動的に図207の第1段の表示に戻る。

â

【0156】図209、図210は、リストプリントの 銀作フローである。図209の上段で「リストプリント」を選択し、中段でリストプリントを行う項目を選択し、下段の画面で「OKキー」を押すことでリストプリントを行うことができる。このプリント中は図210の 画面となり、プリント終了後図209の中段の表示に戻る。なお、図209の中段及び下段の画面で「政治キー」を入力した場合には上段の画面に戻る。

【0157】図211~図219は、文字入力画面での

(18)

特別平7-38686

(4) 「操作フローである。入力モードには、漢かな、コード、 受信の カナ、英字の入力モードがあり、そのいずれかを選択 (5) カナ、大力を行う。図211の画面より「入力モードキーリ会 「大神下する毎に、図211、図212、図213、 強制的 図214、図205、図211の画面をローデートす (5) も。なお、図213の画面で「小文字キー」を入力する と図216の画面に移行する。ここで「入力モードキー」を入力すると図216の画面に移行する。ここで「入力モードキー」を入力すると図214の画面に移行する。

1 漢字変換があり、入力文字を変換できる。即ち、図211で例えば「Aキー」を入力した場合には図217の第1段の画面に移行し、「単漢字」を選択すると図218の上段の画面に移行する。一方、例えば図211で「Kキー・Oキー・Nキー・Dキー・Uキー」と入力して「変換キー」を入力したような場合には図217の第2段の画面より第3段の画面に移行する。ここで、例えば選字候補を見て「テンキー」の「2」を入力すれば図219の上段の表示の如くに所望の漢字が選択される。
[0159] 一方、図217の第3段で変換するのが3がでよい場合には左矢印キーで入力の3桁のみ選択して「変換キー」を入力する。これにより図219の下段の表示となり、3桁での漢字候補より選択可能となる。図表示となり、3桁での漢字候補より選択可能となる。図表示となり、3桁での漢字候補より選択可能となる。図表示となり、3桁での漢字候補より選択可能となる。図表示となり、3桁での漢字候補より選択可能となる。図表示となり、3桁での漢字候補より選択可能となる。図表示となり、3桁での漢字候補より選択可能となる。図表示となり、3桁での漢字候補より選択可能となる。図表

7は、図4の処理でファイルモードが選択された場合のフローチャートである。 フローチャートである。 【0160】まず、ステップS701でファイル操作の 初期に設定が行われる。続いてステップS702で操作 パネルにファイル記録が検索かのモード選択を表示し、

初期に設定が行われる。続いてステップS702で操作パネルにファイル記録か検索かのモード選択を表示し、パネルにファイル記録か検索かのモード選択を表示し、操作者よりのキー入力を待つ。記録キーが選択された場合にはステップS703に進み、記録条件設定を行い、続いてステップS704でリーダ部1より原稿を読み込み、ステップS705でファイル部5にデータを送り、ファイルの外部記憶装置6に記録する。そして図4のステップS401に戻る。

【0161】ステップS702でファイル検索キーが選択された場合にはステップS706に進み、検索条件数定が行われる。続いてステップS707で外部記憶装置6よりファイルの検索が行われ、ステップS708で結果が出力される。そして図4のステップS401に戻る。図8は、図4において、コンピュータインタフェースに外部からコマンド・データが入力された場合の処理を示すフローチャートである。

50 【0163】一方、ステップS803でプリンタ部2が

モリ部9に入力データを記憶し、ステップS803に戻 動作中の場合にはステップS805に進み、イメージメ でのデータ出力後、図4のステップS401の初期設定 S804に進み、印刷する。そして、ステップS804 る。そして、プリンタ部2が動作中でない時にステップ

いてはLIPS/PSが選択可能であることよりLIP するとステップS307に進む。ステップS307にお にポストスクリプトのPSボードが接続されているかど された) ことを検知するとステップ 5 3 0 2 に進む。ス めの制御を示すフローチャートである。 ステップ S 3 0 S/P S選択画面を図221に示す。 かユーザの使用状況にあわせて設定できる。このLIP S/PS選択両面を表示する。そして、LIPSかPS うか検知する。PSボードが接続されていることを検知 プS305に進む。ステップS305においては、さら LIPSボードが接続されているか否かを検知する。L 1において、操作部でプリンタモードが選択された(押 【0164】図220は、フォーマッタ部を選択するた IPSボードが接続されていることを検知するとステッ テップ S 3 0 2 においては、プリンタフォーマッタ用の 20

のデータをクリアできる。

作モードに登録されている設定値に戻したりする場合に どで一時的に変更したプリント環境を、現在使用中の製

『プリンタリセットキー』を押すことでプリンタ内

とステップS303に進む。ステップS303におい たことを確認する。このPS股定画面を図223に示 S設定画面を表示する。これによって、PSが設定され 場合にはステップS304に進み、PSを設定するとP Sボードが接続されていないことを検知するとステップ て、PSボードが接続されているかどうか検知する。P Sの初期画面を図222に示す。また、ステップS30 が終了するとLIPSの初期画面が表示される。これに み、LIPSが設定されると設定画面が表示され、設定 続されていないことを検知するとステップS306に進 S301に戻る。ここで、PSボードが接続されている 2 でLIPSボードが接続されていないことを検知する よって、LIPSが設定されたことを確認する。LIP 【0165】一方、ステップS305でPSボードが接

A:基本操作部の各キーについて以下に簡単に説明す を以下に記す。まずLIPSについて説明する。 【0166】次に、プリンタモードの設定の操作フロー

ントできる。

る。図224、図225は、プリンタの基本股定フロー キー』を押すと『オンラインキー』が反転してオンライ インの状態でしか行なうことができないためである。 段に示すオンラインの状態にする。プリントは、オンラ である。『オンラインキー』を押すことで図224の上 ン状態になる。これによりプリンタ部2によるプリント 「オフラインキー」が反転している状態で「オンライン

インの状態でしか行ならにとがで無いため、色のローカ **ルな助作を行わせる場合には『オフライン』状態とする** 【0167】プリント以外の操作をするときは、オフラ 50

> できる。また、ホストコンピュータ側からのコマンドな には、オフライン状態で『排出キー』を押すことでプリ に移行させ、オフラインの状態にする。『オンラインキ ー」が反転している状態で『オフラインキー』を押すと とで、図224の上段の画面より図225の上段の画面 必要があり、この場合には『オフラインキー』を押する ネル全面の状況表示ランプが緑色に点灯する。この場合 ンタ内に残ったデータをプリントして排出させることが 【0168】プリンタ内にデータが残っている場合、パ 『オフラインキー』が反転してオフライン状態になる。

る。中段で「手差し」以外を選択した時には、一定時間 であれば「OKキー」を入力することで上段の画面に見 に移行し、手差しの用紙サイズを選択する。そしてOK トレイを選択できる。「手톂し」を選択時は下段の画面 示して給紙方法を切り替え、給紙カセットまたは手楚し 後に上段の画面に戻り、ここでは選択された用紙だけを 25の中段の画面に移行させ、カセットサイズを全段要 【0169】更に、『給紙選択キー』を押すことで図2

すことで図224の中段の画面に移行させることがで せることができる。また、「テストプリントキー」を押 力キー』を押すことで傾照類の罫線やタイトル等のよう 字サンプルやプリンタに登録されている情報などをプリ 25の上段の画面に戻る。このテストプリントにより文 プリント実行中を報知する。そしてプリント終了後図2 ントの種類が選択されると下段の画面に移行し、テスト 225の上段の画面に戻る。しかし、ここでテストプリ ここで、選択せずに『OKキー』が押された場合には区 き、ここでテストプリントの種類選択画面を表示する。 き、中に入るデータをフォーマットに重ねてプリント楚 トがある場合、あらかじめフォーマットを作成してお 【0170】図225の上段の画面で『オーパーレイ出 プリントしたい文書の各ページに共通のフォーマッ

差せることができる。 エラーが起きて、プリントが中断された場合に、『エラ ースキップ』を押すとエラーを無視してプリントを続け 【0171】なお、本実施例では、プリントで何らかの

ためのメニュー表示に切り替わる。このため切り替わっ B:応用操作部のキーを押すと基本操作部がその機能の 操作部の各キーを以下に説明する。 たメニューのキーを選択して、操作を進めていく。 応用

第2段に移行し、環境設定のモードが選択可能となる。 設定のモードから、「環境設定キー」を押すことにより 定を行なう操作フローである。図226の第1段の環境 【0172】図226、図227は、プリントの環境問

> きる。 設定がよければ第4段の画面で『OKキー』を入 **樹小、擬補圧、機補圧、ソーター、両面など)、ロビー** てこで「環境設定」を選択して第3段、第4段の画面に 移行させることにより、フォント(漢字コード、サイ 一』を入力することにより図226の第2段の画面に戻 力して図227の下段の確認画面に移行させ、『終了キ ズ、漢字番体など)、拡張機能(2ページ印刷、拡大/ メモリサイズ(受信パッファ、キャッシュ)の設定がで ト、(ページの向き、自動改行、自動改ページなど)、 /田七(ロパー校数、 ギーパーフ ~1 など)、 フイアウ

なお、「Cキー」を入力すれば保存を行わずに図226 した」の表示をした後図226の第2段の画面に戻る。 メモリに保存され、一定時間例えば約1秒間「保存しま り、『OKキー』を入力することにより設定した内容が **-」を押すことにより、図227の上段の画面表示とな** 【0173】この第2段の画面で「環境設定の保存キ

期化キー』を押すことにより、図227の中段の画面に 力すれば初期化を行わずに図226の第2段の表示に戻 後図226の第2段の画面に戻る。なお『Cキー』を入 定時間例えば約1秒間「初期化しました」の表示をした る。『OKキー』を入力することにより初期化され、一 移行し、工場出荷時の設定値に初期化することができ 【0174】図226の第2段の表示で『環境股定の初

用操作部にサプメニューを表示しているとき、そのメニ **樹能を選択すると、操作を進めるためのキーや、中止す** 面に戻る。なお、『終了キー』では、環境散定など、応 る。『OKキー』では、選択したキーの機能を確定し キー』を入力することにより、操作の途中で、後の操作 るためのキーが表示される。具体的には、「オンライン ューの表示を終了する。これは本実施例の一連の説明に 一』では、選択した機能を取り出して、10前の操作画 て、次の操作画面を表示し、『Cキー』または『取消キ を省略してオンライン状態の基本画面に戻すことができ

る。選択された項目値に合わせて、設定値メニュー(J の項目値が反転表示になり、選択されたことを表示す すると、パネルの基本操作部にメニューが表示される。 **字コードなど)の下の↓キーを1回押すたびに、1つT** キーまたは↓キーを押して選択する。項目メニュー(彦 それぞれのメニューは4項目まで表示されますので、1 に、↓キーまたは↑キーを押して、殼定値を選択する。 させる場合は、↑キーを押す。設定値メニューも同様 と、続くメニュー画面が表示される。上の項目値を表示 ISなど)の内容が切り替わる。さらに↓キーを押す 【0177】図228~図231は、ダンプ/動作モー

6

の第2段の表示に戻る。

共通である。 【0175】このように、環境設定や動作モードなどの

【0176】「環境股定キー」を押してフォントを選択 â

8

特開平7-38686

録しておくことができる。 に関する設定をあらかじめ動作モードとしてメモリに登 きる。また、ホストコンピュータやアプリケーションソ **でプリントされるダンプリストをプリントすることがで** ュータから送られたコマンドやデータが、そのままの形 ドの操作フローである。この処理により、ホストコンピ フトにあわせて、コントロールコマンドとプリント環境

て使い分けることができ、図228の最上段より最下段 容は、電源を切っても消えない。 リ)に登録される。 パックアップ RAMに登録された内 パックアップR AMと呼ばれるメモリに(不信発在メモ モードの登録を行なうと、その内容はプリンタボードの の設定画面により動作モードの選択が可能となる。動作 [動作モード2]、[動作モード3]の3種類を登録し 【0178】 慰作モードとして、 [ 慰作モード1]、

ー』を入力して第4段の動作モード選択画面にし、『劇 とにより図229の第2段にし、『実行キー』を入力し 228の第1段の画面に戻るが、「〇Kキー」を押すこ 回面にする。そこで「動作モード」を選択し、「OK # そして画面は図231のオンライン画面となる。 ー』を押すことにより第2動作モード2が設定される。 て助作モード2を実行して第3段の表示とし、『OKキ の画面に移行する。ここで『取消キー』を入力すれば図 作モード2』を選択する。これにより図229の第1段 動作モード』を押し、第2段のダンプ/動作モード選択 228の第1段の森谷画画でオフライン時、「ダンプノ 【0179】例えば、動作モード2を選択する場合、図

なる。ここで、「OKキー」又は「取消キー」を入力す て1枚の用紙にプリントすることができます。 矩形でスキャンして、プリントするデータと取ね合わせ することで、第2段以降の画面にすることができ、レタ る。図232の第1段の画面で『スキャナ合成』を選択 ることにより図229の第1段の表示になる。図232 入力した場合には図230の画面に移行し、変更可能と ーヘッドやロゴマーク、イラストなど、原稿の一部分を 〜図235は、スキャナ合成を選択する操作フローであ 【0180】なお、図229の第2段で『変更キー』を

面でスキャナ合成するプリントデータのページ数を指定 段の画面に移行し、指定されたエリアの外側あるいは内 る。各画面で『OKキー』を入力すると図233の第2 を使ってペン入力(第2段の画面)するかテンキー入力 成』を押し、第2段の画面としてオプションのエディタ 側だけをスキャンすることができる。そして第3段の画 (第3段の画面)により画像をはめ込むエリアを設定す 【0181】図232の第1段の画面で「スキャナ合

面で『取消キー』を入力すれば図232の第1段の画面 合成」を選択して第1段の画面にする。この第1段の画 『OKキー』を入力して第4段の画面とし、『スキャナ 【0182】ここで全てのページを合成する場合には

2

特朋平7-38686

指定又は迎続かを選択する。 を入力し、図234の上段の画面に移行させ、ページ数 3段で全てのページを合成しない場合には『連続キー』 第2段、又は第3段の画面に戻る。一方、図233の第

キー』を入力すれば入力毎に1点づつ遡ってクリアされ 力をする場合には、第4段に示す様に入力結果が表示さ る。入力0Kであれば『0Kキー』を入力して図233 キー』を入力すれば第1段の画面に、『ポイントクリア れる。このため、この画面で入力結果を確認し、『取消 【0183】上述の図232の第2段の画面で、ペン人

能となる。そして、スキャナ合成が設定されると『スキ は図235の下段が表示される。 5の上段が喪示され、スキャナ原稿が「内側」の場合に 3の第2段でスキャナ原稿が「外側」の場合には図23 ャナ合成キー」が反転する。この場合において、図23 力すると図234の下段の表示に移行し、用紙選択が可 [0184] また、図233の画面で『給紙選択』を入

じて、プリントの遺庻を調節したり、画像の白黒をくっ は左キーでソフトに、右キーでハードになる。 コピー操作と同様である。シャープネス調節により画像 きりさせたりすることができル。適度の顕節に関しては フローである。文字原稿や写真原稿など原稿の細類に応 36~241に示す。図236は、画質を選択する操作 【0185】スキャナ合成を指定すると、合成オプショ ンキーで画像処理を加えることができ、この処理を図2 20

されると図237の中段の画面となる。図237、図2 図237の中段の画面と図238の上段の画面は互いに 面となる。『オートキー』では、オート倍率で拡大/精 38の上段の画面は互いに『オートキー』を押す毎に切 倍率で拡大/掛小される。図237の中段の画面と図2 り、XY同率時は『ーキー』、『+キー』で類/梅同じ の第1段で『ズームキー』が押されると中段の画面とな 38は、ズームを選択する操作フローである。図237 で『オートキー』以外の『+キー』、『-キー』が選択 なる倍率で拡大/縮小する。 小し、挺/模独立のオート倍率XY独立時は、擬/模異 キー』、『ーキー』が選択されると図237の中段の回 り替わり、図238の上段で『オートキー』以外の『+ 【0186】図237、図238がズーム処理であり、 『オートキー』を押す毎に切り替わり、図238の上段

操作と同じである。図239の第3段又は第4段で『0 回面に、『エリアクリアキー』を入力すると図239の 0の上段で『Cキー』を入力すると図239の第1段の Kキー』を入力すると図240の下段に移行し、図24 である。パターン化処理、マーカー処理も同様にロアー 作フロー、図241は人メージクンエイトの媒介フロー 【0187】図239、図240はトリミング移動の樹

> して、フェースの設定、ソーターの設定、両面プリント たりして希望の濃度に関節することができる。「濃度キ の設定、カード名称の設定内容が表示される。 称などのオプション信報を暗認することができる。『オ カードスロットに取付けられているフォントカードの名 一』は、オンライン/オフライン状態に関係なく選択で きる。図243は、オプション情報を確認する操作フロ フローである。プリントする濃度を濃くしたり、諄くし プション確認キー』が押されるとオプション確認が反転 ーである。ソーターや両面プリントなどの設定情報や、 **【0188】図242は、プリント適度を調節する操作**

動作中でなければステップS903に進み、プリンタ部 ミリ受信であった場合の処理を示すフローチャートであ ンタ邸2が動作中かどうか判定される。 プリンタ郎2が シミリ受信が行われる。 続いてステップ S 9 0 2 でプリ る。まず、ステップS901でファックス部4でファク 2にデータが送られ、印刷される。 【0189】図9は図4のステップS406でファクシ

動作中の場合にはステップS904に進み、受信データ S 4 0 1 に戻る。 3)。プリント終了後、初期設定である図4のステップ ントアウトされる(ステップS902、ステップS90 S 9 0 2 に戻り、プリンタ部2が動作中でない時にプリ をファックス部4のハードディスクに記憶してステップ 【0190】もし、ステップS902でプリンタ部2が

の場合、図244のフローチャートのように、ステップ み、用紙がないことを表すメッセージを表示する。この S1011で選択しているカセットに用紙があるか否か システムに対しての表示に分れる。コピー機能に対して **の表示は、コピー機能に対しての表示と、コピー以外の** いときのフローチャートである。本実施例では、紙なし メッセージを図246に示す。 ジを表示し、用紙がなければステップS1013に進 プS1012に進み、コピーできることを表すメッセー を調べ、選択しているカセットに用紙があれば、ステッ 【0191】図244、図245はプリントする紙がな

るカセットに紙がなくなったか否かを監視する。システ 図245のフローチャートに示す模に、先ずステップS ステップS1003でシステム機能が使用できるメッセ 受信すると設定したときに A 4の紙がなかったときや、 **へき用紙サイズの紙が無いかどうかを悶べる。ここで、** ある場合にはステップS1002に進み、ここで出力す ム機能でプリント中に紙を補給しているカセットに紙が 1001でシステム機能でプリント中に紙を補給してい ージを表示する。例えば、より大きいサイズの紙の表示 上の紙がなかったときなどである。紙がある場合には、 A 3用紙を70%に縮小して受信したときに、 A 4 R D ファックスで出力すべき用紙がないときは、必ず A 4で 【0192】コピー以外のシステムに対しての場合は、

> るカセット段に、用紙があって、ファックスで出力すべ なったとき、及びファックスで出力すべき用紙がないと 能でプリント中に抵を結絡しているカセットに抵がなく きにはステップS1004に進み、紙なしを表す小ウィ す表示をする。ファックス設定画面では図248のよう き用紙がないときは、コピー設定画面では図247に示 ンドウを表示する。例えば、コピー機能で選択されてい

から動作が行なわれたときの動作について説明する。ま る。例えば、コピー画面を表示しているときにファック 示して点域させる。次に他のシステムの動作が終了する る。コア部から他のシステムが動作していることを表す いる時に、表示されている般定画面とは異なるシステム マッタ部からの出力があると、図250のように表示さ ファックス画面を表示しているときに、プリンタフォー ス出力があるとき、例えば図249のように表示され、 と、動作していたシステムを表すアイコンだけを消去す イコンを設定しているシステムを表すアイコンの横に表 データが送信されれば、動作しているシステムを衷すア 喪すメッセージとそのシステムを喪すアイコンを喪示す ず、現在表示されている画面に、そのシステムの状態を 【0194】次に、あるシステムの設定回面を表示して

からエラーが検知されれば、ファックス画面から、コピ 号をファックス設定画面に表示する。リーダブリンタ部 が検知されれば、例えば図251に示すようにエラー番 部の2つに分類される。ファックスボード部からエラー は、リーダ部1及びプリンタ部2と、ファックスボード きのエラー処理動作について説明する。エラーの検知 ―画面に移り、コピー画面で例えば図252に示すエラ ーを表示する。 【0195】次に、ファックス画面が表示されていると

テップS1023に進み、現在表示している設定画面の 後、現在設定中の画面を表示するかどうか判断する。オ 面を表示しないと判断されたときにはステップSIO2 禁止の状態だったらステップS1021に戻る。一方、 機能がオートクリアしてよいかどうか判断する。 オート ートクリア後、現在設定中の画面を表示する場合にはス されないとステップS1022に迫み、オートクリア ーチャートである。ステップS1021で一定期間操作 【0196】図253は、オートクリア処理を示すフロ 示する画面の機能と同じかどうか判断する。 同じならス 6に進み、現在表示している画面の機能が電源ON後表 ステップS1022でオートクリア後、現在設定中の通 1025で現在設定中の機能の初期画面を表示する。 定中の画面の機能のモードをクリアし、続くステップS クリアしてよいならステップS1024に進み、現在設 [0197] もし、ステップS1023でオートクリア

【0193】一方、ステップS1001で、システム協

定を行なう共通設定が選択されたときの画面である。例 ら、モードがクリアされる。 間、操作されなかったとき、オートクリア可能な状態な を押すと、オートクリアタイムは2分と設定され、2分 間を設定し、2分と表示されているときに『〇Kキー』 定する。例えば、『一、十キー』を押すことにより、時 とができる。オートクリアタイムは図254の画面で設 アされる、オートクリア機能に関する設定などを行うこ えば、ある一定期間操作が行われないと、モードがクリ リア不可能な5ステップS1021へ戻る。 画面を表示する。ステップS1027でもし、オートク 1028に進み、すべての機能のモードをクリアし、続 リア可能かどうか判断する。クリア可能ならステップS 5ステップS1027に進み、すべての機能がオートク 【0198】一方、ステップS1026でもし異なるな くステップS1029で電源ON後表示する機能の初期 【0199】図254~図253は、各機能に共通の設

20 設定中の画面を表示するか、電源ON後初期モードで設 る。カーソルの反転を左側の(a)の矢印キーでオー の初期画面を表示する。 ば、オートクリア後、初期モードで指定されている画面 復帰しないか復帰するかを選択する。復帰しないを選へ 定される機能の画面を表示するかを選択する画面であ を表示し、復帰するを選べば、現在表示されている機能 クリア後のモードに合わせ、右側の(b)の矢印キーで [0200]また、図255は、オートクリア後、現在

30 モードが復帰しないと指定されているとき、ファックス 機能の設定画面で一定時間操作されなかったとき、すべ がコピーと指定されている場合には、オートクリア後の を設定する初期画面を表示する。 ックス、その他の機能のモードをクリアし、コピー機能 ての機能がオートクリア可能な状態なら、コピー、ファ 【0201】例えば、図256に示す様に、初期モード

ったときは、ファックス機能のモードだけをクリアし、 初別画面を表示する。 コピー、その他の機能のモードは維持してファックスの に、ファックス機能の設定画面で一定時間操作されなか トクリア後のモードを復帰すると指定されているとき ず、現在設定されているモードを維持する。次に、オー クリア不可能な状態のときは、どのモードもクリアされ 【0202】また、プリントする紙がないなどのオート

S す画面が表示され、種々のモードを設定できる。 れる。ここで『仕様設定キー』を押すと、図259に示 の画面で『仕様設定』を選択すると、図258が表示さ すと、第3段の画面が表示され、共通モードに入る。こ と第2段の画面が表示される。ここで『共通キー』を押 -を以下に記す。図257の第1段の画面は、通常コピ 【0203】次に、共通設定のモードの設定の操作プロ -を行う操作フローである。ここで、下矢印キーを押す

-21-

辞である。

テップS1023に進み、前述と同様な操作が行われ

リータイマを設定し、『OKキー』を押すと、再び上段 **戻る。この上段の両而において、『ウイークリータイ** 定し、『〇Kキー』を押すと、図260の上段の画面に 画面が表示される。ここでオートパワーオフタイムを設 トパワーオフタイム』を選択すると、図261の下段の の画面に戻る。図260の上段の画面において、「オー 中段の画面が表示され、オートクリアタイムを設定でき 設定』を選択すると、図260の上段の画面が表示され マ』を選択すると、中段の画面が表示される。ウイーク る。 設定後『OKキー』を押すと、図260の第1段目 る。ここでオートクリアタイムを選択すると図261の 【0204】また、図257の第3段の画面で『タイマ 5

日付/時刻を設定し、『O Kキー』を押すと上段の回面 時刻』を選択すると、下段の画面が表示される。 ここで 」を押すと、下段の画面が表示され、ワイヤーのクリ 整/クリーニング』を選択すると、図262の上段の画 った時は、『終了キー』を押すことにより図257の下 に戻る。この上段の画面において、すべての設定が終わ と下段の両面が表示され、フィーダのクリーニングを開 段の画面が表示される。この画面で『〇Kキー』を押す 択すると中段の心面が表示される。ここで、『OKキ 面が表示される。ここで『ワイヤークリーニング』を選 段の弧而に戻る。図257の下段の画面において、「調 ーニングを開始する。図262の上段の画面において、 [0205] 図260の上段の画面において、「日付/ 『フィーダクリーニング』を選択すると、図263の上 20

択すると、下段の画面が表示される。ここで、遠度を調 **燃し、『OKキー』を押すと再び上段の画面に戻る。ま** の画面にに戻る。また「Cキー」を押しても同様であ た『Cキー』を押しても上段の画面に戻る。 る。図264の上段の画面において、『濃度調整』を選 で、倍率の微調整を設定し、『OKキー』を押すと、元 択すると、図264の中段の回面が表示される。ここ **両面と同じである。)において、『ズーム微調鑑』を選** 【0206】図262の上段の画面(図264の上段の

のを選択することができる。 を示す。接続するもののキーを押すことで、接続するも 設定画面が表示される。次に、図266、図267に は、図257の上段の設定画面に変え、図265に示す リ) ボードのうち2つまでしか搭載されていない場合に アイルボード、プリンタボード、1・M(イメージメホ 「インタフェース」の接続の征頼を選択する操作フロー 【0207】なお、本実施例装置にファクスボード、フ

の画面が表示される。この第3段の画面は、散定モード が決まったら、『OKキー』を押す。これにより第3段 こで接続される接続ボードを選択する。選択するボード のキーを押すと、第2段の操作フローが表示される。こ 【0208】図266の第1段の画面で、接続するもの

> し、『〇Kキー』を入力することにより図266の第3 Kキー」を入力すれば図267の下段の確認画面に移行 一である。ここで各股定値の変更を行い、変更後、「0 第4段の画面は、樋々の設定値の変更ができる操作フロ ス設定」を選択すると第4段の画面が表示される。この を選択する操作フローである。ここで、『インタフェー

Kキー」又は『取消キー』を押すことにより図266の 3段の画面に戻る。 行し、『〇Kキー』を入力することにより図266の第 方、図266の第3段の画面で何も選択せずそのまま を押すことにより図266の第3段の画面に戻る。| 面が表示される。ここで『OKキー』又は『取消キー』 第3段の画面に戻る。一方、図266の第3段の画面で ると、図267の上段の画面が表示される。ここで「0 【0209】第3段の画面で「股計値の保存」を選択す 『OKキー』を押すと、図267の下段の暗認画面に移 『設定値の初期化』を選択すると、図267の中段の画

示してから『取消キー』を押すとすぐに、図267の第 戻る。また、図267の中段の画面は、設定値を初期化 る。選択後『OKキー』を押すと、「保存しました」 設定値を保存するかしないか選択する操作フローであ 3段の画面に戻る。これでインタフェースの設定変更が するかしないか選択できる操作フローである。選択後 2秒間表示してから図266の第3段の画面に戻り、 【0210】なお、上述した図267の上段の画面は **『OKキー』を押すと、「初期化しました」を2秒間表** 「取消キー」を押すとすぐに図267の第3段の画面に

30 は、図269に示すように、オートクリア後のモードを のフローチャートを図22に示す。図268において、 ア後のモードが復帰しないと設定されていたらステップ 指定し、一定期間操作されなかったときにはステップS ステップ 5 1 0 3 1 でオートクリア後のモードを指定 定されている機能の初期画面を表示する。 み、すべての機能のモードをクリアし、初期モードで指 か判断する。クリア可能ならステップS1036に進 と設定されているか否かを悶べる。ここで、オートクリ 1032に進み、オートクリア後のモードが復帰しない <第2の実施例>第2の実施例における、オートクリア 機能のオートクリア処理を区別して行うことができる。 S 1 0 3 5 に進み、すべてのモードがオートクリア可能 【0211】以上説明した様に本実施例によれば、複合 **一定期間操作されなかったか否かを監視する。例え** 

に進み、コピーと設定されているか否かを開べる。コピ 帰しないと殷定されている場合にはステップSI033 る。ステップ S 1 0 3 2 でオートクリア後のモードが復 進み、オートクリアしないでステップS1031に戻 ドがオートクリア可能でなければステップS1037に **【0212】一方、ステップS1035ですべてのモー** 

> アクシミリモードで無ければ同様に各モードに設定され み、ファクシミリと設定されているか否かを調べる。フ ているか否かを躓べる。 ーと設定されていない時にはステップS1034に進

現在表示中の機能と指定された機能(コピー機能、ファ されている場合及びステップS1034でファクシミリ も可能ならステップS1039に進み、指定された機能 クシミリ機能)がオートクリア可能か判断する。 両方と と設定されている場合にはステップS1038に進み、 と現在表示中の機能のモードをクリアし、コピーの初期 【0213】ステップS1033でもし、コピーと設定

能でないならオートクリアしなかった。 しかし本発明は **施例においては、現在表示中の機能と指定された機能** る。以上説明した様に第2実施例によれば、複合機能の に追み、オートクリアしないでステップS1031に戻 **能)がオートクリア可能でないならステップSi040** 様に制御してもよい。この様に制御した本発明に係る第 リ機能) がオートクリア可能であればオートクリアする に関係なく、指定された機能(コピー機能、ファクシミ 以上の例に限定されるものでは無く、現在表示中の機能 オートクリア処理を区別して行うことができる。 機能と指定された機能(コピー機能、ファクシミリ機 3 実施例を図270のフローチャートを参照して以下に 【0215】<第3の実施例>以上に説明した第2の実 【0214】一方、ステップS1038で現在表示中の (コピー機能、ファクシミリ機能) 共にオートクリア可

かったときにはステップS1052に進み、オートクリ リアし、初期モードで指定されている機能の初期画面を ステップS1056に進み、すべての機能のモードをク モードがオートクリア可能か判断する。クリア可能なら 設定されていた6ステップS 1055に進み、すべての べる。ここで、オートクリア後のモードが復帰しないと ア役のモードが復帰しないと設定されているか否かを闘 【0216】ステップS1051で一定期間操作されな

アクシミリモードで無ければ同様に各モードに設定され み、ファクシミリと設定されているか否かを調べる。 に進み、コピーと設定されているか否かを聞べる。コピ 帰しないと設定されている場合にはステップS1053 る。ステップS1052でオートクリア後のモードが復 進み、オートクリアしないでステップS1051に戻 ドがオートクリア可能でなければステップS1057に ーと股定されていない時にはステップS1054に進 [0217] 一方、ステップS1055ですべてのモー

されている場合及びステップS1054でファクシミリ と設定されている場合にはステップSI058に進み、 【0218】ステップS1053でもし、コピーと設定

> 値)がオートクリア可能か判断する。 指定された機能 **指定された機能(コピー機能、あるいはファクシミリ機**

2

特開平7~38686

機能と指定された機能(コピー機能、ファケシミリ機 をクリアし、コピーの初期画面を表示する。 機能のモードは維持しつつ指定された機能のモードのみ リア可能ならステップS1059に進み、現在表示中の 【0219】一方、ステップS1038で現在表示中の (コピー機能、あるいはファクシミリ機能) がオートク

6 に進み、オートクリアしないでステップS1031に戻 オートクリア処理を区別して行うことができる。 能) がオートクリア可能でないならステップS1040 る。以上説明した模に第3実施例によれば、複合機能の

きることは言うまでもない。 ラムを供給することによって達成される場合にも適用で しても良い。また、本発明はシステム或は装置にプログ システムに適用しても、1つの機器から成る装置に適用 【0220】尚、本発明は、複数の機器から柳成される

[0221]

置に任意の1つ又はそれ以上の各複数の機能を任意に付 のオートクリア処理を区別して行うことができる。 うことができる複合画像入出力装置において、複合機能 加することができ、各々の手段間でデータの入出力を行 【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、装 【図面の簡単な説明】

ロック構成図である。 【図1】本発明に係る一実施例の画像形成システムのブ

【図2】図1に示すリーダ部とプリンタ部の構成を示す

30 である。 【図3】図1に示すリーダ部にある操作パネルの構成図

【図4】本実施例のメイン動作を示すフローチャートで

ローチャートである。 【図5】本実施例のコピーモード選択時の動作を示すフ

を示すフローチャートである。 【図7】本実施例のファイルモード選択時の動作を示す 【図6】本実施例のファックス送信モード選択時の動作

の入力モード選択時の動作を示すフローチャートであ 【図8】本実施倒のコンピュータインターフェイスから

フローチヤートである。

を示すフローチヤートである。 【図9】本実施例のファックス受信モード選択時の動作

【図10】本実施例の初期設定処理を示すフローチャー

れている場合の操作部における設定画面の表示例を示す 【図11】本実施例装置がファックス部機能のみ装着さ

50 ーマッタ部、ファイル部が装箔されている場合の操作部 【図12】本実施例装置がファックス部、プリンタフォ

S

【図14】本実施例におけるコピー処理の初期画面を示

【図16】本実施例の×y独立ズーム設定画面を示す図 【図15】本実施例における応用ズームモードの表示画

法を示すフローチャートである。 【図17】本実施例のタッチパネルキーを認識させる方

郎の表示操作フローを示す図である。 【図18】本実施例の用紙を選択する処理における操作

仰の表示操作フローを示す図である。 【図19】本実施例の用紙を選択する処理における操作 【図20】本実施例の用紙を選択する処理における操作

部の表示操作フローを示す図である。 部の表示操作フローを示す図である。 【図21】本実施例の川紙を選択する処理における操作

モードを設定する処理における操作部の表示操作フロー 【図22】本実施例の濃度、文字強調モード、HiFi 【図23】本実施例の遺度、文字強調モード、HIFI

を示す図である。 モードを設定する処理における操作部の表示操作フロー

モードを設定する処理における操作部の表示操作フロー 【図24】本実施例の改成、文字油調モード、HIFI

即の表示操作フローを示す図である。 【図25】本実施例の変倍を設定する処理における操作

30

即の表示操作フローを示す図である。 【図26】本実施例の変倍を設定する処理における操作

邸の表示操作フローを示す図である。 【図27】本実施例の変倍を設定する処理における操作

部の表示操作フローを示す図である。 【図28】本実施例の変倍を設定する処理における操作

即の表示操作フローを示す図である。 【図29】本実施例の変倍を設定する処理における操作

ける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図30】本実施例のソートモードを選択する処理にお

ける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図32】本実施例のソートモードを選択する処理にお 【図31】本実施例のソートモードを選択する処理にお

ける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図33】本実施例のソートモードを選択する処理にお

ける操作部の表示操作フローを示す図である。 ける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図34】本実施例のソートモードを選択する処理にお 【図35】本実施例の両面モードを設定する処理におけ

る操作部の表示操作フローを示す図である。 る操作部の表示操作フローを示す図である。 る操作部の投示操作フローを示す図である。

【図38】本実施例の両面モードを設定する処理におけ 【図37】本実施例の両面モードを設定する処理におけ

る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図39】本実施例の両面モードを設定する処理におけ

る操作部の表示操作フローを示す図である。

10

る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図41】本実施例の両面モードを設定する処理におけ

る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図42】本実施例の両面モードを設定する処理におけ

る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図44】本実施例の選写モードを設定する処理におけ

る操作部の表示操作フローを示す図である。 る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図45】本実施例の運写モードを設定する処理におけ

る操作部の表示操作フローを示す図である。 る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図47】本実施例の表紙モードを設定する処理におけ

処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 【図57】本実施例の箱小レイアウトモードを設定する 【図55】本実施例の描小レイアウトモードを設定する 【図60】本実施例の箱小レイアウトの処理における拗 【図59】本実施例の描小レイアウトモードを設定する 【図58】本実施例の描小レイアウトモードを設定する 【図 5 6 】本実施例の縮小レイアウトモードを設定する

【図40】本実施例の両面モードを設定する処理におけ る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図36】本実施例の両面モードを設定する処理におけ

【図43】本実施例の連写モードを設定する処理におけ

【図50】本実施例の〇HP中差しモードを設定する処 る操作部の表示操作フローを示す図である。 る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図49】本実施例の表紙モードを設定する処理におけ 【図48】本実施例の表紙モードを設定する処理におけ 【図46】本実施例の迎写モードを設定する処理におけ

理における操作部の表示操作フローを示す図である。 処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 理における操作部の表示操作フローを示す図である。 **理における操作部の表示操作フローを示す図である。** 【図53】本実施例の箱小レイアウトモードを設定する 【図52】本実施例のOHP中差しモードを設定する処 【図51】本実施例のOHP中登しモードを設定する処 【図54】本実施例の描小レイアウトモードを設定する

â

作部の表示操作フローを示す図である。 る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図62】本実施例の多瓜モードを設定する処理におけ 【図61】本実施例の多瓜モードを股定する処理におけ

る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図64】本実施例の移動モードを設定する処理におけ

る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図66】本実施例のとじ代モードを設定する処理にお

ける操作部の表示操作フローを示す図である。 ける操作部の表示操作フローを示す図である。

ける操作部の表示操作フローを示す図である。 ける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図70】本実施例の枠消しモードを設定する処理にお 20

たある。

ける操作部の表示操作フローを示す図である。 ける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図73】本実施例の枠消しモードを設定する処理にお

処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 【図76】本実施例の色消去モードを設定する処理にお 【図75】本実施例のパターン化処理モードを設定する

ける操作部の表示操作フローを示す図である。 ける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図79】本実施例のマーカ指定モードを設定する処理 【図78】本実施例の色消去モードを設定する処理にお

における操作部の表示操作フローを示す図である。 における操作部の表示操作フローを示す図である。 操作部の表示操作フローを示す図である。 【図81】本実施例のマーカ指定モードを設定する処理 【図80】本実施例のマーカ指定モードを設定する処理 【図82】本実施例のマーカ色を指定する処理における

操作部の表示操作フローを示す図である。

【図85】本実施例の部分処理モードを設定する処理に

る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図63】本実施例の移動モードを設定する処理におけ

る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図65】本実施例の移動モードを設定する処理におけ

ける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図67】本実施例のとじ代モードを設定する処理にお

【図69】本皮施例のとじ代モードを設定する処理にお 【図68】本実施例のとじ代モードを設定する処理にお

ける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図71】本実施例の枠消しモードを設定する処理にお 【図72】本実施例の枠消しモードを設定する処理にお

処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 【図74】本実施例のパターン化処理モードを設定する

ける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図77】本実施例の色消去モードを散定する処理にお

における操作部の表示操作フローを示す図である。

【図83】本典値例のマーカ色を指定する処理における

操作部の表示操作フローを示す図である。 【図84】本実施例のマーカ色を指定する処理における S

6 おける操作部の表示操作フローを示す図である。

特闘平7-38686

おける操作部の表示操作フローを示す図である。 おける操作部の表示操作フローを示す図である。 おける操作部の表示操作フローを示す図である。 おける操作部の表示操作フローを示す図である。 おける操作部の表示操作フローを示す図である。 おける操作部の表示操作フローを示す図である。 おける操作部の表示操作フローを示す図である。 おける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図90】本実施例の部分処理モードを設定する処理に 【図87】本実施例の部分処理モードを設定する処理に 【図86】本実施例の部分処理モードを設定する処理に 設定する処理における操作部の表示操作フローを示す図 【図89】本実施例の部分処理モードを設定する処理に 【図94】本実施所のトリミング、マスキングモードを 【図93】本実施例の部分処理モードを設定する処理に 【図92】本実施例の部分処理モードを設定する処理に 【図91】本実施例の部分処理モードを設定する処理に 【図88】本実施例の部分処理モードを設定する処理に

設定する処理における操作部の表示操作フローを示す図 設定する処理における操作部の表示操作フローを示す図 【図96】本典施例のトリミング、マスキングモードを 【図95】本寅施例のトリミング、マスキングモードを

設定する処理における操作部の表示操作フローを示す図 【図97】本典施例のトリミング、マスキングモードを

30 【図98】本典施例のイメージクリエイトモードを設定 する処理における操作部の表示操作フローを示す図であ

おける操作部の表示操作フローを示す図である。 る斜体、鏡像、イメージリピート処理を設定する処理に 【図100】本実施例における輪郭処理を設定する処理 【図99】本寅施例のイメージクリエイトモードにおけ

操作部の表示操作フローを示す図である。 における操作部の表示操作フローを示す図である。 【図101】本実施例の網処理を設定する処理における

操作部の表示操作フローを示す図である。 【図102】本実施例の類処理を設定する処理における 【図103】本実施例の彫処理を設定する処理における

ô

操作部の表示操作フローを示す図である。 【図104】本実施例のネガポジ反転処理を設定する処

理における操作部の表示操作フローを示す図である。 **ナる操作部の表示操作フローを示す図である。** 【図105】本実施例の斜体モードを設定する処理にお

ける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図106】本実施例の鏡像モードを設定する処理にお 【図107】本実施例の競像モードを設定する処理にお

-36-

50

52

る処理における操作部の表示操作フローを示す図であ 【図108】本典施例のイメージリビート処理を設定す

る処理における操作部の表示操作フローを示す図であ おける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図110】本実施例のXY独立ズームモードを設定す 【図109】本実施例のシャープネスを設定する処理に

る操作部の表示操作フローを示す図である。 理における操作部の表示操作フローを示す図である。 【図111】本実施例のズームプログラムを設定する処 【図112】本実施例の拡大連写を設定する処理におけ

る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図114】本実施例のモードメモリの登録を設定する 【図113】本実施例の拡大連写を設定する処理におけ

処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 即における操作部の表示操作フローを示す図である。 【図116】本実施例の標準モードの変更を設定する処 【図115】本実施例の標準モードの変更を設定する処

処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 理における操作部の表示操作フローを示す図である。 を設定する処理における操作部の表示操作フローを示す 処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 【図117】本実施例のプロジェクタモータを設定する 【図120】 本妖忥恩のプロジェクタフイアウトホード 【図119】本実施例のプロジェクタモータを設定する 【図118】本実施例のプロジェクタモータを設定する 30

を設定する処理における操作部の表示操作フローを示す 【図121】本実施例のプロジェクタレイアウトモード

理における操作部の表示操作フローを示す図である。 【図123】本実施例のメモリ合成モードを設定する処 【図122】本実施例のメモリ合成モードを設定する処

頭における操作部の表示操作フローを示す図である。 理における操作部の表示操作フローを示す図である。 【図125】本実施例のメモリ合成モードを設定する処 【図124】本実施例のメモリ合成モードを設定する処

6

すメッセージの表示例を示す図である。

処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 理における操作部の表示操作フローを示す図である。 ーを示す図である。 【図127】本実施例のメモリ類のセモードを設定する 【図126】本実施例のメモリ類のセモードを設定する 【図228】本実施例のダンプノ動作モードの操作フロ

【図229】本実施例のダンプ/動作モードの操作フロ

ーを示す図である。 【図230】本実施例のダンプ/動作モードの操作フロ 50

-を示す図である。 -を示す図である。 【図231】本虫施例のダンプノ動作モードの操作フロ

ローを示す図である。 【図232】本実施例のスキャナ合成を選択する操作フ

ローを示す図である。 【図234】本实施例のスキャナ合成を選択する操作フ 【図233】本実施例のスキャナ合成を選択する操作フ

ローを示す図である。 【図235】本実施例のスキャナ合成を選択する操作フ

6

ションキーでの画質調整処理を選択する操作フローを示 ローを示す図である。 【図236】本実施例のスキャナ合成指定時の合成オプ

ションキーでのズーム調整処理を選択する操作フローを 中図である。 【図237】本実施例のスキャナ合成指定時の合成オプ

ションキーでのズーム間整処理を選択する操作フローを 示す図である。 【図238】本実施例のスキャナ合成指定時の合成オプ

示す図である。 ションキーでのトリミング移動処理を選択する操作フロ ーを示す図である。 【図239】本実施例のスキャナ合成指定時の合成オブ

ションキーでのトリミング移動処理を選択する操作フロ 【図240】本実施例のスキャナ合成指定時の合成オフ を示す図である。

ションキーでのイメージクリエイト処理を選択する操作 フローを示す図である。 【図241】本実施例のスキャナ合成指定時の合成オブ

ローを示す図である。 【図242】本実施例のプリント濃度を関節する操作フ

フローを示す図である。 【図244】本実施例のプリントする用紙がないときの 【図243】本実施例のオプション情報を確認する操作

表示制御を示すフローチャートである。 表示制御を示すフローチャートである。 【図246】本実施例のカセットに用紙がないことを表 【図245】本実施例のプリントする用紙がないときの

るカセット段に、用紙があって、ファックスで出力すべ ないことを表すメッセージの表示例を示す図である。 セット段に用紙があってファックスで出力すべき用紙が き用紙がないことを表すメッセージの表示例を示す図で 【図247】本実施例のコピー機能で選択されているカ 【図248】本実施例のファックス機能で選択されてい

にファックス出力があるときの表示例を示す図である。 【図250】本実施例のファックス画面を表示している 【図249】本実施例のコピー画面を表示しているとき

の表示例を示す図である。

【図252】本実施例のリーダブリンタ部からエラーが

ートクリアタイムを設定する操作フローを示す図であ

後初期モードで設定される機能の画面を表示するかを選 ートクリア後、現在設定中の画面を表示するか低源ON 【図255】本実施例の共通設定が選択されたときのオ

示す図である。 設定画面で一定時間操作されなかったときの初期画面を が復帰しないと指定されているときのファックス機能の 期モードがコピーと指定され、オートクリア後のモード

方を示す操作フローを示す図である。

102 101

原稿ガラス面 原稿給送装置

方を示す操作フローを示す図である。 【図259】本実施例の共通設定のモードの設定の開き

方を示す操作フローを示す図である。 【図260】本実施例の共通設定のモードの設定の開き

方を示す操作フローを示す図である。 【図261】本実施例の共通股定のモードの股定の別き 30

方を示す操作フローを示す図である。 【図262】本実施例の共通設定のモードの設定の開き

204,

205

転写紙積載即

方を示す操作フローを示す図である。 【図264】本実施例の共通稳定のモードの股定の開き 【図263】本実施例の共通設定のモードの設定の開き

【図265】本実施例の共通設定のモードの設定の開き

220

ソータ

特開平7-38686

が検知された時のエラー番号のファックス設定画面への 表示例を示す図である。 【図251】本実施例のファックスボード部からエラー

た場合のエラーを表示例を示す図である。 検知された時のファックス画面からコピー画面へ移行し

【図253】本実施例のオートクリア処理を示すフロー

【図254】本実施例の共通設定が選択されたときのオ

択する操作フローを示す図である。

【図256】本実施例の共通設定が選択されたときの初

【図258】本実施例の共通設定のモードの設定の開き 【図257】本実施例の共通税定のモードの設定の旧き

方を示す操作フローを示す図である。

方を示す操作フローを示す図である。 方を示す操作フローを示す図である。

選択する操作フローを示す図である 【図266】本実施例のインタフェースの接続の紐類を

ときに、プリンタフォーマッタ部からの出力があるとき

8

特開平7-38686

選択する操作フローを示す図である。 【図268】本発明に係る第2実施例のオートクリアモ 【図267】本実施例のインタフェースの接続の種類を

定して一定期間操作されなかったことを示す表示例を示 ード制御を示すフローチャートである。 【図269】第2実施例のオートクリア後のモードを指

ード慰御を示すフローチャートである。 【図270】本発明に係る第3実施例のオートクリアモ

【符号の説明】 画像入力装置(リーダ部)

6

画像出力装置(プリンタ)

外部装置 ファックス部 ファイル部

コンピュータインタフェース部 外部記憶装置

20 フォーマッタ即 **イメージメモラ**餌 コア語

105, 104 103 106, 107 ランプ スキャナ・ユニット104 ドラー

108 0 9 CCDイメージ・センセ語 (CCD)

201 110 201 203 學光体 現像器 露光制御部 画像処理部

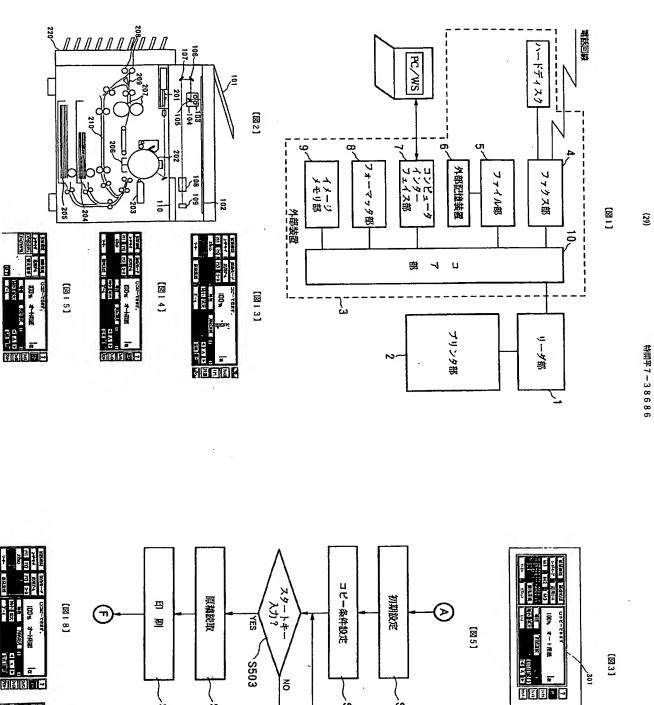
209 208 206 207 210 拼货银 定着部 配和油 再給抵用被転写抵彻蚊郎 搬送方向切り替え部材

ð 302 301 303 303 表示部 テンキー スタートキー

[図12]

[図1:]





-29-

\$ E E E \_S502 \_S504 S505 \_S501 딺 --9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 [図20] ! ファクシミリ送信 スタートキー 入力? **送信条件設定** 初期設定 原稿読取 (E) ூ Ϋ́ES [8] [図16] `S603 8 S601 S604 \_S605 \_S602

(<u>9</u>

特別平7-38686

-32-

[21]

スタート

(図4)

[818]

(E)

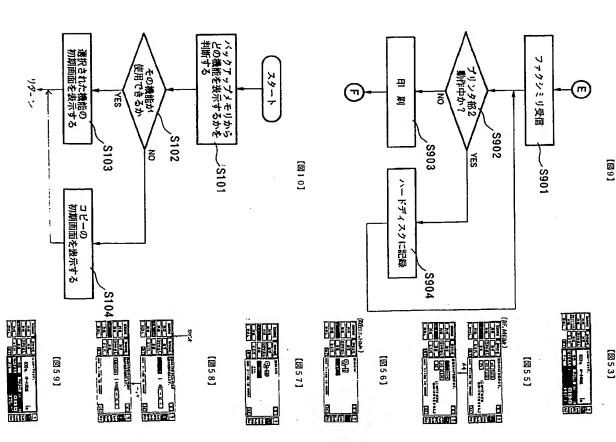
特別平7-38686

(32)

特開平7-38686

33-

-34-



**3** 

特別平7-38686

押し続け処理を

S,

,S207

S208

キーの確定

S204

キー処理

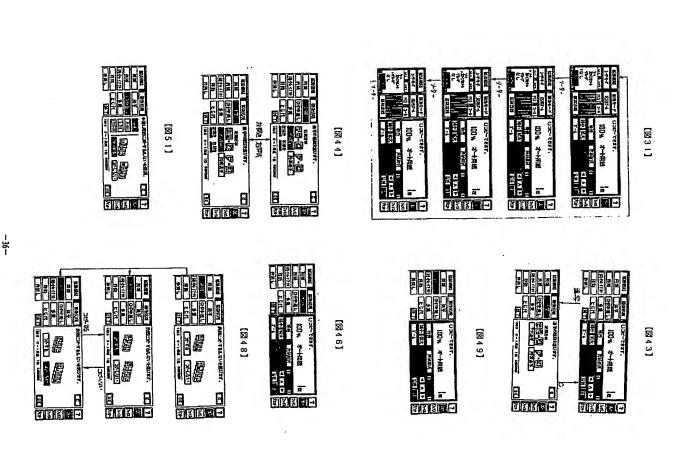
S205

,S206

YES

押し続け処理 flag=0

押し続け処理 flag=l



ੋਂ

センスされた 位置を含むキーが 画面上にある

YES

,S209

センスされだ 位置が前回確定された キー内にある

ĕ

センスされた位置を 特定する

S201

,S202

スタート

[図17]

押し続け処理 flag か1

YES

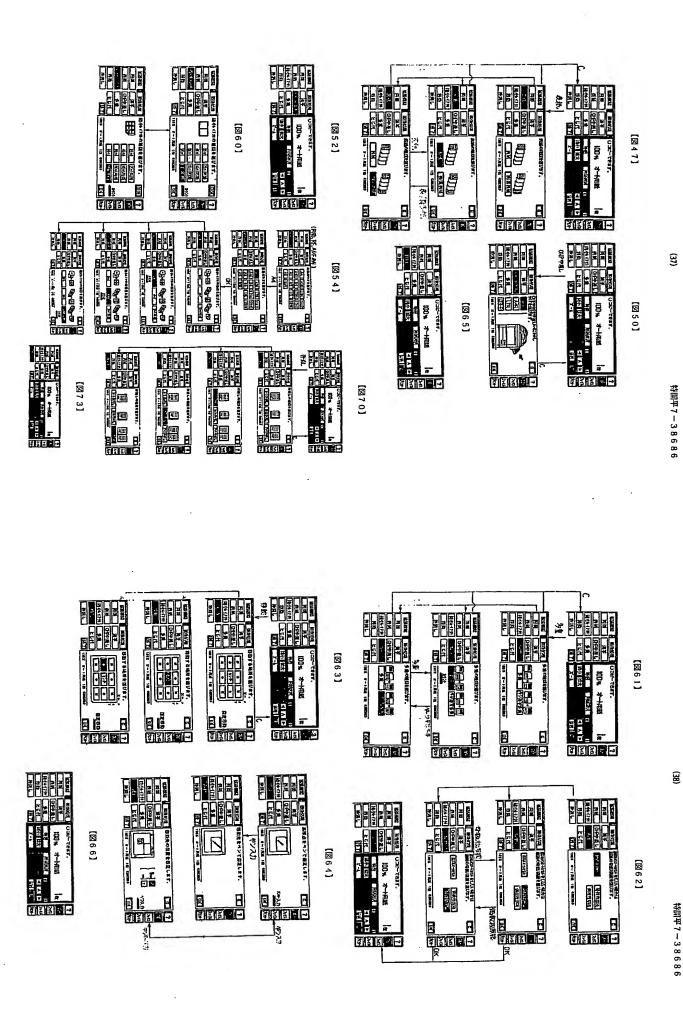
중

,5203

(35) 特別平7-38686

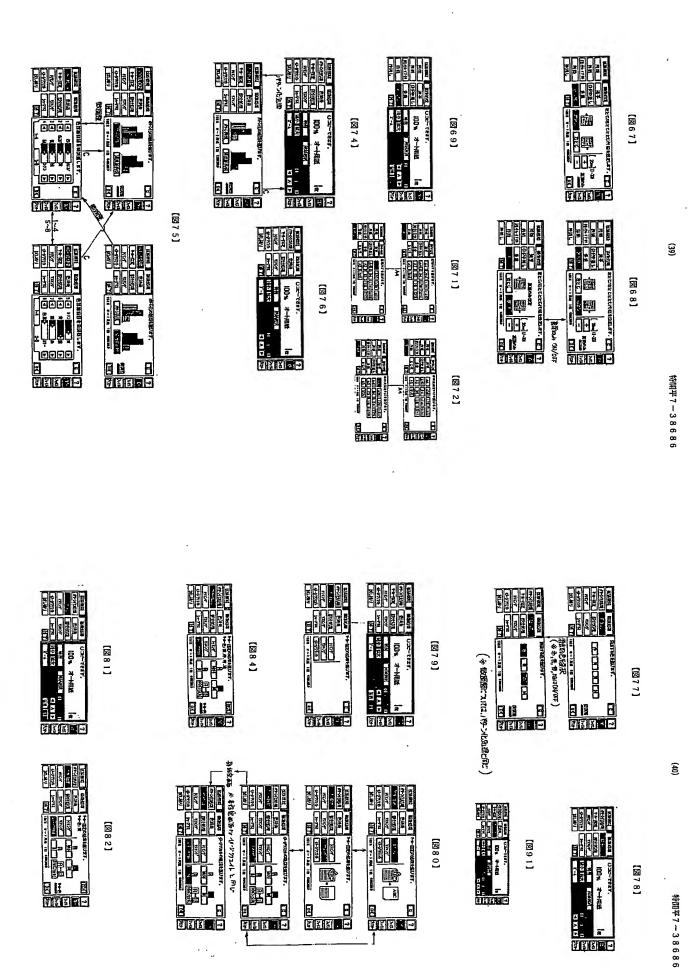
(36)

特期平7-38686



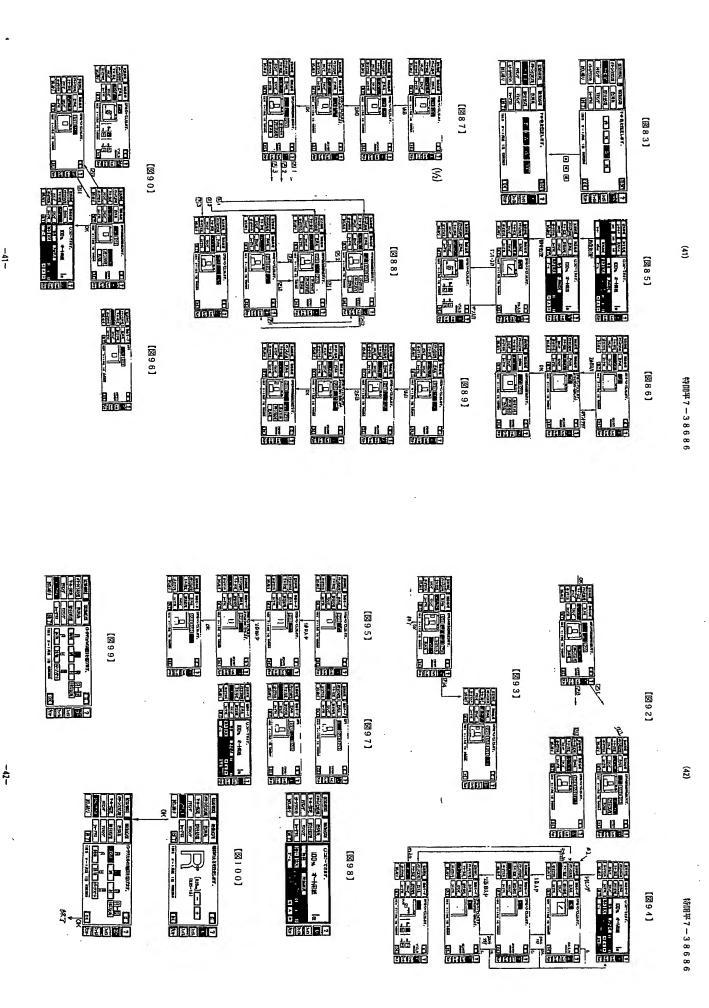
-37-

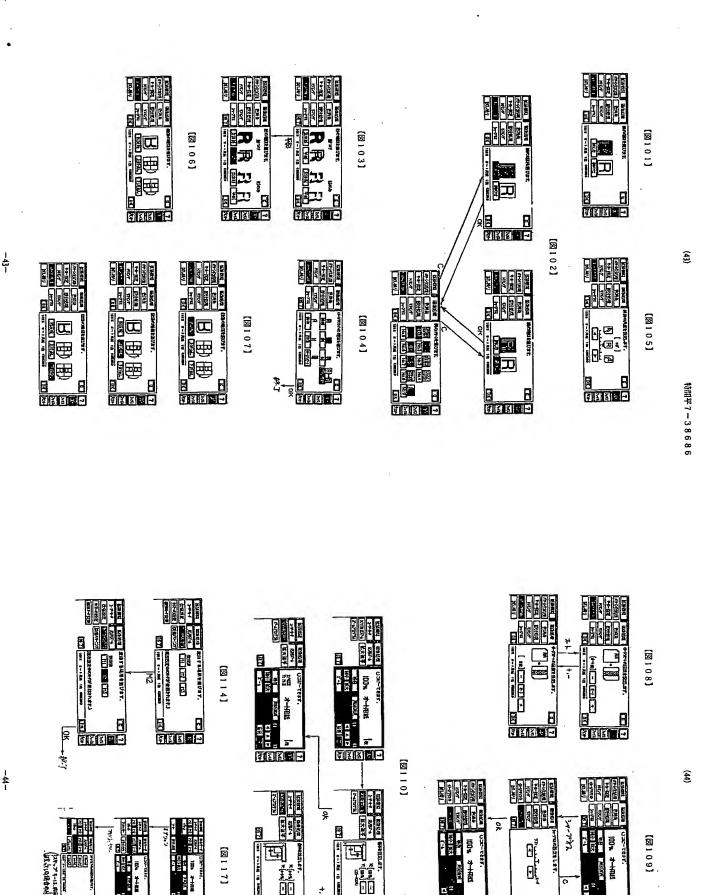
뮕



-39

40-





190% 3-HREE

プロの数立をします

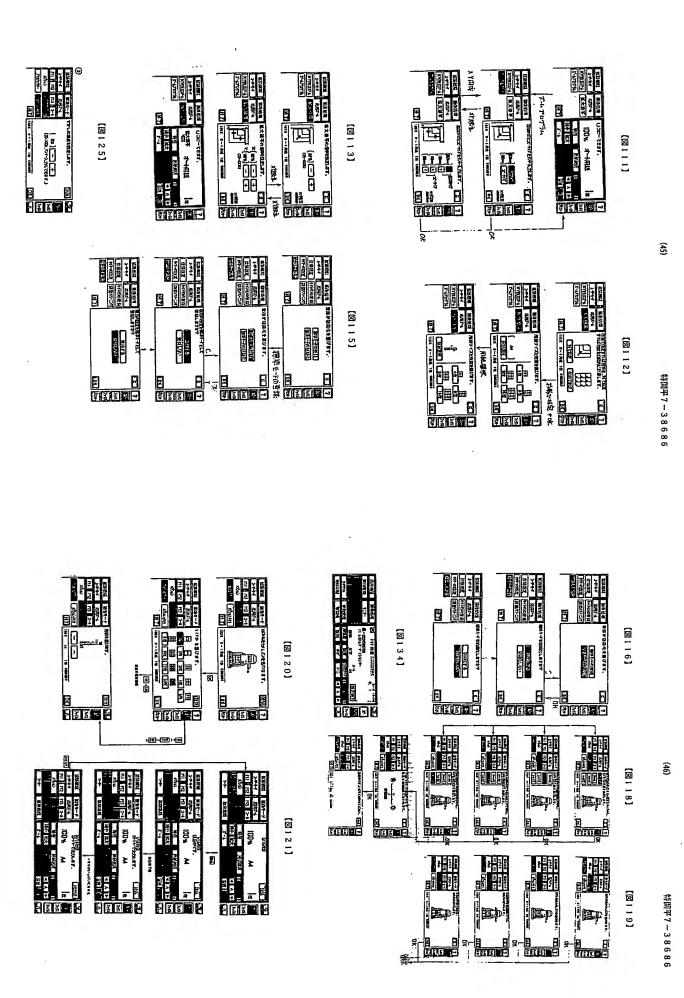
围

[図117]

UT TIGHTON TAN

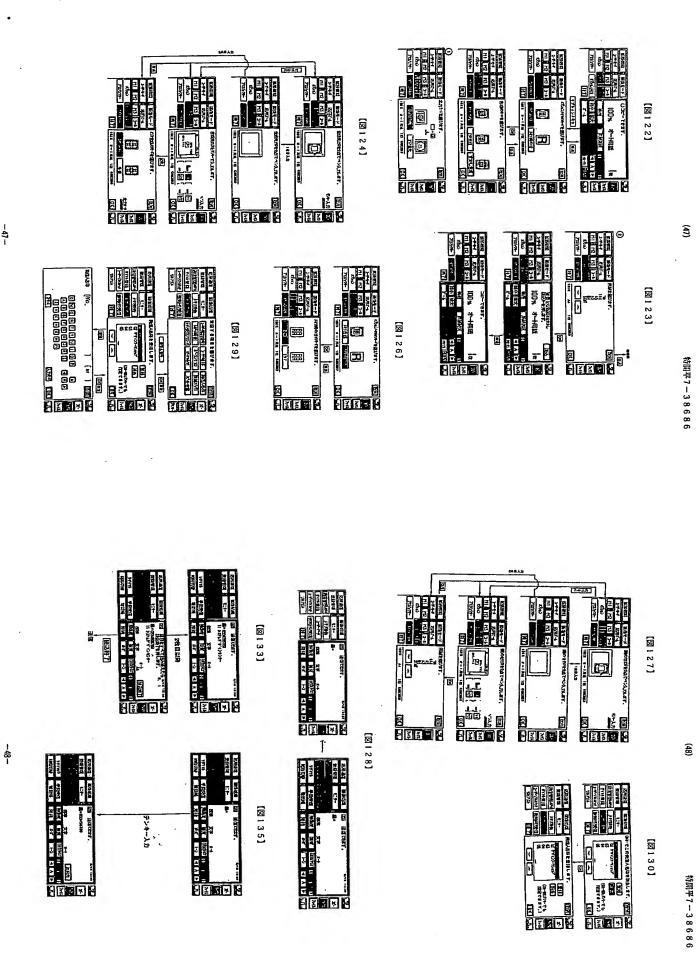
[図109]

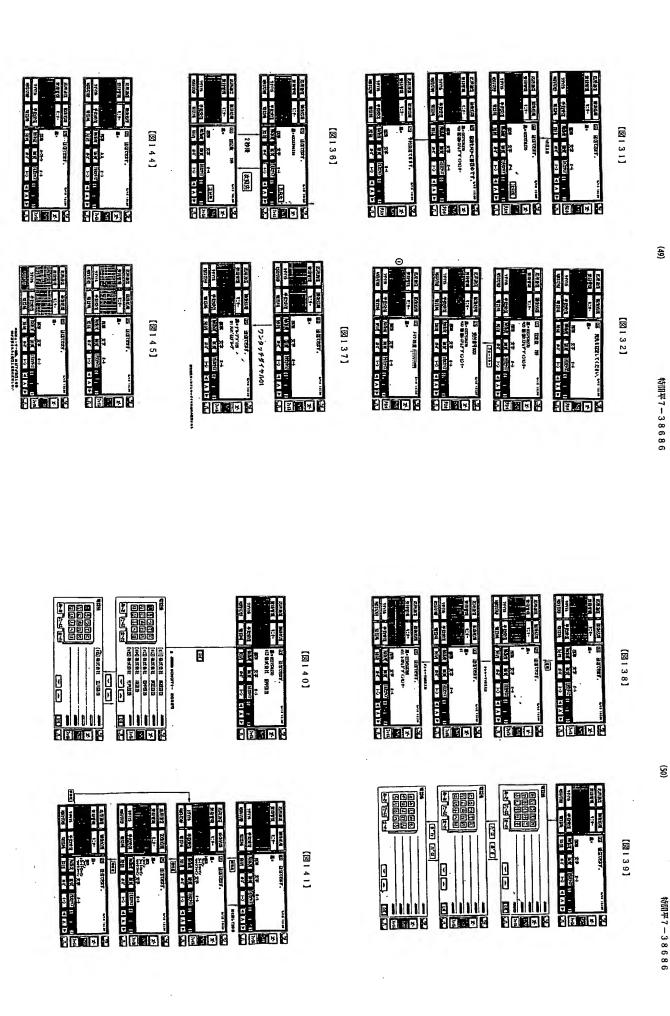
**東西里** 



45-

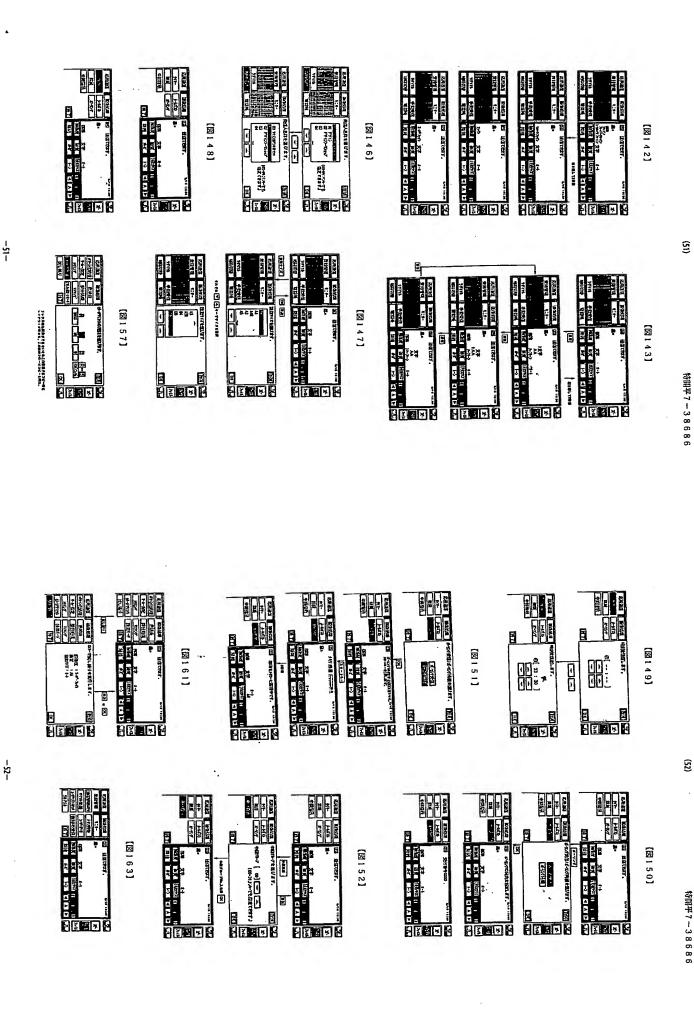
-46-





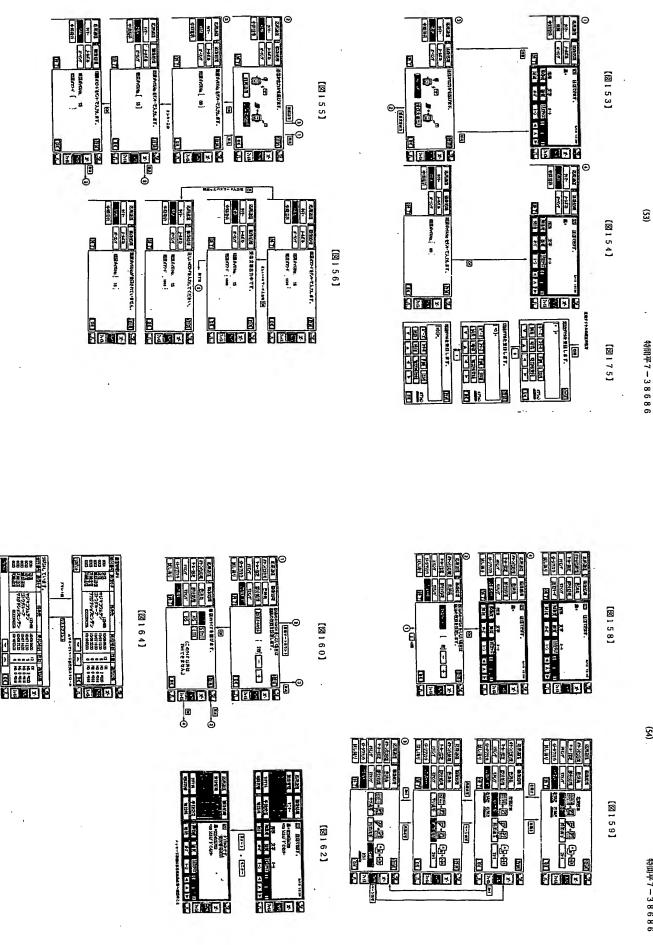
-49-

승



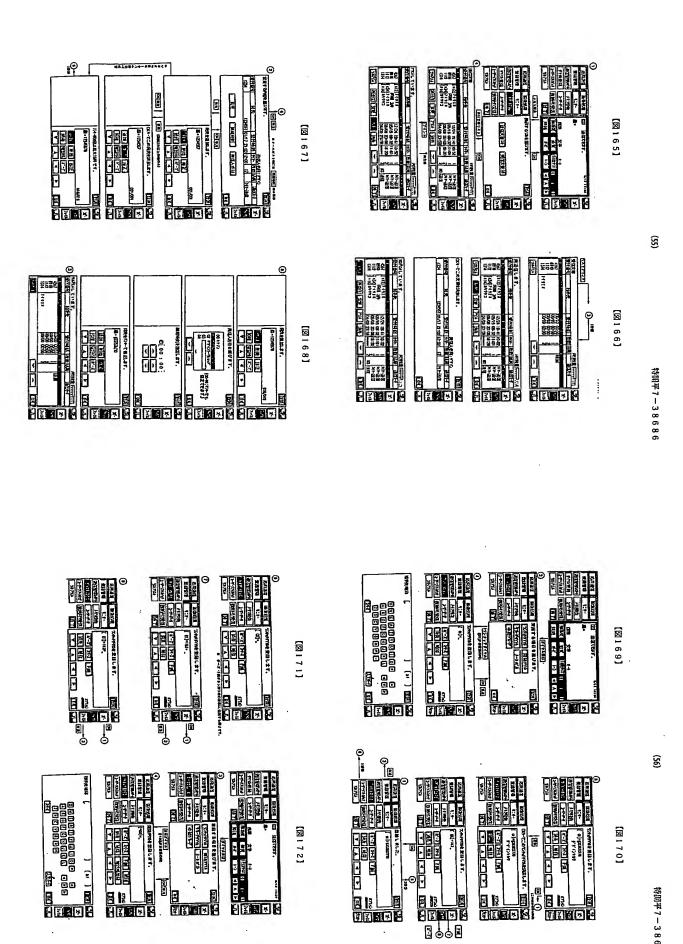


-54-



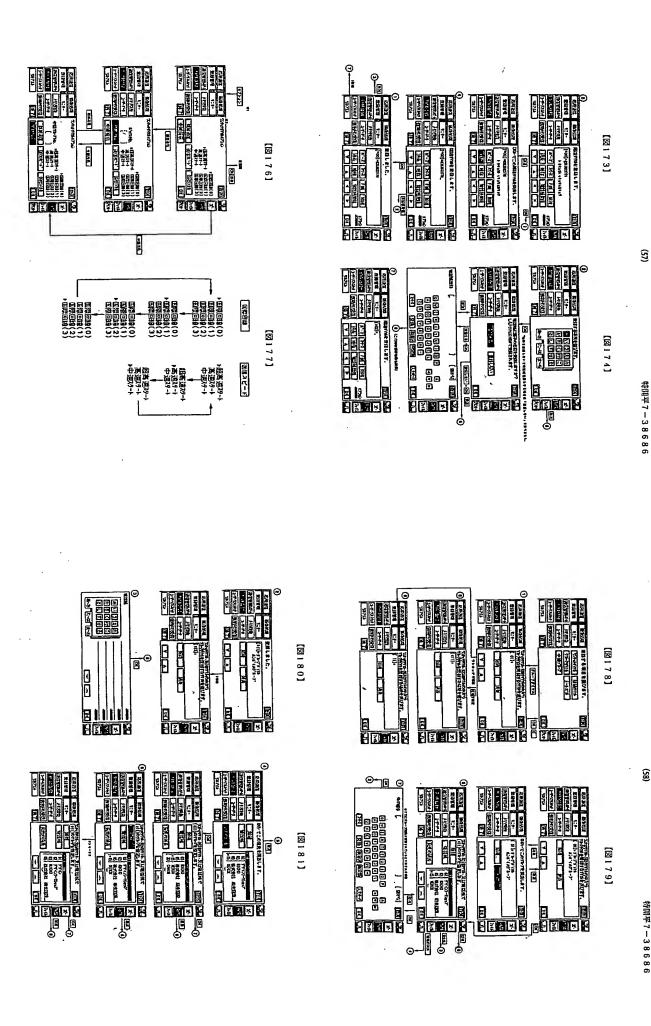
<u>\$</u>

特開平7-38686



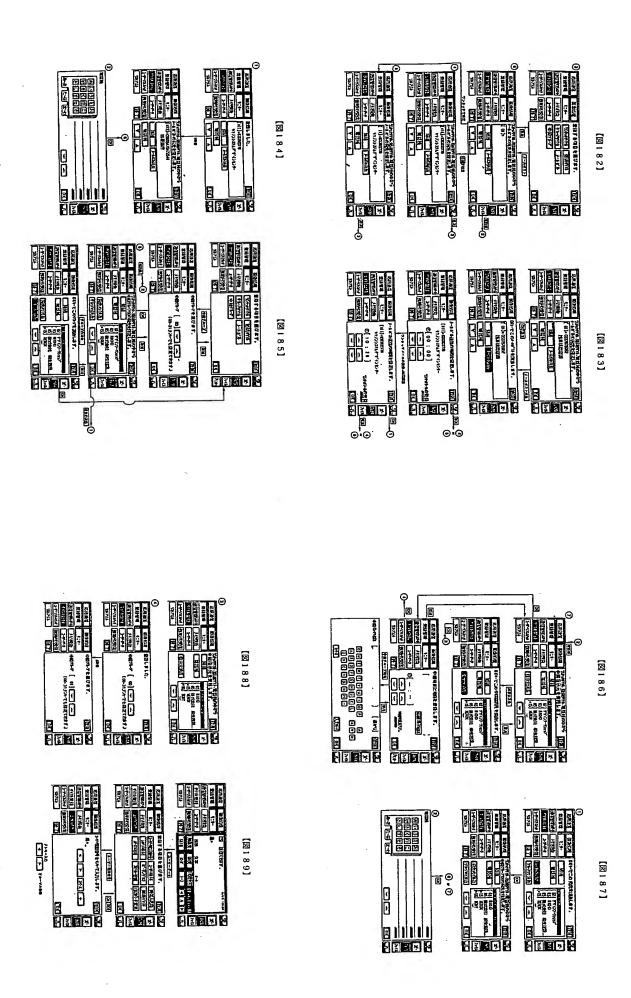
웋

-96-



-57-

-85



<u>(5</u>

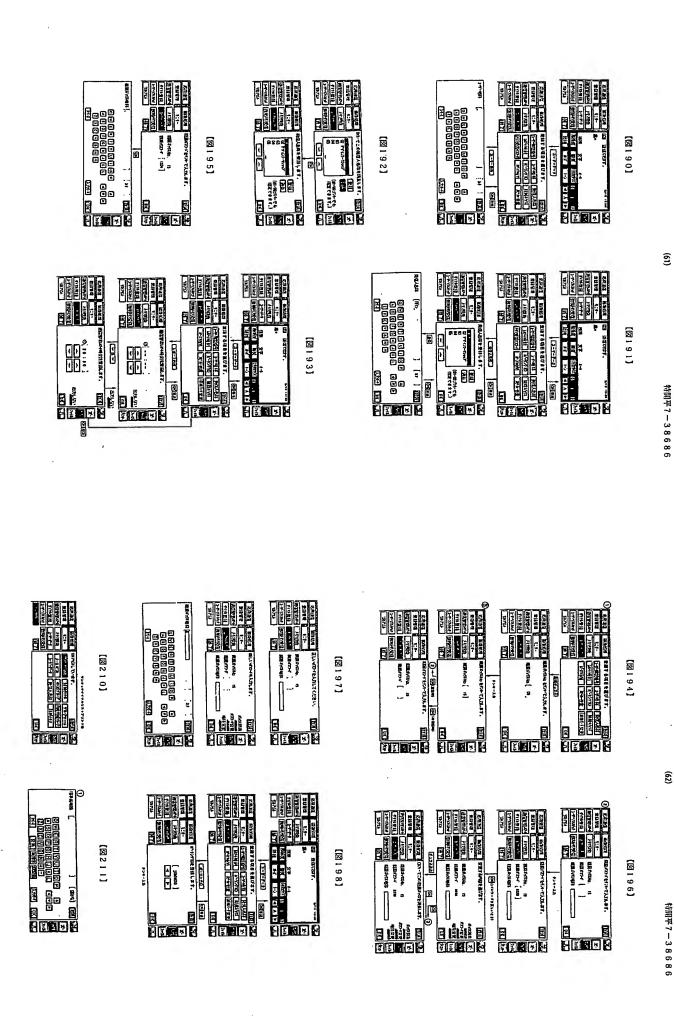
特別中7-38686

6

特間平7-38686

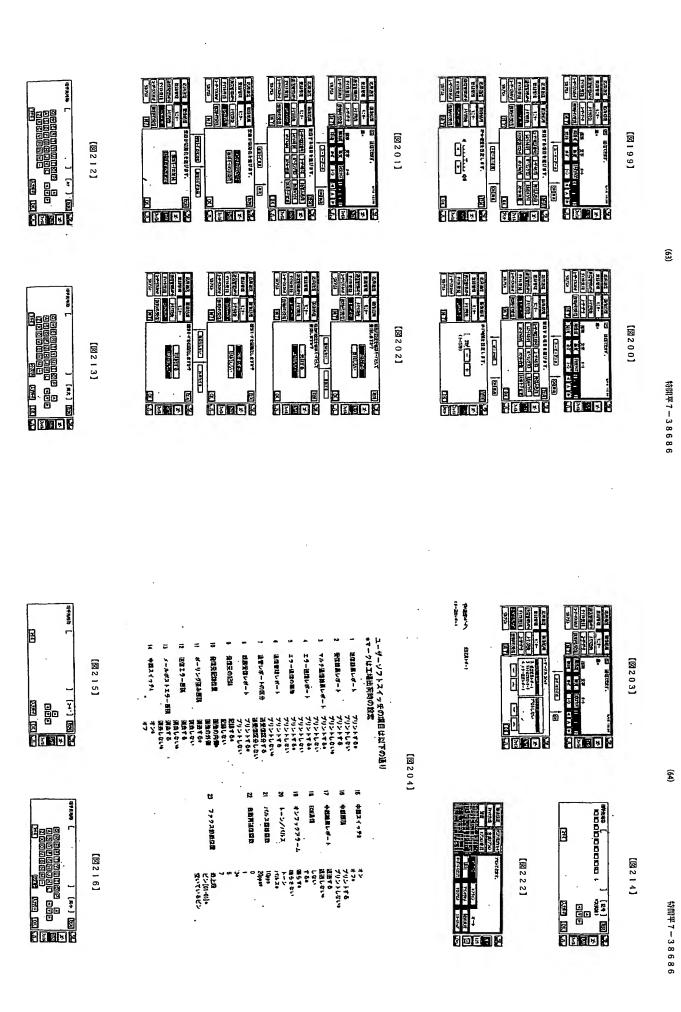
-65-

-60-



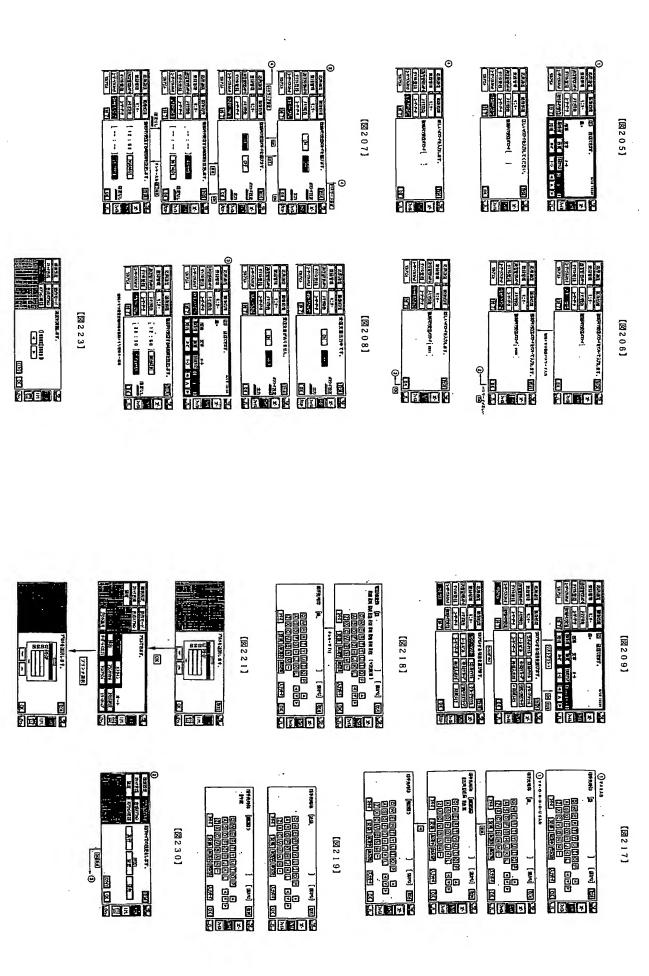
-61-

-62-



-63-

64-



65)

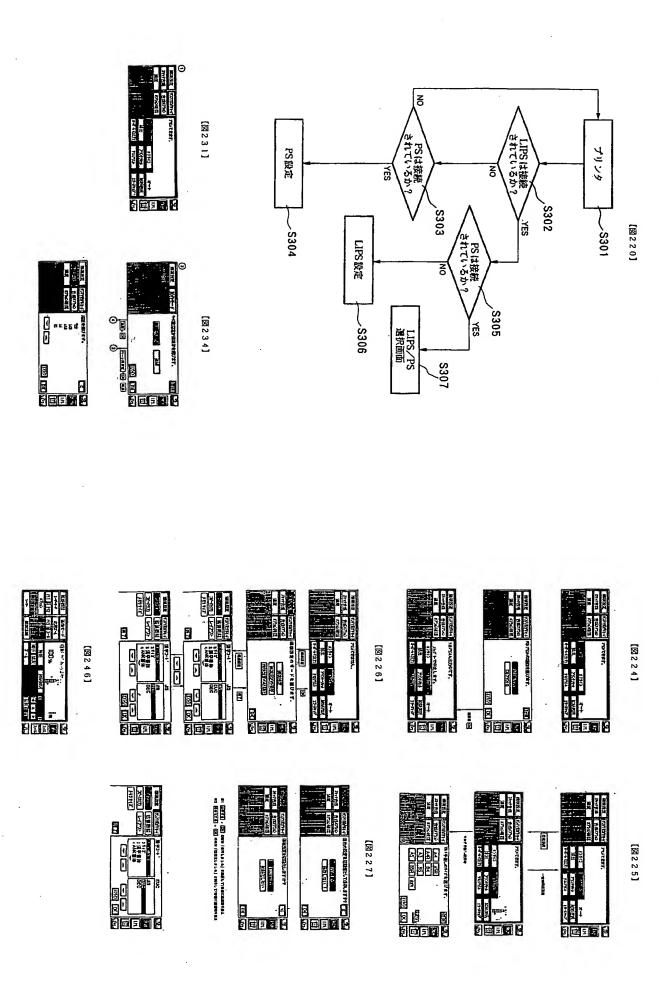
特朋平7-38686

8

特開平7-38686

-65-

-66-



67)

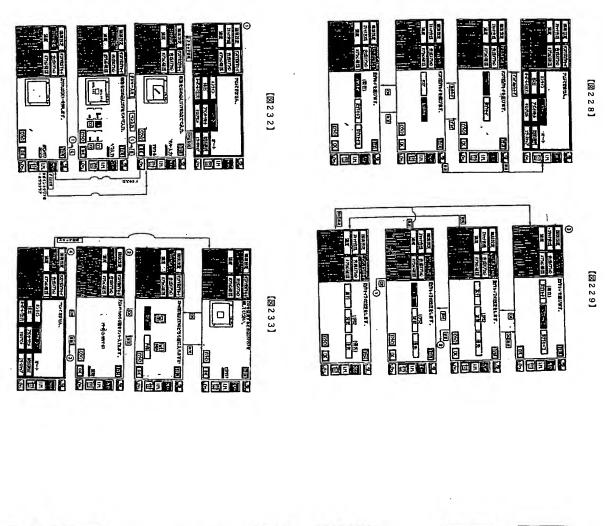
特開平7-38686

68)

特別平7-38686

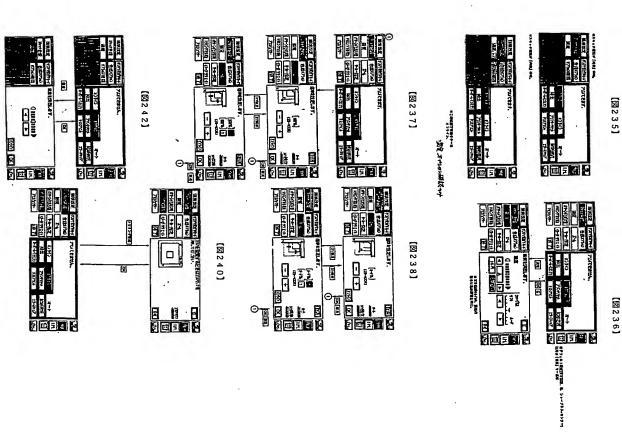
-67-

-88-



-69-

-70-



特別平7-38686

69)

特開平7-38686

9

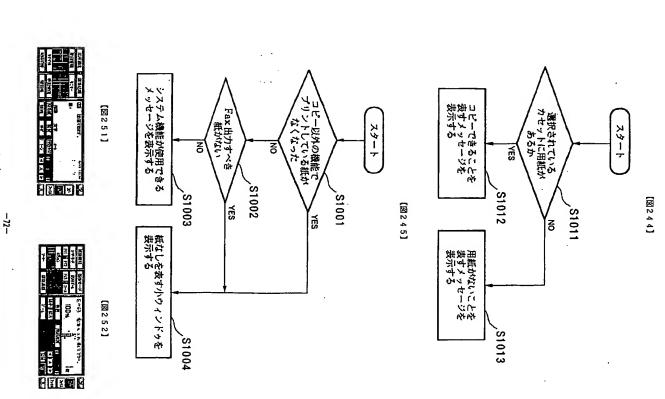
3

特別平7-38686

3

特開平7-38686

-71-

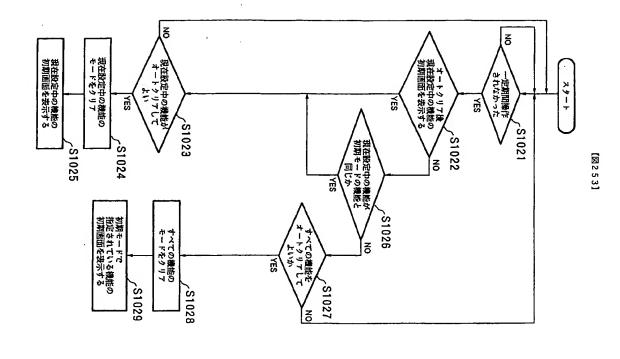


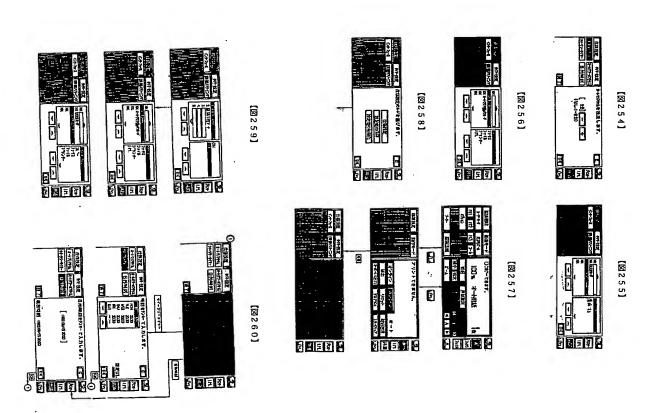
-74-

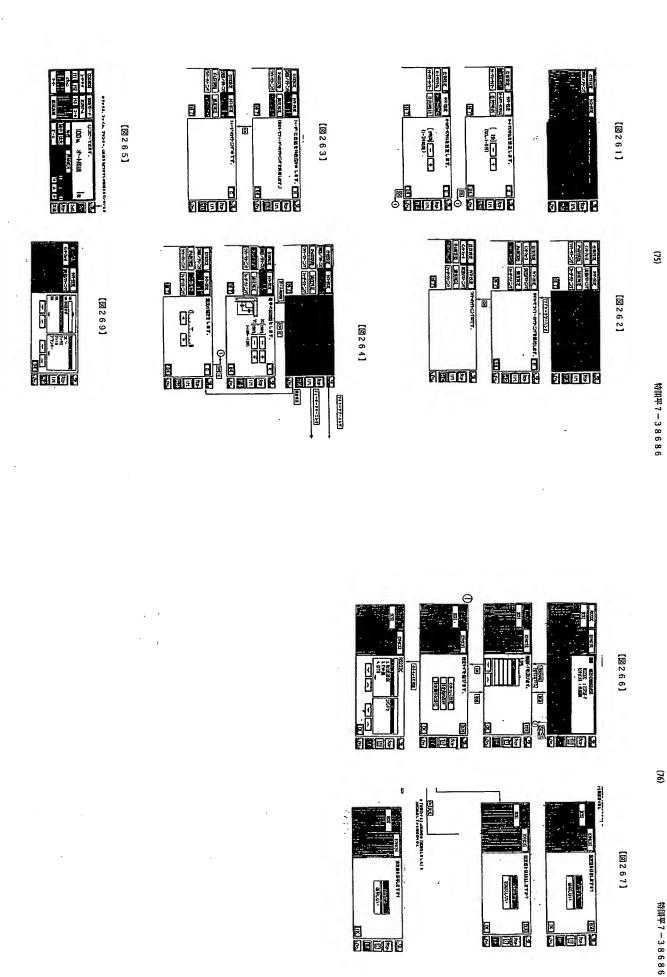
74)

(23)

特開平7-38686







-75-

-76-

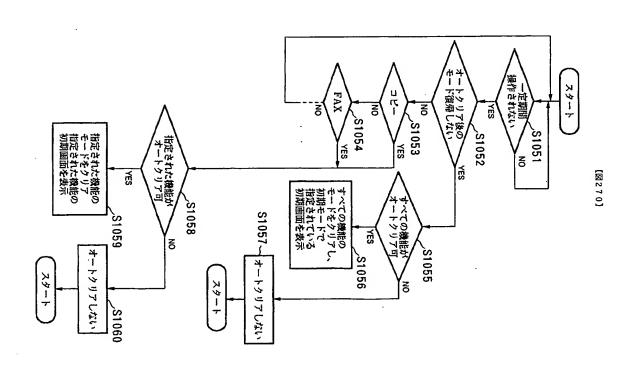
-78-

ŧ,

(78)

特別平7-38686

 $\Xi$ 



(手続補正御)

こで「送信スピード」を選択して所望の送信速度を、 ば『〇Kキー』又は『取消キー』を押下する。また、こ **画面に移行する。そして、ここで元の画面に戻りたけれ** プションキー』が押下されると図176の最上段の設定 述した図170、図171、図173、図174で『オ ル、短結ダイヤルのオプションの設定フローである。上 [0138] 図176、図177は、ワンタッチダイヤ 【補正方法】変更 【補正対象項目名】0138 【補正対象審類名】明細審 「手続補正1] [提出日] 平成5年12月22日

を入力して所望の処理を実行する。 に移行する。これらの設定がOKであれば『OKキー』 れば『中雄指示キー』を入力することにより下段の表示 を選択すれば中段の表示に移行し、また、中職指示があ 『国際回緯』を選択して回線を選択する。『親展送信』

【補正対象書類名】明細書

[湘正対象項目名] 0145

[補正方法] 変更

【福正内容】

の登録フローである。図194の第1段の設定画面によ 段で親展ボックスの略称を入力し、ここで入力OKであ 上段の画面に移行し、パスワードを入力する。続いて下 り順次ガイダンスに従ってボックス番号を設定し、続い 刻を登録できる。図194~図197は、親展ボックス フローである。 図の殷定画面により通信管理レポート時 クスへの登録が可能となる。 り図194の第2段の画面に戻る。そして次の親展ボッ れば『OKキー』を入力する。これにより下段の画而よ て坊4段の頭面で『テンキー』を入力すると図195の 【0145】図193は、通信管理レポート時刻の設定

【補正対象費類名】明細費 【手続補正3】

【補正対象項目名】図面の簡単な説明

[補正方法] 変更

【図信の図4な説明】 (補正内容)

【図1】本発明に係る一実施例の画像形成システムのプ

ロック構成図である。 【図2】図1に示すリーダ部とプリンタ部の構成を示す

【図3】図1に示すリーダ部にある操作パネルの構成図

【図4】本実施例のメイン動作を示すフローチャートで

【図 5 】本実施例のコピーモード選択時の助作を示すフ

ローチャートである。 【図6】本実施例のファックス送信モード選択時の動作

を示すフローチャートである。

フローチャートである。 【図7】本実施例のファイルモード選択時の動作を示す

の入力モード選択時の動作を示すフローチャートであ 【図8】本実施例のコンピュータインターフェイスから

を示すフローチャートである。 【図9】本実施例のファックス受信モード選択時の動作

トである。 【図10】本実施例の初期設定処理を示すフローチャー

れている場合の操作部における設定画面の表示例を示す 【図11】本実施例装置がファックス部機能のみ装替さ

における投定画面の表示例を示す図である。 ーマッタ部、ファイル部が装着されている場合の操作部 【図12】本実施例装置がファックス郎、プリンタフォ

入力した場合の操作部における股定画面の表示例を示す 【図13】図12の表示状態より『下矢印キー』を選択

す図である。 【図14】本実施例におけるコピー処理の初期画面を示

面を示す図である。 【図15】本実施例における応用ズームモードの表示画

【図16】本実施例の×y独立ズーム設定画面を示す図

【図17】本実施例のタッチパネルキーを認識させる方

法を示すフローチャートである。 【図18】本実施例の用紙を選択する処理における操作

郎の表示操作フローを示す図である。 【図19】本実施例の用紙を選択する処理における操作

部の表示操作フローを示す図である。

部の表示操作フローを示す図である。 【図20】本実施例の用紙を選択する処理における操作

を示す図である。 モードを設定する処理における操作部の表示操作フロー 【図22】本実施例の濃度、文字強調モード、HIFI

部の表示操作フローを示す図である。

【図21】本実施例の用紙を選択する処理における操作

モードを設定する処理における操作部の表示操作フロー 【図23】本実施例の過度、文字強調モード、H1F1

モードを設定する処理における操作部の表示操作フロー を示す図である。 【図24】本実施例の濃度、文字強調モード、HIFI

部の表示操作フローを示す図である。 【図25】本実施例の変倍を設定する処理における操作

【図26】本実施例の変倍を設定する処理における操作

部の表示操作フローを示す図である。 【図27】本実施例の変倍を設定する処理における操作 【図28】本実施例の変倍を設定する処理における操作

郎の表示操作フローを示す図である。 【図30】本実施例のソートモードを選択する処理にお 【図29】本実施例の変倍を設定する処理における操作

部の表示操作フローを示す図である。

ける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図31】本実施例のソートモードを選択する処型にお

ける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図32】本実施例のソートモードを選択する処理にお

ける操作部の表示操作フローを示す図である。 ける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図33】本実施例のソートモードを選択する処理にお

ける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図35】本実施例の両面モードを設定する処理におけ 【図34】本実施例のソートモードを選択する処理にお

る操作部の表示操作フローを示す図である。 る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図37】本実施例の両面モードを設定する処理におけ 【図36】本実施例の両面モードを設定する処理におけ

る操作部の表示操作フローを示す図である。 る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図39】本実施例の両面モードを設定する処理におけ 【図38】本実施例の両面モードを設定する処理におけ

る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図40】本実施例の両面モードを設定する処理におけ る操作部の表示操作フローを示す図である。

る操作部の表示操作フローを示す図である。 る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図41】本実施例の両面モードを設定する処理におけ 【図42】本実施例の両面モードを設定する処理におけ

る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図44】本実施例の選写モードを設定する処理におけ 【図43】本実施例の連写モードを設定する処理におけ

る操作部の表示操作フローを示す図である。 る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図46】本実施例の連写モードを設定する処理におり 【図45】本実施例の連写モードを設定する処理におけ

る操作部の表示操作フローを示す図である。 る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図47】本実施例の表紙モードを設定する処理におけ

る操作部の表示操作フローを示す図である。 る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図48】本実施例の表紙モードを設定する処理におけ 【図49】・本実施例の表紙モードを設定する処理におけ

理における操作部の表示操作フローを示す図である。 【図51】本実施例のOHP中差しモードを設定する処 【図50】本実施例のOHP中差しモードを設定する処

> 処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 理における操作部の表示操作フローを示す図である。 理における操作部の表示操作フローを示す図である。 処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 【図57】本実施例の箱小レイアウトモードを設定する 【図55】本実施例の粒小レイアウトモードを設定する 作部の表示操作フローを示す図である。 【図60】本実施例の描小フイアウトの処理における提 【図59】本実施例の船小レイアウトモードを設定する 【図56】本実施例の協小レイアウトモードを設定する 【図54】本虫焔例の塩小レイアウトモードを設定する 【図53】 本虫指例の描小レイアウトモードを設定する 【図52】本実施例のOHP中袋しモードを設定する処 【図61】本実施例の多重モードを設定する処理におけ 【図58】本実施例の描小レイアウトモードを設定する

る操作部の表示操作フローを示す図である。 る操作部の表示操作フローを示す図である。 る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図63】本実施例の移動モードを設定する処理におけ 【図64】本実施例の移動モードを設定する処理におけ 【図62】本実施例の多値モードを設定する処理におけ

る操作部の表示操作フローを示す図である。 る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図65】本実施例の移動モードを設定する処理におけ

ける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図67】本実施例のとじ代モードを設定する処理にお 【図66】本実施例のとじ代モードを設定する処理にお

ける操作部の表示操作フローを示す図である。 ける操作部の表示操作フローを示す図である。 ける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図69】本実施例のとじ代モードを設定する処理にお 【図68】本実施例のとじ代モードを設定する処理にお

ける操作部の表示操作フローを示す図である。 ける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図71】本実施例の枠消しモードを設定する処理にお 【図70】本実施例の枠消しモードを設定する処理にお

ける操作部の表示操作フローを示す図である。 ける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図72】本実施例の枠消しモードを設定する処理にお 【図73】本実施例の枠消しモードを散定する処理にお

0.理における操作部の表示操作フローを示す図である。 **心理における操作部の表示操作フローを示す図である。** 【図76】本実施例の色消去モードを設定する処理にお 【図75】本実施例のパターン化処理モードを設定する 【図74】本実施例のパターン化処理モードを設定する

ける操作部の表示操作フローを示す図である。

82

における操作部の表示操作フローを示す図である。 における操作部の表示操作フローを示す図である。 ける操作部の表示操作フローを示す図である。 ける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図80】本実施例のマーカ指定モードを設定する処理 【図79】本実施例のマーカ指定モードを設定する処理 【図78】本実施例の色消去モードを設定する処理にお 【図77】本実施例の色消去モードを設定する処理にお

における操作部の表示操作フローを示す図である。 操作部の表示操作フローを示す図である。 【図82】本実施例のマーカ色を指定する処理における

【図81】本実施例のマーカ指定モードを設定する処理

操作部の表示操作フローを示す図である。 【図84】本実施例のマーカ色を指定する処理における 【図83】本実施例のマーカ色を指定する処理における

操作部の表示操作フローを示す図である。 おける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図85】本実施例の部分処理モードを設定する処理に 【図86】本実施例の部分処理モードを設定する処理に

おける操作部の表示操作フローを示す図である。

おける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図87】本実施例の部分処理モードを設定する処理に 【図88】本実施例の部分処理モードを設定する処理に

おける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図89】本実施例の部分処理モードを設定する処理に

おける操作部の表示操作フローを示す図である。 おける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図90】本実施例の部分処理モードを設定する処理に

おける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図92】本実施例の部分処理モードを設定する処理に 【図91】本実施例の部分処理モードを設定する処理に

おける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図93】本実施例の部分処理モードを設定する処理に

設定する処理における操作部の表示操作フローを示す図 【図94】本契施例のトリミング、マスキングモードを おける操作部の表示操作フローを示す図である。

設定する処理における操作部の表示操作フローを示す図 【図95】本実施例のトリミング、マスキングモードを

設定する処理における操作部の表示操作フローを示す図 【図96】本実施例のトリミング、マスキングモードを

設定する処理における操作部の表示操作フローを示す図 【図97】本実施例のトリミング、マスキングモードを

する処理における操作部の表示操作フローを示す図であ 【図98】本実施例のイメージクリエイトモードを設定

> る斜体、鏡像、イメージンピート処理を設定する処型に おける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図99】本実施例のイメージクリエイトモードにおけ

操作部の表示操作フローを示す図である。 における操作部の表示操作フローを示す図である。 【図100】本実施例における輪郭処理を設定する処理 【図101】本実施例の網処理を設定する処理における

操作部の表示操作フローを示す図である。 【図102】本実施例の額処理を設定する処理における

操作部の表示操作フローを示す図である。 【図103】本実施例の影処理を設定する処理における

ける操作部の表示操作フローを示す図である。 理における操作部の表示操作フローを示す図である。 【図104】本実施例のネガポジ反転処理を設定する処 【図105】本実施例の斜体モードを設定する処理にお

ける操作部の表示操作フローを示す図である。 る処理における操作部の表示操作フローを示す図であ ける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図108】本実施例のイメージリピート処理を設定す 【図107】本実施例の競像モードを設定する処理にお 【図106】本実施例の鋭像モードを設定する処理にお

る処理における操作部の表示操作フローを示す図であ おける操作部の表示操作フローを示す図である。 【図110】本実施例のXY独立ズームモードを設定す 【図109】本実施例のシャープネスを設定する処理に

理における操作部の表示操作フローを示す図である。 る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図111】本実施例のズームプログラムを設定する処 【図112】本実施例の拡大連写を設定する処理におけ 【図113】本実施例の拡大連写を設定する処理におけ

理における操作部の表示操作フローを示す図である。 理における操作部の表示操作フローを示す図である。 処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 る操作部の表示操作フローを示す図である。 【図114】本実施例のモードメモリの登録を設定する 【図117】本実協例のプロジェクタモータを設定する 【図116】本実施例の標準モードの変更を設定する処 【図115】本実施例の標準モードの変更を設定する処

処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 を設定する処理における操作部の表示操作フローを示す 【図120】 本供福兜のプロジュクタフイアウトホード 【図119】本実施例のプロジェクタモータを設定する 【図118】本実施例のプロジェクタモータを設定する

を設定する処理における操作部の表示操作フローを示す 【図121】本実施例のプロジェクタレイアウトモード

> 理における操作部の表示操作フローを示す図である。 【図122】本実施例のメモリ合成モードを設定する処 【図123】本実施例のメモリ合成モードを設定する処

処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 処理における操作部の表示操作フローを示す図である。 【図128】本実施例の発信人名称を指定する操作プロ 【図127】本実施例のメモリ網のせモードを設定する 【図126】本実施例のメモリ類のせモードを設定する

一を示す図である。 【図129】本実施例の発信人名称を指定する操作フロ

ーを示す図である。 【図130】本実施例の発信人名称を指定する操作フロ

操作フローを示す図である。 【図131】本実施例のDH装着時におけるメモリ送信

時でもDHをしない場合のメモリ送信操作フローを示す 【図133】本実施例のDH非装箱時、またはDH装着

時でもDHをしない場合のメモリ送僧操作フローを示す

一を示す図である。

一を示す図である。 【図137】本実施例のワンタッチダイヤルにおける送

フローを示す図である。 【図138】本実施例の短箱ダイヤルにおける送信操作

示す図である。 【図139】本実施例の電話頓による送價操作フローを

【図141】本実施例の解像度変更の操作フローを示す

【図142】本実施例の解像度変更の操作フローを示す

【図144】本実施例の画質の変更操作フローを示す図

理における操作部の表示操作フローを示す図である。 理における操作部の表示操作フローを示す図である。 【図125】本実施例のメモリ合成モードを設定する処 【図124】本実施例のメモリ合成モードを設定する処

理における操作部の表示操作フローを示す図である。

操作フローを示す図である。 【図132】本実施例のDH装領時におけるメモリ送信

【図134】本実施例のDH非装箔時、またはDH装箱

【図135】本実施例のテンキー入力時の送倡操作フロ

【図136】本実施例のテンキー入力時の送倡操作フロ

**個操作フローを示す図である。** 

示す図である。 【図140】本実施例の電話頓による送信操作フローを

【図143】本実施例の画質の変更操作フローを示す図

【図145】本実施例の略称切り替えの操作フローを示

す図である。

す図である。 【図146】本実施例の略称切り替えの操作フローを示

【図147】本実施例の読取サイズの操作フローを示す 【図148】本実施例のタイマ送信の設定フローを示す

図である。 【図149】本実施例のタイマ送信の設定フローを示す

図である。 【図150】本実施例のポーリングの操作フローを示す

図である。 【図151】本実施例のポーリングの操作フローを示す

【図152】本実施例の中維指示の操作フローを示す図

ーを示す図である。 ーを示す図である。 【図153】本実施例の親展送信、親展出力の操作フロ 【図154】本実施例の親展送信、親展出力の操作フロ

ーを示す図である。 【図155】本実施例の親展送信、親展出力の操作フロ 【図156】本実施例の親展送信、親展出力の操作フロ

ーを示す図である。 ーを示す図である。 【図157】本実施例の送信による画像処理の操作フロ

フローを示す図である。 フローを示す図である。 【図159】本実施例の送信における読取モードの設定 【図158】本実施例の送信における競取モードの設定

フローを示す図である。 【図161】本実施例の試し扱りの操作フローを示す図 【図160】本実施例の送信における読取モードの設定

【図162】本実施例のモニタの操作フローを示す図で

を示す図である。 【図163】本安施例の通信管理レポートの操作フロー

を示す図である。 【図164】本実施例の通信管理レポートの操作フロー

図である。 【図165】本実施例のメモリ照会の操作フローを示す

【図167】本実施例のメモリ照会の操作フローを示す 【図166】本実施例のメモリ照会の操作フローを示す

図つある。 【図168】本実施例のメモリ照会の操作フローを示す

【図169】本実施例のワンタッチダイヤルの登録の換

【図170】本実施例のワンタッチダイヤルの登録の頃 乍フローを示す図である。

٥

作フローを示す図である。 作フローを示す図である。 【図172】本実施例の短箱ダイヤルの登録の操作フロ 【図171】本実施例のワンタッチダイヤルの登録の協

ーを示す図である。 ーを示す図である。 【図174】本実施例の短箱ダイヤルの登録の操作フロ 【図173】本実施例の短額ダイヤルの登録の操作フロ

ーを示す図である。 【図175】本実施例の短箱ダイヤルの登録の操作フロ を示す図である。

ヤルのオプションの設定フローを示す図である。 【図176】本実施例のワンタッチダイヤル、短箱ダイ

を示す図である。 ヤルのオプションの設定フローを示す図である。 【図177】本実施例のワンタッチダイヤル、短箱ダイ 【図178】本実施例のグループダイヤルの登録フロー

を示す図である。 【図179】本実施例のグループダイヤルの登録フロー

を示す図である。 【図180】本実施例のグループダイヤルの登録フロー

を示す図である。 【図182】本実施例のメールポストの登録フローを示 【図181】本実施例のグループダイヤルの登録フロー

す図である。 す図である。 【図183】本実施例のメールポストの登録フローを示

す図である。 【図184】本実施例のメールポストの登録フローを示

す図である。 【図185】本実施例の中籍グループの登録フローを示 【図186】本実施例の中継グループの登録フローを示

す図である。 【図187】本実施例の中継グループの登録フローを示

す図である。 【図188】本実施例の中様グループの登録フローを示

す図である。 【図189】本実施例のユーザ電話番号の登録フローを

示す図である。 【図190】本実施例のユーザ略称の登録フローを示す

【図191】本実施例の発倡人名称の登録フローを示す

図つめる。 【図192】本実施例の発信人名称の登録フローを示す

ローを示す図である。 【図193】本実施例の通信管理レポート時刻の設定フ

す図である。 【図194】本実施例の親展ボックスの登録フローを示

【図195】本実施例の親展ボックスの登録フローを示

す図である。 【図196】本実施例の親展ポックスの登録フローを示

す図である。 【図197】本実施例の親展ボックスの登録フローを示

す図である。 【図199】本实施例のスピーカ音型の設定フローを示

図である。

示す図である。

作フローを示す図である。

操作フローを示す図である。 【図207】本実施例の強制メモリ受信の設定、出力の

示す図である。

示す図である。

示す図である。 【図211】本実施例の文字入力画面での操作フローを

示す図である。 【図212】本実施例の文字入力画面での操作フローを

示す図である。

示す図である。

示す図である。 【図216】本実施例の文字入力画面での操作フロー

示す図である。 【図218】本実施例の文字入力画面での操作フローを

【図219】本実施例の文字入力画面での操作フローを

を示す図である。 【図198】本実施例のポーリングI/Dの設定フロー

【図200】本実施例のポーズ時間の設定フローを示す

【図201】本実施例の標準モード変更の設定フローを

沢す図である。 【図202】本実施例の標準モード変更の設定フローを

作フローを示す図である。 【図204】本実施例のユーザソフトスイッチ設定の協 【図203】本実施例のユーザソフトスイッチ殷定の操

操作フローを示す図である。 【図205】本実施例の強制メモリ受信の設定、出力の

操作フローを示す図である。 【図206】本実施例の強制メモリ受信の設定、出力の

|操作フローを示す図である。 【図208】本実施例の強制メモリ受信の設定、出力の

【図209】本実施例のリストプリントの操作フローを

【図210】本実施例のリストプリントの操作フローを

【図213】本実施例の文字入力画面での操作フローを

【図215】本実施例の文字入力画面での操作フローを 【図214】本実施例の文字入力画面での操作フローを

【図217】本実施例の文字入力画面での操作フローを

【図220】本実施例のフォーマッタ部を選択するため

の制御を示すフローチャートである。 【図221】本実施例のLIPS/PS選択画面を示す

【図222】本実施例のLIPSの初期画面を示す図で

【図223】本実施例のPSの設定画面を示す図であ

【図224】本実施例のプリンタの基本設定フローを示

【図226】本実施例のプリントの環境設定を行う操作 す図である。 【図225】本実施例のプリンタの基本設定フローを示

フローを示す図である。 【図227】本実施例のプリントの環境設定を行う操作 フローを示す図である。

ーを示す図である。 【図228】本実値例のダンプ/動作モードの操作フロ

ーを示す図である。 【図229】本実施例のダンプ/動作モードの操作フロ

ーを示す図である。 【図230】本実施例のダンプノ動作モードの操作フロ 【図231】本実施例のダンプ/助作モードの操作フロ

ーを示す図である。 【図232】本実施例のスキャナ合成を選択する操作フ

ローを示す図である。 ローを示す図である。 【図233】本実施例のスキャナ合成を選択する操作フ

ローを示す図である。 【図234】本実施例のスキャナ合成を選択する操作フ

ローを示す図である。 【図235】本実施例のスキャナ合成を選択する操作フ

ションキーでの画質調整処理を選択する操作フローを示 す図である。 【図236】本実施例のスキャナ合成指定時の合成オフ

ションキーでのズーム間整処理を選択する操作フローを 【図237】本実施例のスキャナ合成指定時の合成オプ

示す図である。 ションキーでのズーム調整処理を選択する操作フローを 【図238】本実施例のスキャナ合成指定時の合成オプ

ションキーでのトリミング移動処理を選択する操作フロ ションキーでのトリミング移動処理を選択する操作フロ 【図240】本実施例のスキャナ合成指定時の合成オフ ーを示す図である。 【図239】本実施例のスキャナ合成指定時の合成オプ

ションキーでのイメージクリエイト処理を選択する操作 **ノローを示す図である。** 【図241】本実施例のスキャナ合成指定時の合成オブ

-を示す図である。

【図242】本実施例のプリント適度を調節する操作フ

フローを示す図である。 【図243】本実施例のオプション悄報を確認する操作 【図244】本実施例のプリントする用紙がないときの

表示制御を示すフローチャートである。 【図245】本実施例のプリントする用紙がないときの

すメッセージの表示例を示す図である。 【図246】本実施例のカセットに用紙がないことを表 表示制御を示すフローチャートである。

ないことを表すメッセージの表示例を示す図である。 セット段に用紙があってファックスで出力すべき用紙が 【図248】本実施例のファックス機能で選択されてい 【図247】本実施例のコピー機能で選択されているカ

き用紙がないことを表すメッセージの表示例を示す図で るカセット段に、用紙があって、ファックスで出力すべ

にファックス出力があるときの表示例を示す図である。 の表示例を示す図である。 ときに、プリンタフォーマッタ部からの出力があるとき 【図251】本実施例のファックスポード部からエラー 【図250】本実施例のファックス画面を表示している 【図249】本実施例のコピー画面を表示しているとき

表示例を示す図である。 が検知された時のエラー番号のファックス設定画面への

検知された時のファックス画面からコピー画面へ移行し た場合のエラーを表示例を示す図である。 【図253】本実施例のオートクリア処理を示すフロー 【図252】本実施例のリーダプリンタ部からエラーが

【図254】本実施例の共道設定が選択されたときのオ

ートクリアタイムを設定する操作フローを示す図であ

後初期モードで設定される機能の画面を表示するかを選 ートクリア後、現在設定中の画面を表示するか電源ON 択する操作フローを示す図である。 【図255】本実施例の共通設定が選択されたときのオ

示す図である。 期モードがコピーと指定され、オートクリア後のモード 設定画面で一定時間操作されなかったときの初期画面を が復帰しないと指定されているときのファックス機能の 【図256】本実施例の共通設定が選択されたときの初

方を示す操作フローを示す図である。 【図257】本実施例の共道設定のモードの設定の開き

方を示す操作フローを示す図である。 【図258】本実施例の共通股定のモードの設定の開き

方を示す操作フローを示す図である。 【図259】本実施例の共通設定のモードの設定の開き

方を示す操作フローを示す図である。 【図260】本実施例の共通設定のモードの設定の開き

【図261】本実施例の共通設定のモードの設定の開き

【公報組別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【郁門区分】第7部門第3区分

方を示す操作フローを示す図である。	6 外部記憶装置
【図262】本実施例の共通設定のモードの設定の開き	7 コンピュータインタフェース部
方を示す操作フローを示す図である。	8 フォーマッタ郎
【図263】本実施例の共通設定のモードの設定の開き	9 イメージメホリ郎
方を示す操作フローを示す図である。	10 コア部
【図264】本実施例の共通設定のモードの設定の開き	101 原稿給送装置
方を示す操作フローを示す図である。	102 原稿ガラス面
【図265】本実施例の共通設定のモードの設定の開き	103 ランプ
方を示す操作フローを示す図である。	104 スキャナ・ユニット104
【図266】本実施例のインタフェースの接続の種類を	105, 106, 107 ミラー
選択する操作フローを示す図である。	108 レンズ
【図267】本実施例のインタフェースの接続の種類を	109 CCDイメージ・センサ部 (CCD)
選択する操作フローを示す図である。	110 画像処理部
【図268】本発明に係る第2実施例のオートクリアモ	201 露光制御部
ード制御を示すフローチャートである。	201 感光体
【図269】 第2実施例のオートクリア後のモードを指	203 現像器
定して一定期間操作されなかったことを示す表示例を示	204, 205 転写紙積載部
す図である。	206 転写部
【図270】本発明に係る第3実施例のオートクリアモ	207 定链部
ード制御を示すフローチャートである。	208 排紙節
【符号の説明】	209 撤送方向切り替え部材
1 両像入力装置(リーダ節)	210 再給抵用被転写抵制設部
2 画像出力装置 (プリンタ)	220 ソータ
3 外部装置	301 表示部
4 ファックス部	302 テンキー
5 ファイラ郎	303 303 スタートキー

レロントページの紙を

(72) 発明者 金爾 俊也

東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤ ノン株式会社内

```
\
\
\
\
                                                                                                                                                                                                                                                                                      【発行日】平成13年6月29日(2001.6.29)
間の短御方法
                                                                                                                                                                                                                                                     【公開日】 平成7年2月7日(1995.
                                                                                                                                                                                                                                                                 【公開悉号】特別平7-38686
          [発明の名称]
                                                                      【手統補正1】
                                                                                                         【手統補正数】
                                                                                                                                                                                                                 [国際特許分類第7版]
                                                                                                                                                                                                                                         【年通号数】公開特許公報7一387
                     【補正内容】
                                  【補正方法】変更
                                              【補正対象項目名】発明の名称
                                                          【植正対象也類名】明細像
                                                                                                                                                                                                                             |出願番号]|特願平5-226591
                                                                                                                                                       ¥
                                                                                                                                                                              6036 21/00
                                                                                                                                                                                                      H04N 1/00
                                                                                                                                6036 21/00
                                                                                                                                                       1/00
                                                                                                                                           106 B
                                                                                                                                                                               376
                                                                                                                                376
                                                                                                                                                                                        8
                                                                                                                                                                                                                                                     .2
                                                                                                                                                                                                                                                      2
```

[補正内容] [補正方法] 変更 [相正対象項目名] 特許開求の範囲 [補正対象審類名] 明細齊 [手続補正2] 【担出日】平成12年6月16日(2000. 6. 1 【特許請求の範囲】 複合機能装置及び複合機能装

の機能與行手段と、該複数の機能與行手段による実行機 能を設定可能な操作手段とを備える複合機能装置であっ 助的にクリアする自動クリア手段と、 ―定時間操作が行なわれないと、 数定していた機能を自 【帥求項1】 表示手段と、複数の機能を実行する複数

[請求項4]

請求項1記載の複合機能装置におい

段に自動クリアが行われたことを示す画面を表示するク 前記自動クリア手段による自動クリア実行後前記表示手

前記自動クリア手段による自動クリア実行後前記表示手 段に予め指定された股定画面を表示する股定画面表示手

うち指定された機能のみを自動初期化する選択クリアモ **期化処理するオールクリアモードと、前記複数の機能の** 前記自動クリア手段は、前記複数の機能の全てを自動初 ードとを含むことを特徴とする複合機能装置。

【精求項2】 更に、画像を画像データに変換して入力

する画像入力手段と、

通信媒体を介して他装置とファクシミリ通信するファク 画像データを可視像として出力する画像出力手段とを含 シミリ通信手段と、

フェース手段と、 他の情報処理装置と接続するためのコンピュータインタ

コード化された画像情報をピットマップデータに展開す 可能とすることを特徴とする間求項1記載の複合機能装 るプリンタフォーマッタ手段と、画像記憶手段と、 とを含む画像ファイル手段を1つまたは複数任意に付加 核画像記憶手段に記憶した画像を検索する画像検索手段

備えることを特徴とする複合機能装置。 モードとのいずれかを選択できる実行モード選択手段を 自動クリア手段によるオールクリアモードと選択クリア 【請求項3】 請求項1記載の複合機能装置において、

する複合機能装置。 を選択できる表示モード選択手段を備えることを特徴と クリア実行表示手段と設定画面表示手段ととのいずれか

【請求項5】 少なくとも原画像をコピーするコピー機 ととを有する複合機能装置であって、 と、コンピュータからの印刷データを印刷する印刷機

前記複写機能と前記印刷機能を含む複数の機能から1つ 0機能を選択する選択手段と、

前記選択手段によって選択された機能における処理モー 、を設定可能なキー人力手段と、

前記キー入力手段により設定された処理モードを記憶す

<u> 前記キー人力手段による前記処理モードの限定が一定時</u>

<u>間行われない場合に前記メモリ手段に記憶されている処理モードをクリアする自動クリア手段と、</u> 前記自動クリア手段で処理モードをクリアした後に選択

前配自動クリア手段で処理モードをクリアした数に選択されるべき機能を指定する指定手段とを備えることを特徴とする投資を指定する投資を開えることを特徴とする複合機能装置。

【創求項6】 更に、前記キー入力手段で設定された処理モードを捜す画像を表示可能な表示手段と、

が記衷示手段を制御する制御手段とを備え、 前記制御手段は、前記自動クリア手段による自動クリア 後、前記指定手段により指定されている機能における観 埋処理モードを表す画像を前記表示手段より表示させる ことを特徴とする胡求項5記載の複合機能装置。

【樹求項7<u>】 更に、前記指定手段による機能の指定を</u> 有効にするモードを選択する第2の選択手段を備えるこ とを特徴とする額求項5または6記載の複合機能装置。 【闘求項8】 複数の機能を実行可能な複合機能装置で あって、

<u> 前記複数の機能から1つの機能を選択する第1の選択手</u> 段と、

が記第1の選択手段で選択した機能における処理モードを指定可能なキー入力手段と、

が記キー入力手段による前記処理モードの指定が一定時間をされない場合に前記キー入力手段により指定された処理モードをクリアする自動クリア手段と、 前記自動クリア手段で処理モードがクリアされた後、前

|別記目期クリナ主段で処理セートのツリナされば後、NJ 記第1の選択手段で選択した機能を維持するかまたは自 動的に特定の機能を選択するかを指定する指定手段とを 顕えることを特徴する複合機能装置。

【前求項9】 複数の機能から予め前配特定の機能を選択する第2の選択手段を備えることを特徴する前求項8 記載の複合機能装置。

選択された機能を維持するか、または特定の機能を選択

するかを制御する制御ステップとを有することを特徴と

する複合機能装置の制御方法。

【樹求項10】 複数機能から1つの機能を選択する選択手段と、前記選択手段によって選択された機能における処理モードを設定するキー入力手段と、

装置が一定時間の間操作されない場合に前記キー人力手 段により設定された処理モードをクリアする自動クリア 手段と、

前記自動クリア手段で処理モードがクリアされる機能を 指定する指定手段とを備え、

前記自動クリア手段は、前記指定手段によって指定された機能が前記退択手段で選択されているか否かにかかわらず、予め前記指手段で指定された機能における処理モードを所定の提準モードに設定することを特徴とする複な体がで

【前求項 1.1】 少なくとも原画像をコピーするコピー 機能と、コンピュータからの印刷データを印刷する印刷 機能とを有し、印刷機能とコピー機能を含む複数の機能 から1つの機能を選択する選択手段と、前記選択手段に

> よって選択された機能における処理モードを設定するキー入力手段と、前記キー入力手段で設定した処理モードを記憶するメモリ手段と、一定時間前記キー入力手段の を記憶するメモリ手段と、一定時間前記キー入力手段の 入力がない場合に前記メモリ手段に記憶された処理モードをクリアするための自動クリア手段とを有する複合機能数配の制御方法であって、

予め前記自動クリア手段でクリアした後に選択される機 能を指定する指定ステップと、

前記自動クリア手段で前記メモリ手段に記憶された処理 モードがクリアされた後に前記范定ステップで指定され る機能を自動的に選択する自動選択ステップとを有する ことを特徴とする損合機能装置の制御方法。

【創求項12】 前記選択ステップで選択される機能における関節の処理モードを設す画像を設示する表示ステップを有することを特徴とする類求項11記載の複合機能装置の制御方法。

【前求項13】 複数の機能から1つの機能を選択する 選択手段と、前記選択手段によって選択された機能にあ ける処理モードを設定するキー入力手段と、一定時間、 前記選択手段で選択された機能において装置の操作がな い場合に前記キー入力手段によって設定された処理モー ドをクリアするための自動クリア手段とを有する複合機 能装置の劇御方法であって、 前記選択手段で選択した機能を排行するかまたは自動的 に特定の機能を選択するかを指定する指定ステップと、 前記目動クリア手段で処理モードがクリアされた後に、 前記目動クリア手段で処理モードがクリアされた後に、 前記目動クリア手段で処理モードがクリアされた後に、

【前求項14】 更に、予め複数の機能の中から前記検 定の機能を指定する第2の指定ステップを有することを 特徴とする請求項13記載の複合機能装置の制御方法。 【請求項15】 複数の機能から1つの機能を選択する 選択手段と、前記選択手段によって選択された機能にお ける処理モードを設定するキー入力手段と、一定時間装 置の操作がない場合に前記キー入力手段で設定された処理モードをクリアするための自動クリア手段とを有する 接合機能装置の制御方法であって、

予め前記自動クリア手段によって処理モードがクリアさ れる機能を指定する指定ステップと、

一定時間装置が操作されていない場合に、前記選択手段によって予め前記指定ステップで指定された機能が選択されたか否かに関係なく、予め前記指定ステップで指定された機能における処理モードとして標準処理モードを設定する股定ステップとを有することを特徴とする扱合機能装置の制御方法。

## This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

### **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

□ BLACK BORDERS
□ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
□ FADED TEXT OR DRAWING
□ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
□ SKEWED/SLANTED IMAGES
□ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
□ GRAY SCALE DOCUMENTS
□ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
□ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

### IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

OTHER:

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.